

**2019年度
大学院政治学研究科
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

政治学専攻	[X5000]	政治学特殊演習 1 [明田川 融] 春学期授業/Spring	1
政治学専攻	[X5001]	政治学特殊演習 2 [明田川 融] 秋学期授業/Fall	2
政治学専攻	[X5008]	行政学研究 [武藤 博己] 春学期前半/Spring(1st half)	3
政治学専攻	[X5011]	日本政治史研究 1 [明田川 融] 春学期授業/Spring	4
政治学専攻	[X5012]	日本政治史研究 2 [明田川 融] 秋学期授業/Fall	5
政治学専攻	[X5013]	政治思想史研究 1 [犬塚 元] 春学期授業/Spring	6
政治学専攻	[X5014]	政治思想史研究 2 [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	7
政治学専攻	[X5017]	公共哲学研究 1 [西村 清貴] 春学期前半/Spring(1st half)	8
政治学専攻	[X5018]	公共哲学研究 2 [渊元 初姫] 秋学期後半/Fall(2nd half)	9
政治学専攻	[X5019]	コミュニティ論研究 1 [渊元 初姫] 春学期後半/Spring(2nd half)	10
政治学専攻	[X5020]	コミュニティ論研究 2 [西谷内 博美] 秋学期前半/Fall(1st half)	11
政治学専攻	[X5025]	公共政策研究 1 [渊元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half)	12
政治学専攻	[X5026]	公共政策研究 2 [渊元 初姫] 秋学期前半/Fall(1st half)	13
政治学専攻	[X5029]	政治過程研究 1 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	14
政治学専攻	[X5030]	政治過程研究 2 [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	15
政治学専攻	[X5031]	行政理論研究 1 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half)	16
政治学専攻	[X5033]	政策学研究 1 [武藤 博己] 秋学期前半/Fall(1st half)	17
政治学専攻	[X5034]	政策学研究 2 [鄭 智允] 秋学期後半/Fall(2nd half)	18
政治学専攻	[X5042]	連帯社会とサードセクター [中村圭介、栗本昭、柏木宏] 春学期授業/Spring	19
政治学専攻	[X5043]	立法学研究 1 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half)	20
政治学専攻	[X5047]	自治体研究 1 [武藤 博己] 春学期後半/Spring(2nd half)	21
政治学専攻	[X5051]	公務員制度研究 [遠藤 宣男] 春学期前半/Spring(1st half)	22
政治学専攻	[X5056]	雇用・労働政策研究 [濱口 桂一郎] 秋学期前半/Fall(1st half)	23
政治学専攻	[X5057]	政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	24
政治学専攻	[X5058]	防災危機管理研究 [鍵屋 一] 春学期前半/Spring(1st half)	25
政治学専攻	[X5061]	ジェンダー政治研究 1 [衛藤 幹子] 春学期授業/Spring	26
政治学専攻	[X5062]	ジェンダー政治研究 2 [衛藤 幹子] 秋学期授業/Fall	27
政治学専攻	[X5063]	自治体福祉政策論 [鏡 諭] 秋学期前半/Fall(1st half)	28
政治学専攻	[X5064]	自治体議会論 [鍵屋 一] 春学期後半/Spring(2nd half)	29
政治学専攻	[X5065]	NPO論 1 [柏木 宏] 春学期前半/Spring(1st half)	30
政治学専攻	[X5066]	NPO論 2 [柏木 宏] 春学期後半/Spring(2nd half)	31
政治学専攻	[X5067]	市民社会論 [菅原 敏夫] 春学期前半/Spring(1st half)	32
政治学専攻	公共政策学専攻 [X5068]	シンクタンク論 [蒔田 純] 秋学期集中/Intensive(Fall)	33
政治学専攻	[X5072]	国際政治の基礎理論 1 [森 聡] 春学期授業/Spring	34
政治学専攻	公共政策学専攻 [X5077]	国際開発政策研究 1 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	35
政治学専攻	[X5085]	国際地域研究 1 [菱田 雅晴] 春学期授業/Spring	36
政治学専攻	[X5086]	国際地域研究 2 [菱田 雅晴] 春学期授業/Spring	37
政治学専攻	[X5091]	アメリカ外交研究 1 [森 聡] 春学期授業/Spring	38
政治学専攻	[X5092]	アメリカ外交研究 2 [森 聡] 春学期授業/Spring	39
政治学専攻	[X5093]	日中関係政策論 1 [菱田 雅晴] 秋学期授業/Fall	40
政治学専攻	[X5094]	日中関係政策論 2 [菱田 雅晴] 秋学期授業/Fall	41
政治学専攻	[X5097]	国連・平和構築研究 1 [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	42
政治学専攻	[X5098]	国連・平和構築研究 2 [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	43
政治学専攻	[X5106]	国際行政研究 1 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	44
政治学専攻	[X5202]	博士論文演習Ⅱ A [杉田 敦] 春学期授業/Spring	45
政治学専攻	[X5203]	博士論文演習Ⅱ B [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	46
政治学専攻	[X5204]	博士論文演習Ⅲ A [本多 美樹] 春学期授業/Spring	47
政治学専攻	[X5205]	博士論文演習Ⅲ B [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	48
国際政治学専攻	[X5500]	国際政治理論 [森 聡] 春学期授業/Spring	49
国際政治学専攻	[X5501]	アメリカ外交史 [森 聡] 春学期授業/Spring	50
国際政治学専攻	[X5506]	アジア国際政治史 [福田 円] 春学期授業/Spring	51
国際政治学専攻	[X5507]	国際公共政策研究 1 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	52
国際政治学専攻	[X5508]	国際公共政策研究 2 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	53

国際政治学専攻	[X5509]	国際協力政策研究1 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	54
国際政治学専攻	[X5511]	非伝統的安全保障研究 [本多 美樹] 春学期授業/Spring	55
国際政治学専攻	[X5512]	Academic Reading (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	56
国際政治学専攻	[X5513]	Academic Reading (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	57
国際政治学専攻	[X5514]	Thesis Writing (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	58
国際政治学専攻	[X5515]	Thesis Writing (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	59
国際政治学専攻	[X5516]	Presentation & Debate (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	60
国際政治学専攻	[X5517]	Presentation & Debate (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	61
国際政治学専攻	[X5518]	国連・平和構築研究1 (国連組織) [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	62
国際政治学専攻	[X5519]	国連・平和構築研究2 (平和構築) [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	63
国際政治学専攻	[X5520]	国際公共調達研究1 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	64
国際政治学専攻	[X5521]	国際公共調達研究2 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	65
国際政治学専攻	[X5522]	地球環境政治論 [横田 匡紀] 秋学期授業/Fall	66
国際政治学専攻	[X5523]	持続可能な開発のための教育 (ESD) [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	67
国際政治学専攻	[X5527]	国際食糧資源エネルギー政策 [柴田 明夫] 秋学期授業/Fall	68
国際政治学専攻	[X5528]	グローバル・ビジネス研究 [瀧澤 道夫] 春学期授業/Spring	69
国際政治学専攻	[X5531]	地球規模課題政策研究 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	70
国際政治学専攻	[X5533]	アジア統合論 [福田 円] 秋学期授業/Fall	71
国際政治学専攻	[X5535]	戦略と政策 [森 聡] 春学期授業/Spring	72
国際政治学専攻	[X5536]	アメリカの対外政策 [森 聡] 春学期授業/Spring	73
国際政治学専攻	[X5537]	対外政策研究 (中国) (1) [菱田 雅晴] 秋学期授業/Fall	74
国際政治学専攻	[X5538]	対外政策研究 (中国) (2) [菱田 雅晴] 秋学期授業/Fall	75
国際政治学専攻	[X5541]	ロシア政治外交研究1 [溝口 修平] 春学期授業/Spring	76
国際政治学専攻	[X5542]	ロシア政治外交研究2 [溝口 修平] 秋学期授業/Fall	77
国際政治学専攻	[X5543]	国際地域研究 (中国) (1) [菱田 雅晴] 春学期授業/Spring	78
国際政治学専攻	[X5544]	国際地域研究 (中国) (2) [菱田 雅晴] 春学期授業/Spring	79
国際政治学専攻	[X5545]	国際地域研究 (朝鮮半島) (1) [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	80
国際政治学専攻	[X5546]	国際地域研究 (朝鮮半島) (2) [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	81
国際政治学専攻	[X5547]	国際地域研究 (ロシア・中央アジア) (1) [片桐 俊浩] 春学期授業/Spring	82
国際政治学専攻	[X5548]	国際地域研究 (ロシア・中央アジア) (2) [片桐 俊浩] 秋学期授業/Fall	83
国際政治学専攻	[X5549]	国際地域研究 (東南アジア) (1) [浅見 靖仁] 春学期授業/Spring	84
国際政治学専攻	[X5550]	国際地域研究 (東南アジア) (2) [浅見 靖仁] 秋学期授業/Fall	85
国際政治学専攻	[X5551]	国際地域研究 (ヨーロッパ) (1) [宮下 雄一郎] 春学期授業/Spring	86
国際政治学専攻	[X5552]	国際地域研究 (ヨーロッパ) (2) [宮下 雄一郎] 秋学期授業/Fall	87
国際政治学専攻	[X5553]	日本政治外交研究1 [高橋 和宏] 春学期授業/Spring	88
国際政治学専攻	[X5554]	日本政治外交研究2 [高橋 和宏] 秋学期授業/Fall	89
国際政治学専攻	[X5555]	グローバル政治経済特別セミナー [福田 円] 秋学期集中/Intensive(Fall)	90
国際政治学専攻	[X5556]	開発援助運営論: JICA 講座 [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	92
国際政治学専攻	[X5558]	総合講座・外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	93

POL600A3

政治学特殊演習 1

明田川 融

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習 1 および 2 は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。1 は春学期に開講される。

【到達目標】

最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士 1 年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士 2 年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習 1 は、7 月初旬に行なう論文構想発表会が大きな軸となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	論文執筆の心構え	コースワークとは独自にどのように論文を準備していったらよいかを考える。
2	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方について習熟する。
3	研究テーマと論文構想	自分なりの研究テーマを確定し、どんな論文を書いていくかを考える。
4	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
5	主要文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて主要文献ないし重要資料とされているものを読み解く。
6	論文構想づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
7	論文構想発表会	それぞれ構想していることについて報告してもらい、全教員による指導を行なう。
8	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要ときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想発表会での出席と報告、期末の提出物により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Seminar on politics 1 is a subject that gives students the scope, method, and skills to write masters dissertations. Seminar 1 will be offered by academic advisers and all other members of the major course of politics, and held during the spring semester.

POL600A3

政治学特殊演習 2

明田川 融

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習 1 および 2 は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。2 は秋学期に開講される。

【到達目標】

最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士 1 年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士 2 年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習 2 は、12 月初旬に行なう論文構想発表会が大きな軸となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	論文テーマの確定	秋学期のはじめには修士 2 年はもちろん、修士 1 年の院生もなるべく論文の大まかなテーマは決めるようにしたい。
2	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
3	文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて必要な文献ないし重要資料を読み解く。
4	論文構想の彫琢	書こうとしている論文についてのレジュメを作成してみる。特に修士 2 年生は詳しいレジュメを作る。
5	論文執筆開始	書きやすいところから実際に論文を書き進めていく。
6	論文構想発表会資料づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
7	論文構想発表会	それぞれ構想していることについて報告してもらい、全教員による指導を行なう。
8	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要ときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想発表会での出席と報告、期末の提出物により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Seminar on politics 2 is a subject that gives students the scope, method, and skills to write masters dissertations. Seminar 2 will be offered by academic advisers and all other members of the major course of politics, and held during the autumn semester.

POL500A3

行政学研究

武藤 博己

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学の基礎を学ぶ。

行政学は、行政の構造や組織、その作動メカニズム、人的資源の管理、政策過程、行政責任等を理解するための学問である。この講義に続く2期の地方自治論、3期は政策過程研究、4期は政策過程事例研究を受講することによって、行政学の基礎から応用までを学ぶことができる。

【到達目標】

- ① 国民・住民の生活の多くの側面において重要なサービスを提供する政府（国・自治体）の行政について、修士論文を執筆するための不可欠な基礎知識として、日本における行政の構造と動作メカニズムを理解する。
- ② 現代行政の重要な役割は公共サービスの提供であるが、そこにおける行政の課題を明らかにし、その解決方法を探るための考察を行うことができるようにする。
- ③ 自分の研究テーマに関連して必要な行政に関する専門的知識を獲得し、修士論文に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「行政学研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。

サステナビリティ学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

連帯社会インスティテュート「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式の授業として進めていくが、どのような問題の解決を意図して政策がつくれるのか（政策形成論）、解決のための手段は何か（問題解決手法）、財源や人材は確保されているのか（行財政管理論）、何が実施されたのか（政策実施論）、当初の問題は解決されたのか（政策評価論）、という行政のプロセスに即して、様々な考察と議論を行い、修士論文を執筆するための柔軟性・総合性・具体的問題解決能力を高めるような方法を進めていく。

毎回、授業内で質問をするので、その回答を配布されるコメント票に記入し、またその他の質問や説明に関する質問を記入し、終了時に提出する。

講義を中心として進めるが、学生による報告および討論を含めながら、授業を進めていく予定である。毎回、レジュメを配布し、パワーポイントを用いて、理解しやすいように講義するが、質問や疑問点がある場合には、コメント票に記入してほしい。

なお、参加者は、テキスト『ホーンブック基礎行政学』の7・8章を除く8章の中から1章を選んで、その章における重要と思われる論点をいくつか取り出し、箇条書きにして、チャプター・レポートを提出すること。詳しくは、授業時に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	①-1 / オリエンテーション、全体の概要 『ホーンブック基礎行政学』序章、配布資料①-1	行政学とは何かを概説し、全体の構成について説明する。
第2回	①-2 / 行政史行政（国・自治体）の歴史、配布資料①-2	国・自治体の行政の歴史について概要を説明する。
第3回	②-3 / 政策過程（1）、『ホーンブック基礎行政学』第3章、配布資料②-3	政策過程について、全体的に説明し、8つのプロセス毎に詳しく解説する。
第4回	②-4 / 政策過程（2）、内閣制度（戦前）、『ホーンブック基礎行政学』第3章、配布資料②-4	政策過程の評価について、考察する。
第5回	③-5 / 行政組織（1）、内閣制度（戦前）／『ホーンブック基礎行政学』第4章、配布資料③-5	行政組織について説明し、執政組織、戦前の内閣制度について解説する。
第6回	③-6 / 行政組織（2）、『ホーンブック基礎行政学』第4章、配布資料③-6	戦後の内閣制度について解説する。

第7回	④-7 / 行政官僚制の人的資源（1）『ホーンブック基礎行政学』第5章、配布資料④-7	官僚制の人的資源である公務員制度について、戦前の改革とその後の展開、今日における改革の現状について解説する。
第8回	④-8 / 行政官僚制の人的資源（2）『ホーンブック基礎行政学』第5章、配布資料④-8	官僚制の人的資源である公務員制度について、戦後の改革とその後の展開、今日における改革の現状について解説する。
第9回	⑤-9 / 行政官僚制の意思決定システム（1）『ホーンブック基礎行政学』第6章、配布資料⑤-9	意思決定について理論的に説明する。
第10回	⑤-10 / 行政官僚制の意思決定システム（2）『ホーンブック基礎行政学』第6章、配布資料⑤-10	日本の行政における特徴的な意思決定を解説する。
第11回	⑥-11 / 公共サービス論『ホーンブック基礎行政学』第9章、配布資料⑥-11	公共サービスとは何かについて説明し、公共サービスの社会管理について解説する。
第12回	⑥-12 / 行政責任・行政統制『ホーンブック基礎行政学』第10章、配布資料⑥-12	行政責任論・統制論について説明する。
第13回	⑦-13 / 官僚制理論の展開『ホーンブック基礎行政学』第2章、配布資料⑦-13	官僚制理論の展開について説明する。
第14回	⑦-14 / 行政学の理論展開『ホーンブック基礎行政学』第1章、配布資料⑦-14	行政学説史について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストのタイトルには、「基礎」という文字が入っているが、「基礎」とは理解が容易という意味ではない。上にも書いたが、チャプター・レポートの提出があるので、事前に教科書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

武藤博己他、『ホーンブック基礎行政学』（改訂版）、北樹出版、2015年

【参考書】

- ・武藤博己編著、『公共サービス改革の本質』、敬文堂、2014年
- ・武藤博己、『道路行政』、東京大学出版会、2008年
- ・武藤博己、『入札改革』、岩波新書、2003年
- その他、参考文献については、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時における発言、コメント票の記入内容（30%）、チャプター・レポート（20%）、期末レポート（50%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

『ホーンブック基礎行政学』を素材として、議論するための論点の提案を分担（チャプターレポートの提出）してもらいます。第1回目で分担を決めます。期末レポートは、チャプター・レポートで取り上げられた論点について、あるいはそれら以外の論点を含めて、論点1つを取り上げ、それについて自分の意見を中心に論述し、字数は2000字以内で、6月12日（水）24:00までに、メールで期末レポートとして提出して下さい。メール・アドレスは、muto@hosei.ac.jpです。@は全角になっています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、政策研究
<研究テーマ>現代社会における行政と公共サービス
<主要研究業績>『公共サービス改革の本質』、敬文堂、2014年
『東アジアの公務員制度』、法政大学出版局、2013年
『入札改革』、岩波書店、2003年
『道路行政』、東京大学出版会、2008年

【Outline and objectives】

To study the basic of Public Administration: structure and organization of government, mechanism of its operation, management of human resources, policy process, administrative responsibility and accountability, etc. The following course of this basic of public administration is the local government, and the next is the study of policy process and the case studies of policy process. Graduate students can understand public administration totally by these 4 courses.

POL500A3

日本政治史研究 1

明田川 融

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後を扱った日本政治史において、一見して意外に思われるのが、沖縄・昭和天皇・安保を含む日米関係の連関である。そして、その生成および展開過程についての検証や考察が充分になされてきたとは言い難い。本授業では、当該期の日本を取り巻く国際環境や日本が置かれた地理的条件なども関連づけながら、戦後日本政治史においてあまり取りあげられてこなかった未解明の領域について知見を深め拡げていきたい。そのような作業は「昭和」の終焉から 30 年が経ち、平成も終わろうとする今日、不可欠と考える。当該機にかかわる新発見史料、研究論文、文献の精読を踏まえたくうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

これまで、第二次大戦後を扱った日本政治史研究において最も欠落していたのは、沖縄および昭和天皇という、じつは密接な連関をもつ二つのファクターを十分に分析し、定位するという作業であった。本授業では、近年公開された沖縄をめぐる日米両政府の公文書や『昭和天皇実録』なども読み込みながら、戦後日本政治史についての知見をより深め、拡げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「日本政治史研究 1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「日本政治史研究」においては、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストとしては、当該問題をほぼ独力で掘り深めてきた豊下楯彦氏の『安保条約の成立』『昭和天皇・マッカーサー会見』『昭和天皇の戦後日本』や吉次公介氏の「知られざる日米安保体制の“守護者”」などを読み、議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講和・安保交渉の準備過程	『安保条約の成立』第 1 章の精読と同章をめぐる議論
第 2 回	「池田ミッション」と吉田外交の展開	同上書第 2 および第 4 章の精読と同章をめぐる議論
第 3 回	日米交渉の帰結	同上書第 3 章の精読と同章をめぐる議論
第 4 回	天皇・マッカーサー会見 (1)	同上書第 5 章の精読と同章をめぐる議論
第 5 回	天皇・マッカーサー会見 (2)	『昭和天皇・マッカーサー会見』第 1 章の精読と同章をめぐる議論
第 6 回	昭和天皇にとっての危機 (1)	『昭和天皇の戦後日本』第 1 部の精読と議論
第 7 回	昭和天皇にとっての危機 (2)	『昭和天皇の戦後日本』第 2 部の精読と議論
第 8 回	「松井文書」を読み解く	『昭和天皇・マッカーサー会見』第 3 章の精読と同章をめぐる議論
第 9 回	いわゆる天皇メッセージと日米交渉	『安保条約の成立』第 6 章の精読と同章をめぐる議論
第 10 回	「二重外交」	同上書第 7 章の精読と同章をめぐる議論
第 11 回	「安保国体」の成立	『昭和天皇の戦後日本』第 2 部の精読と議論
第 12 回	「知られざる日米安保体制の“守護者” (1)	吉次論文の精読と同論文をめぐる議論
第 13 回	「知られざる日米安保体制の“守護者” (2)	同上
第 14 回	「憲法・安保体制」のゆえ	『昭和天皇の戦後日本』第 3 部の精読と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施日までにテキストの当該箇所を精読しておき、問題点や質問事項を整理しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

豊下楯彦『安保条約の成立—吉田外交と天皇外交—』岩波書店、1996 年。
 同上 『昭和天皇・マッカーサー会見』岩波書店、2008 年。
 同上 『昭和天皇の戦後日本—（憲法・安保体制）にいたる道—』岩波書店、2015 年。
 吉次公介「知られざる日米安保体制の“守護者”—昭和天皇と冷戦—」『世界』第 755 号所収。

【参考書】

古川隆久『昭和天皇—「理性の君主」の孤独—』中央公論新社、2011 年。
 宮内庁『昭和天皇実録 第九』東京書籍、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100 %）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：日本政治外交史
 研究テーマ：米軍基地および日米地位協定をめぐる日米外交、核兵器をめぐる「国民感情」の歴史、など。
 主要研究業績：『日米行政協定の政治史』（法政大学出版局、1999 年）、『沖縄基地問題の歴史』（みすず書房、2008 年）、『日米地位協定』（同前、2017 年）、および「核兵器と『国民の特殊な感情』」（雑誌『みすず』に不定期連載）。

【Outline and objectives】

Political history of Japan 1 is an essay to clarify the relation among Okinawa, Showa emperor and U.S.-Japan security arrangements. At a glance, students feel storage about the relation of the three. But recent years, some historical materials were discovered and have shown the evidences of the relation. Today—30 years after the Showa period— it is essential for us to examine newly found historical fact.

POL500A3

日本政治史研究2

明田川 融

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後、日本政府は外交機軸を日米関係、とりわけ安全保障について日米安保体制—1980年頃をさかんに日米同盟という呼び方がよく使われるようになったが—に置いてきた。同体制の根幹にあるのは日本における米国の軍事的プレゼンスの拠点＝米軍基地である。その基地提供に関わって制度化されている事前協議と日米地位協定をめぐる歴史を、近年公開された日米の外交記録、先行研究論文・文献を読み込みながら、さらに、国際環境や地理的条件なども関連づけつつ、明らかにしてゆく。学生の積極的な議論参加も授業の活性化に不可欠となる。

【到達目標】

第二次大戦後、日米両政府が外交の基軸としてきた日米安保体制—近年では日米「同盟」という呼称のほうが一般的なようだが—の生成および展開の過程と、とくに安保条約第6条の実施に関する公文（事前協議）と日米地位協定という二つの取り決めを中心に跡づけ、戦後日本政治史に対する知見を養い、深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストとして豊田祐基『日米安保と事前協議制度』ならびに拙著『日米地位協定』（それら文献の詳細な書誌データは下記の「テキスト（教科書）」欄を参照のこと）などを読み、議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	事前協議制度とは何か	核持ち込みと域外出撃行動について制度の概要を解説する
第2回	事前協議制度導入の背景	1950年代の政治状況と制度導入の背景を跡づける
第3回	安保改定と事前協議制度	60年安保改定における制度導入交渉を検証する
第4回	「あいまい合意」の形成	60年代の核持ち込みをめぐる日米関係について概説する
第5回	沖縄施政権返還と事前協議制度	いわゆる緊急時沖縄核再持ち込み密約交渉を検討する
第6回	事前協議回避の制度化	事前協議制度回避の「制度化」過程を跡づける
第7回	事前協議制度の役割	日米関係にとって事前協議制度とは何であったのかを考察する
第8回	なぜ「核の傘」「核密約」か	北東アジア情勢を踏まえつつ、この問いの意義を検討する
第9回	「核の傘」の構築過程	米国の核戦略と「核の傘」の構築過程について概説する
第10回	「密約」と「非核」の内実	日本の非核政策を、2つの「核密約」の視座から検討する
第11回	日米地位協定における基地設定方式	いわゆる「全土基地方式」について概説する
第12回	地位協定における排他的管理権	同管理権の生成・展開過程について概説する
第13回	刑事裁判権問題	地位協定第17条をめぐる政治過程について概説する
第14回	「思いやり予算」日米合同委員会、協定改定	これらの何が争点なのかを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施日までにテキストの当該箇所を精読しておき、問題点や質問事項を整理しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

豊田祐基『日米安保と事前協議制度—「対等性」の維持装置—』吉川弘文館、2015年。拙著『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。

【参考書】

太田昌克『日米「核密約」の全貌』筑摩書房、2011年。琉球新報社編『日米地位協定の考え方—外務省機密文書—』高文研、2004年。吉田敏浩『日米合同委員会』の研究—謎の権力構造の正体に迫る—』創元社、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100%）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：日本政治外交史

研究テーマ：米軍基地および日米地位協定をめぐる日米外交、核兵器をめぐる「国民感情」の歴史、など。

主要研究業績：『日米行政協定の政治史』（法政大学出版局、1999年）、『沖縄基地問題の歴史』（みすず書房、2008年）、『日米地位協定』（同前、2017年）、および「核兵器と『国民の特殊な感情』」（雑誌『みすず』に不定期連載）。

【Outline and objectives】

After the World War II, the Japanese government has had stable footing on the U.S.-Japan security arrangements. U.S. military base system has been the basis of the arrangements. In Political history of Japan 2, we consider and discuss the prior consultation formula (Jizen-Kyogi-Seido) and the U.S.-Japan Status of Forces Agreement (Nichibei-Chii-Kyotei) concerning the U.S. base system. In this class, students have to read massive articles, materials, and literatures. Energetic students will be welcomed.

POL500A3

政治思想史研究 1

犬塚 元

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治思想・政治理論研究の基礎知識を修得する。政治思想・政治理論分野における入門レベルの授業である。

【到達目標】

(1) 英語で書かれた学術論文を正確に読解・理解する。(2) 政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1 (1)
第3回	文献読解	文献1 (2)
第4回	文献読解	文献1 (3)
第5回	文献読解	文献1 (4)
第6回	文献読解	文献2 (1)
第7回	文献読解	文献2 (2)
第8回	文献読解	文献2 (3)
第9回	文献読解	文献2 (4)
第10回	文献読解	文献3 (1)
第11回	文献読解	文献3 (2)
第12回	文献読解	文献3 (3)
第13回	文献読解	文献3 (4)
第14回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習が必要である。

【テキスト（教科書）】

The Oxford Handbook of Political Theory (2008)、The Oxford Handbook of the History of Political Philosophy (2013)、The Oxford Handbook of Political Philosophy (2016) などから、受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定します。

【参考書】

テキストの文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100 点)。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治学史・政治思想史

<研究テーマ> ヨーロッパ政治思想史

<主要研究業績>

『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014 など

【Outline and objectives】

An introduction to classical and contemporary political theories

POL500A3

政治思想史研究2

犬塚 元

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治思想・政治理論研究の基礎知識を修得する。政治思想・政治理論分野における入門レベルの授業である。

【到達目標】

(1) 英語で書かれた学術論文を正確に読解・理解する。(2) 政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1 (1)
第3回	文献読解	文献1 (2)
第4回	文献読解	文献1 (3)
第5回	文献読解	文献1 (4)
第6回	文献読解	文献2 (1)
第7回	文献読解	文献2 (2)
第8回	文献読解	文献2 (3)
第9回	文献読解	文献2 (4)
第10回	文献読解	文献3 (1)
第11回	文献読解	文献3 (2)
第12回	文献読解	文献3 (3)
第13回	文献読解	文献3 (4)
第14回	まとめ	後期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習が必要である。

【テキスト（教科書）】

The Oxford Handbook of Political Theory (2008)、The Oxford Handbook of the History of Political Philosophy (2013)、The Oxford Handbook of Political Philosophy (2016) などから、受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定します。

【参考書】

テキストの文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100 点)。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学史・政治思想史

<研究テーマ>ヨーロッパ政治思想史

<主要研究業績>

『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014 など

【Outline and objectives】

An introduction to history of political thought.

POL500A3

公共哲学研究 1

西村 清貴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念の歴史的由来と、現代公共哲学における意義を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

「公共性」、「市民社会」といった公共哲学における基本的概念、そして「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学において重要な諸概念の思想的意義について理解したうえで、現代の代表的公共哲学において、これらの諸概念にどのような意義が与えられているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「公共哲学研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

サステナビリティ学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究科の「公共哲学基礎」と政治学研究科の「公共哲学研究 I」とを合併開講する。講義を行うほか、文献を講読する。

講義については、「国家」、「共同体」、「個人」、「市場」といった公共哲学にとって重要と思われる諸概念が生成されるにあたり大きく貢献した思想家を取り扱う。

文献購読については、ユルゲン・ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』を通読し、各参加者に割り振られた箇所について報告してもらう。本書は、今日の公共哲学における「公共性」という概念の意義を示した最も基礎的な文献であるが、それほど読みやすい文献ではない。だからこそ、ゼミでしっかりと購読していきたい。

本講義は、2コマ続きを8回行う4期制の科目であるが、以下の「授業計画」では、1コマずつ記載している。初日と最終日を除いて、1コマ目が講義、2コマ目が文献購読、というように進める予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回 (1日目前半)	イントロダクション	講義の目的や内容について説明する
第2回 (1日目後半)	政治社会の成立	古代や中世において政治がいかなる営みであったかを見る
第3回 (2日目前半)	カントにおける啓蒙と公共性	公共哲学において頻繁に取り上げられる「理性の公共的使用」という用語法を中心にカントの思想を見る
第4回 (2日目後半)	文献購読	テキスト1章
第5回 (3日目前半)	アダム・スミスと市場	しばしば公共性と対立する概念として取り上げられる市場という概念についてアダム・スミスを中心として見る
第6回 (3日目後半)	文献購読	テキスト2章
第7回 (4日目前半)	ヘーゲルと市民社会／国家	近代的な意味での市民社会と国家との峻別を確立したヘーゲルの思想を見る
第8回 (4日目後半)	文献購読	テキスト3章
第9回 (5日目前半)	ハンナ・アレントと公共性	今日の公共哲学において最も著名な論者の一人であるハンナ・アレントの公共性論を『人間の条件』を中心にみる
第10回 (5日目後半)	文献購読	テキスト4章
第11回 (6日目前半)	ハーバーマスと公共性	「公共性の構造転換」以後のハーバーマスの議論を見る

第12回 文献購読 テキスト5章

(6日目後半)

第13回 文献購読 テキスト6章

(7日目前半)

第14回 文献購読 テキスト第7章、2版への序文

(7日目後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、報告者であるにもかかわらず、テキストの該当箇所を事前に読んでおき、授業における発言についてあらかじめ考えておくこと。また、学期末レポートを提出してもらうので、担当教員への確認を含めてそのために必要な準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

ユルゲン・ハーバーマス『公共性の構造転換 第2版』（未來社、1994年）、4104円（税込）

【参考書】

平井亮輔／若松良樹／服部高宏／那須耕介『正義—現代社会の公共哲学を求めて』（嵯峨野書院、2004年）。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50パーセント、報告40パーセント、その他授業への貢献度（討論等）10パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 法思想史・法哲学

<研究テーマ> 19世紀ドイツ法思想

<主要研究業績> 西村清貴『近代ドイツの法と国制』（成文堂、2017年）

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the historical origins of basic concepts in public philosophy such as "publicness" and "civil society" and their significance in contemporary public philosophy.

POL500A3

公共哲学研究2

淵元 初姫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の「公共哲学研究」と政治学研究科の「公共哲学研究2」とを合併開講する。政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目である。「公共」ほかいくつかの基礎的な概念について、その原理的な内容、歴史、背景となっている社会構造や政策的方向性などについて、一定の理解を獲得するために、若干の基礎的な理論枠組を講義形式で確認した上で、主として文献講義を行う。

【到達目標】

目前の政策研究の対象としては近年「新しい公共」という政策用語が流行しているが、より広い原理的な見地から「公共」というものを発想できるようにしたい。そのために、基本的理解を助ける講義を行うほか、やや難解と思われる文献を講読するので、これの各章の内容をおおむね理解できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「公共哲学研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「公共哲学研究」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

やや難解と思われる文献の講義を行なうが、どの文献を選択するかは、受講者のニーズを考慮して決めるのが適切であると考え。そこで、以下の授業計画では、仮に文献として、ロバート・パットナムの『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』を取り上げるとした場合の予定を記入している。文献講読の進め方をイメージする上で参考にしていただきたい。受講者の希望に応じて文献を変更する場合、下記の授業計画は全く異なった進行になる。原則として授業では、受講者がそれぞれ章ごとにレジュメを作成し、各授業ではその報告に基づいて文献の検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第1回	導入的講義	現代日本の「公共」言説の特徴の確認を行う。
第2回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第1章	「はじめに－制度パフォーマンスの研究」
第3回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第2章	「ルールの変更－制度発展の20年」
第4回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第3章	「制度パフォーマンスを測定する」
第5回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第4章	「制度パフォーマンスを説明する」
第6回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第5章	「市民共同体の起源を探る」
第7回	文献講読：ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』第6章	「社会資本と制度の成功」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に精読してください。授業の後は、その内容について復習を行ってください。文献の内容報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

ロバート・パットナム『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』（NTT出版）を文献講読の対象として仮置きしますが、第一回目の授業で受講者と相談の上、文献を変更することもあり得ます。受講希望者は、どんな文献を読みたいかを考えておいてください。

【参考書】

上記のほか、リチャード・セネット『公共性の喪失』（晶文社）、ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫）などは、難解ながら基本文献として推奨されます。そのほかの参考書は、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

【Outline and objectives】

The course draws upon the developing international literature on public philosophy from Western Europe and North America. Reading materials will be selected in agreement with participants.

POL500A3

コミュニティ論研究 1

淵元 初姫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の「市民社会とコミュニティ」と政治学研究科の「コミュニティ論研究 1」との合併開講で、地域コミュニティに関する政策論を学ぶための科目の一つとして設置されている。本科目ではコミュニティ・レベルで展開している諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。

【到達目標】

日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動する NPO などについて理解し、その現代的、日本の特徴を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「コミュニティ論研究 1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「市民社会とコミュニティ」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の変容とコミュニティ	福祉国家の形成と変容に伴い、人との間の「つながり」がどのように変化してきたかを論ずる。
第 2 回	市民社会の概念史	日本人の市民社会意識を考えるため、市民社会の概念史を確認する。
第 3 回	都市化とコミュニティ	都市の発展により、コミュニティにおけるネットワークがどのように変化したかを考える。
第 4 回前 半	日本における自治会・町内会	自治会・町内会の基本的特質と歴史を論ずる。
第 4 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、日本の自治会・町内会に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 5 回前 半	スコットランドの住民組織	スコットランドの地域評議会について説明する。
第 5 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、各国の住民組織に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 6 回前 半	コミュニティにおける「居場所」づくり	近年活発に取り組まれているサロン活動、コミュニティ・カフェなどの事例を検討する。
第 6 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティにおける居場所作りに関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 7 回前 半	コミュニティの「再生」	現代におけるコミュニティの「再生」について事例に基づいて検討を行う。
第 7 回後 半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティの「再生」に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。

課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

市民社会やコミュニティに対する受講生の分析視角が多様であり、その多様性を理解するためにも相互に議論する機会をより多く設けることが必要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田は彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

【Outline and objectives】

Community governance in many countries has gone through great transformations in the last half century. The course seeks to provide an understanding of these changes in community policy and why they have come about. The course analyses the ideological and political factors which have shaped the development of civil society in industrial countries in the past and are shaping it in the present.

POL500A3

コミュニティ論研究2

西谷内 博美

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティの制度について、それを捉える視点を獲得し、事例に即して諸制度を考察することができるようになる。第一に、コミュニティを地域的まとまりとして捉えたいうえで、その機能を高めうるしくみ、すなわちコミュニティの制度についての基礎的概念を共有する。第二に、共有した概念を用い、一定の分析軸に沿って様々なコミュニティの制度を考察し、制度の多様性や課題等を事例に即して探究する。

【到達目標】

コミュニティを有機的な地域的まとまりとして捉えることができる。コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「コミュニティ論研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「コミュニティ制度論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

おおそ、講義が2/3、受講生による課題発表が1/3程度となります。講義は、think-pair-share等アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回前半	コミュニティの機能	コミュニティの再生や活性化がなぜ必要なのか。コミュニティの機能について考察する。
第1回後半	地域的まとまり論	地域的まとまり論に依拠し、当授業における「コミュニティ」の定義を共有する。
第2回前半	分析軸の共有と課題の提示	地域的まとまり論に即して、様々なコミュニティの制度を比較的に考察するための分析軸を共有する。
第2回後半	インドのコミュニティ制度Ⅰ農村	課題のデモンストレーションとして、インドにおけるコミュニティの制度について2回に分けて考察する。1回目は農村部における制度について。
第3回前半	コミュニティの多様性	前近代の村落共同体から現代の「コミュニティ」への変遷を概観し、日本および世界におけるコミュニティの多様性について理解を深める。
第3回後半	インドのコミュニティ制度Ⅱ都市	第2回後半に引き続き、インドの事例について考察する。第3回後半は都市部におけるコミュニティ政策について。
第4回前半	合併後の地域運営制度	市町村合併のあとに、身近な地域的まとまりの運営組織がいかに保障されるのか、その諸類型を概観する。
第4回後半	受講生による課題報告	授業内で共有した分析軸に沿って、受講生が任意のコミュニティの制度について報告し、質疑応答を行う。
第5回前半	日本におけるコミュニティの制度の変遷	合併後の放置、自治会町内会の発展、コミュニティ政策の要請と変容等、日本におけるコミュニティの制度の変遷を概観する。
第5回後半	受講生による課題報告	授業内で共有した分析軸に沿って、受講生が任意のコミュニティの制度について報告し、質疑応答を行う。
第6回前半	特徴的な諸実践	課税（宮崎市）や公選（上越市）等、特徴的な制度化の事例についての議論を概観する。
第6回後半	受講生による課題報告	授業内で共有した分析軸に沿って、受講生が任意のコミュニティの制度について報告し、質疑応答を行う。
第7回前半	受講生による課題報告	授業内で共有した分析軸に沿って、受講生が任意のコミュニティの制度について報告し、質疑応答を行う。

第7回後半 諸事例のふりかえり
半

授業内で共有した諸事例を分類しながらふりかえることで、コミュニティの制度についての分析的視点を定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し理解しておくこと。とくに第1回と第2回の課題に関する内容については、参考文献にあたり、しっかり理解を深めてください。また、各自、課題報告のための準備（調査、資料作成、報告の練習）を行ってまいります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

名和田は彦編、2009、『コミュニティの自治』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（レポートを含む）70%、授業内での討論・発言30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、コミュニティ論、国際協力論
<研究テーマ>廃棄物管理、開発と社会
<主要研究業績>

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

2011『デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策』『国際開発研究』67-80。

【Outline and objectives】

This course investigates the practices of community policy. First, we will consider and share some basic concepts and ideas about community and community policy. Second, this course asks students to study specific practices focused on the concepts we would have shared. By sharing the various cases, we will explore the varieties of communities and community policies.

POL500A3

公共政策研究 1

淵元 初姫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「公共政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「政策学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。

サステナビリティ学専攻「政策学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

連帯社会インスティテュート「政策学基礎」においてはディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第2回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第3回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第4回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第5回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第6回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策をめぐる価値の対立	政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

【Outline and objectives】

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience.

POL500A3

公共政策研究2

淵元 初姫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるよう、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

【到達目標】

政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「公共政策研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「政策学研究」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人に関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第2回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第3回	政策研究におけるモデルの基礎1	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第4回	政策研究におけるモデルの基礎2	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第5回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第6回	政策決定と制度・利益・アイデア	政策決定における3つの「I」について学ぶ。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と3つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	アリソンの3つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための3つの概念レンズから学ぶ。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの3つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第12回	政策とデータ	政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。
第13回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

＜研究テーマ＞ ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

＜主要研究業績＞

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

【Outline and objectives】

We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored.

POL500A3

政治過程研究 1

山口 二郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解する。

【到達目標】

日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「政治課程研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

連帯社会インスティテュート「政治学概論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を系統的に行う。随時、受講者との討論も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第2回	1 政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第3回	1 政治とは何か2	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第4回	1 市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第5回	2 政治に参加するということ	政治参加と民主主義を論じる。
第6回	2 政治に参加するということ	多数決と民主主義の関係について考える。
第7回	3 人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第8回	4 民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第9回	4 民主政治の理念とは何か2	政治における自由と平等について考える。
第10回	4 民主政治の理念とは何か3	政治における共同体と国家について考える。
第11回	5 民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第12回	5 民主政治の基本的な原理と構成2	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第13回	6 政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする。
第14回	7 民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日、新聞を読み、政治の動きと講義を照らし合わせて、自分なりの説明を試みる。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 今を生きるための政治学 岩波書店

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %

期末レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、行政学

<研究テーマ>現代日本の政策過程、政官関係

<主要研究業績>

内閣制度（東京大学出版会、2007年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012年）

【Outline and objectives】

This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.

POL500A3

政治過程研究 2

山口 二郎

【Outline and objectives】

This seminar aims at discussing various challenges that modern democracies are facing in many advanced countries. Major topics will be contradiction between global capitalism and democracy, populism and deterioration of political leadership.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代民主政治を脅かす様々な問題、グローバル資本主義と民主主義の矛盾、メディアの発達とステレオタイプの支配、ポピュリズムとリーダーシップの劣化などの問題について、毎回課題図書を購入しながら、考察を深める

【到達目標】

現代民主主義に関する洞察力を持つこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

現代民主政治に関する重要な文献の講読を通して、議論、考察を深める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代民主政治概論	現代の先進民主主義が直面する問題を解説する
第 2 回	文献講読 1-1	宇沢弘文「社会的共通資本」序章から第 2 章 商品化の圧力に対して公共世界をいかに擁護するかを考える。
第 3 回	文献講読 1-2	社会的共通資本 第 3 章から第 5 章 社会保障と教育をいかに擁護するか
第 4 回	文献講読 1-3	社会的共通資本 第 6 章から第 7 章 グローバル資本主義と金融、環境の在り方を考える
第 5 回	文献講読 2-1	リップマン「世論」 第 1 部、第 2 部 現代世界とメディア役割について考える。
第 6 回	文献講読 2-2	世論 第 3 部、第 4 部 ステレオタイプについて考える
第 7 回	文献講読 2-3	世論 第 5 部、第 6 部、第 7 部 民主政治とニュースについて考える
第 8 回	文献講読 2-4	世論 第 8 部 第 9 部 健全な世論に基づく民主主義は可能か考える
第 9 回	文献講読 3-1	薬師院仁志「ポピュリズム」序章 第 1 章 民主主義とポピュリズムの関係を考える
第 10 回	文献講読 3-2	ポピュリズム 第 2 章、第 3 章 民主主義の病理とデマゴグについて考える
第 11 回	文献講読 3-3	ポピュリズム 第 4 章、第 5 章 終章 民主主義は生き残れるかについて考察する
第 12 回	文献講読 4-1	ティモシー・スナイダー「暴政」1 から 11 欧米政治の劣化について分析する
第 13 回	文献講読 4-2	暴政 12 から 20 民主政治擁護の方法について考える
第 14 回	現代民主政治展望	21 世紀の民主政治を展望する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書を事前に精読すること

【テキスト（教科書）】

上記文献

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

多少難しくても、重要な文献の精読にチャレンジする

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、行政学

<研究テーマ>現代日本の政策過程、政官関係

<主要研究業績>

内閣制度（東京大学出版会、2007 年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012 年）

POL500A3

行政理論研究 1

南島 和久

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半以降、日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。この科目では、これら公的部門の評価について議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに、分野別あるいは海外の取り組みとの比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントとなるのは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「行政理論研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「政策評価論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

サステナビリティ学専攻「政策評価論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、1回2時間続きで実施し、のべ7日間で構成する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、これは計画段階のものであり、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形で討論を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	制度構想①	アメリカのPPBS、GAOのプログラム評価、GPRA / GPRAMA
第2回	制度構想②	評価の類型、必要性、有効性、効率性と評価
第3回	制度構想③	プログラムセオリー、ロジックモデル、政策デザイン
第4回	制度構想④	政策過程と政策評価との関係
第5回	自治体評価①	行政評価
第6回	自治体評価②	総合計画と評価
第7回	NPMの制度と評価①	公共サービス改革と評価
第8回	NPMの制度と評価②	独立行政法人評価
第9回	企画立案機能の評価①	国の府省の評価
第10回	企画立案機能の評価②	レビュー機能間の連携
第11回	評価階層の議論①	有効性評価の課題
第12回	評価階層の議論②	行政事業レビュー、会計検査、有効性評価への接近
第13回	評価学説史①	プログラム評価をめぐる争点、科学的評価か、実用重視評価か
第14回	評価学説史②	エビデンスとアウトカム、アカウントビリティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、自分なりに論点等を考えていただくことを期待する。

【テキスト（教科書）】

山谷清志『政策評価』（ミネルヴァ書房、2012年）。

【参考書】

今村・武藤・佐藤・沼田・南島『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。

石橋・佐野・土山・南島『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。

佐藤笠監修、今川晃・馬場健編著『市民のための地方自治入門（新訂版）』実務教育出版、2009年。

益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。

松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。

武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。

広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。

山谷清志『政策評価の理論とその展開』見洋書房、1997年。

山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。

山谷清志編著『公共部門の評価と管理』見洋書房、2010年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、報告（40%）、期末レポート（30%）を基礎とし、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima@jura.niigata-u.ac.jp（「@」と「.」は全角となっています）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ>政策評価の理論と制度運用

<主要研究業績>『それでも大学が必要』と言われるために（創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（法大出版）、『組織としての大学』（岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（見洋書房）、『市民のための地方自治入門』（実務教育出版）など

【Outline and objectives】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with field-based or overseas initiatives.

POL500A3

政策学研究 1

武藤 博己

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別政策分野を考察するための基礎としての政策過程の理論を理解する。換言すれば、政策が生まれ、育ち、活躍して、その役割を終えるまでの政策ライフサイクルを理論面から理解する。

【到達目標】

政策過程という視点から政策をつくる上でもっとも基礎的な政策形成のプロセスを理解すること、そしてその理解に基づいて自己の修士論文に政策過程の視点・考え方を利活用できるようになることが本授業の目標である。すなわち、こうした政策のプロセスからの視点・考え方を必要に応じて自己の修士論文に活かすことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「政策学研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「政策課程研究」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義と参加者の報告で授業を進める。講義については、政策過程の理論について講義する。参加者は、政策過程に関するテキストを分担して、担当部分の要旨および議論すべき論点として、ディスカッション・レポートを作成して、順番に報告する。テキストについては、参加者の希望を考慮する。原則として、前半（奇数回）は講義、後半（偶数回）は参加者の報告についての討論を含めながら、授業を進めていく。逆の場合もある。講義については、レジュメを配布する。また、コメント票を配布するので、質問や疑問点があれば、コメント票に記入すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
①-1	政策過程研究の意義	政策過程研究の意義を解説し、講義の全体像を説明する。
①-2	社会環境の変化、参加者の報告①	政策過程を考える上での前提となる社会環境の変化の捉え方について考察する。
②-3	社会環境の変化個別論①	社会環境の変化として分権化の動きについて考察する。
②-4	社会環境の変化個別論②、参加者の報告②	社会環境の変化について行政の経営化の動きを事例として考察する。
③-5	社会環境の変化個別論③	社会環境の変化について道路行政を事例として考察する。
③-6	政策問題の発見、参加者の報告③	政策過程の第1段階となる問題の発見について考察する。
④-7	公共的問題の選択	政策過程の第2段階としての公共的問題の選択について考察する。
④-8	個別政策における政策手段の改革①、参加者の報告④	政策過程の第3段階としての個別政策における政策手段の改革について、①福祉政策を事例として考察する。
⑤-9	個別政策における政策手段の改革②	個別政策における政策手段の改革について、②道路政策を事例として考察する。
⑤-10	組織内調整、参加者の報告⑤	政策過程の第4段階としての組織内調整について考察する。
⑥-11	合意形成の社会過程	政策過程の第5段階としての合意形成の社会過程について考察する。
⑥-12	実施過程、参加者の報告⑥	政策過程の第6段階としての実施過程について考察する。
⑦-13	政策評価の枠組み・理論	政策過程の第7段階としての政策評価の枠組み・理論について考察する。
⑦-14	自治体における施策評価、参加者の報告⑦	政策評価の具体例として、自治体における施策評価を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担部分に関して、そこにおける要約と論点を取り出すディスカッション・レポートを提出してもらうため、事前にテキストを読んでおくこと。テキストについては、初回の授業時に説明し、確定する。

【テキスト（教科書）】

例えば、松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年、あるいは秋吉他『公共政策学の基礎』（有斐閣ブックス）、有斐閣 2010年。

【参考書】

武藤博己、「政策プロセスの考え方」、岡本編、『政策づくりの基本と実践』、法政大学出版社、2003年、pp.35-48。
Michael Hill, The Public Policy Process, 4th ed., Pearson Education Ltd. 2005.

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と発言・コメント票の記入内容（25%）、ディスカッション・レポート（25%）、期末レポート（50%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者による議論を重視して進めたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、政策研究
<研究テーマ>現代社会と行政、入札改革、政策評価
<主要研究業績>

・武藤博己共著、『人口減少時代のまちづくり読本』公職研、2015年・武藤博己編著、『公共サービス改革の本質』、敬文堂、2014年1月
・武藤博己編著、『東アジアの公務員制度』、法政大学出版社、2013年3月
・武藤博己著、『道路行政』、東京大学出版会、2008年7月
・武藤博己著、『自治体の入札改革』、イマジン出版、2006年8月

【Outline and objectives】

To study the theory of policy process for the basic understanding of the specific policy process. This contributes common knowledge of each graduate students' master thesis.

POL500A3

政策学研究2

鄭 智允

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、具体的な事例として廃棄物行政の場合、一般廃棄物、産業廃棄物、漂着廃棄物、災害廃棄物、放射性廃棄物など、様々な廃棄物が発生される中、どの主体がどのようなシステムの中でどのような責任を負い処理していくのか、既存制度の中で主体（アクター）が外部または内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「政策学研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「政策課程事例研究」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第2回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第3回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第4回	政策と災害	天災と人災について、社会メカニズムから災害を捉える。東日本大震災を事例として政策の在り方を討議する。
第5回	政策事例①	一般廃棄物処理施設の立地問題をめぐって
第6回	政策事例②	漂着ごみとは何か、制度と処理責任主体から考える。
第7回	政策事例③	災害廃棄物の処理をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連参考文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

最初の授業で指示する。

【参考書】

C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015年）
松本三和夫『構造災害』（岩波新書、2012年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、環境政策
<研究テーマ>国策と地方自治
<主要研究業績>

『「自区内処理の原則」と広域処理』『自治総研』2014年（第428号 pp.29-46、第429号 pp.45-65、第430号 pp.35-53）

『災害廃棄物の処理をめぐって』『月刊自治研』2012年（第637号 pp.56-65）

『「漂着ごみ」に見る古くて新しい公共の問題』小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ2011年（pp.202-216）

『廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点』『環境自治体白書2008年版』環境自治体会議編2008年（pp.40-52）

『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会2005年

【Outline and objectives】

In this lecture, we will consider policy in individual administrative fields by applying policy process theory. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" (Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. This process enhances understanding of policy processes.

POL500A3

連帯社会とサードセクター

中村圭介、栗本昭、柏木宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では連帯社会とは何か、それを担うサードセクター（労働組合、協同組合、NPO、社会的企業など）の役割は何かを学ぶ。

【到達目標】

連帯社会は、これまでの社会とはどこが違うのか、また連帯社会の構築と存続を担う主体であるサードセクターはどのような役割を果たし、どう協力しあうのかを理論的、実践的に学ぶことを目標とする。この授業を履修することによって、本インスティテュートの学生にふさわしい姿勢、知識を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。連帯社会インスティテュートにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は講師（専任、非常勤）および実践家による講義を行ったうえで、討論を行うという形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	連帯社会とサードセクター	専任教員による問題提起
第2回	連帯社会の研究テーマ	院生の自己紹介と問題意識の交流
第3回	サードセクター論（1）	サードセクターのプラットフォーム（外部講師による講義）
第4回	労働組合活動（1）（2）	労働組合の活動（実践家による講義）
第5回	協同組合活動（1）（2）	生活協同組合の活動（実践家による講義）
第6回	NPO活動（1）（2）	NPOの活動（実践家による講義）
第7回	サードセクター論（2）	官民関係の改革とサードセクター（外部講師による講義）
第8回	労働組合活動（3）（4）	労働組合の活動（実践家による講義）
第9回	協同組合活動（3）（4）	全労済、労働金庫の活動（実践家による講義）
第10回	NPO活動（3）（4）	NPOの活動（実践家による講義）
第11回	労働組合活動（5）（6）	労働組合の活動（実践家による講義）
第12回	協同組合活動（5）（6）	医療生協、労協の活動（実践家による講義）
第13回	NPO活動（5）（6）	NPOの活動（実践家による講義）
第14回	総括	これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かを各自が報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が配布される講義に関しては、資料を読んでおくこと。ノートをしっかり取って、次回の授業の前までに復習をする。最終報告に向けてしっかりと勉強すること。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

特に指定しない。

随時、授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が60%、授業への貢献が20%、最終報告20%。平常点は事前に予習をしているかどうかで測り、授業への貢献は討議への積極的な参加で測る。

【学生の意見等からの気づき】

連帯社会、サードセクターの理論的枠組みを考察するとともに各分野における実践例を提示する。

【その他の重要事項】

非常勤講師、実践家に報告をもらうために、上記の授業計画を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

中村圭介

＜専門領域＞労働関係論、人事管理論

＜研究テーマ＞労働組合、労働関係、人事管理、共助と連帯

＜主要研究業績＞

・『壁を壊す-非正規を仲間に 新装版』教育文化協会、2018年

・『地方連合会・地域協議会の組織と活動に関する調査研究報告書』連合総合生活開発研究所、2018年

栗本昭

＜専門領域＞協同組合論

＜研究テーマ＞協同組合の歴史、制度、組織、事業、ガバナンス

＜主要研究業績＞

『日本の社会的経済の統計的把握に向けて』、大沢真理編『社会的経済が拓く未来』ミネルヴァ書房、2011年、所収

柏木宏

＜専門領域＞NPO論、地域社会論、市民社会ガバナンス論

＜研究テーマ＞社会的企業、社会的協働、NPOプラットフォーム

＜主要研究業績＞

・『創造都市経済と都市地域再生』（共著）大阪公立大学共同出版会、2011年

・『みんなで考える広域複合災害』（共著）大阪公立大学共同出版会、2013年

【Outline and objectives】

In this course students learn the concept of solidarity-based society and roles of third sector actors such as trade unions, co-operatives, NPOs and social enterprises.

POL500A3

立法学研究 1

神崎 一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な研究が全くなされていらないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】

・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
 ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
 ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「立法学研究 1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「立法学研究」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

サステナビリティ学専攻「立法学研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。

②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせて行う。

③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発送方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など
3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か～法律の一般性と抽象性	1. 「法律」とは何か 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3. 「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % ・立法演習 40 % ・報告 30 %。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）

②『「政策法務」試論～自治体と国のパララックス (1)(2)』（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）

③「地方議会の立法機関性一議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline and objectives】

In this class, we will study lawmaking process. In last 2 lectures, sutudents will draft articles as the climax of the class.

POL500A3

自治体研究 1

武藤 博己

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の地方自治を考える。
現代社会においてなぜ地方自治は必要なのであろうか。この疑問から出発して、現在の地方自治制度の歴史的な形成、分権化の動き、自治体の規模と構造、計画、参加と協働等、現代日本の地方自治の現状と課題を講義する。現在、第32次地方制度調査会が開催されており、そこでの議論についても、委員のひとりとして内容を紹介しつつ、客観的立場から俯瞰してみたい。

【到達目標】

政策を学ぶ大学院修士課程の院生の基礎知識として、地方自治研究の基礎を理解し、自己の研究テーマに関連して必要な地方自治論や自治体行政に関する専門的知識を獲得することが目標である。1期の行政学基礎の統編となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「自治体研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学研究「地方自治論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めるが、院生による地方自治に関する著作についてのブック・レポートを各自1回、報告してもらう。その報告についての討論を含めながら、授業を進めていく。毎回、レジュメを配布し、パワーポイントを利用して、分かりやすく講義する。また、毎回受講者向けに質問を出すので、その回答をコメント票に記入して終了時に提出する。また、質問や疑問点があれば、コメント票に記入すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
①-1	オリエンテーション、自治体の歴史(1)	戦前の重要な地方自治の歴史的事件を取り上げる
①-2	自治体の歴史(2)	戦後の重要な地方自治の歴史的事件を取り上げる 分権化の動き、地方自治史として重要な1990年代以降の分権化の動きを中心に解説する
②-3	政府体系の中の地方自治、ホーンブック第7章「政府体系の中の地方自治—団体自治を中心に」	団体自治の系について考察する
②-4	市民と行政の関係、ホーンブック第8章「市民と行政の関係—住民自治を中心に」	住民自治の系について考察する
③-5	自治体の組織構造	自治体の組織とその構造について、考察する
③-6	自治体の規模	2000年代に自治体の合併が進められたが、その背景と経過と結果について解説する
④-7	公共事業と入札制度	公共事業について説明し、入札改革について論じる
④-8	入札改革	自治体の入札改革について考察する
⑤-9	自治体と総合計画・個別計画	自治体の計画について、いくつかの自治体でかかわった経験を踏まえて解説する
⑤-10	参加と協働	自治体にとって今や不可欠となっている参加と協働について解説する
⑥-11	自治体人事行政・制度	自治体の人事行政や地方公務員制度について解説する
⑥-12	自治体人事異動・人材育成	自治体における人事異動の実態と人材育成について考察する
⑦-13	自治体経営改革とNPM	自治体の経営改革としてのNPM (New Public Management)、アカウントビリティとオンブズマンについて考察する
⑦-14	自治体の行政評価	行政評価には事業評価と施策評価があるが、自治体の外部評価委員会での経験を踏まえて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上にも述べたが、各自に提出してもらうブック・レポートは、一種の書評であるので、内容の要約のみならず、著書として評価できる点や問題点などを指摘する必要がある。参考書の中から、または地方自治に関連する著作の中から1冊を選んで、ブック・レポートを執筆し、所定の日時までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

武藤博己他著、『ホーンブック基礎行政学』（改訂版）、第7章・第8章、北樹出版、2009年

武藤博己編著、『自治体経営改革』、ぎょうせい、2004年

磯崎・金井・伊藤著、『ホーンブック地方自治』、北樹出版、2007年

【参考書】

荒木昭次郎、『協働型自治行政の理念と実際』、敬文堂、2012年

石平春彦、『自治体憲法』創出の地平と課題』、公人の友社、2009年、

——、『都市内分権の動態と展望—民主的正統性の視点から—』、公人の友社、2010年

磯崎初仁、『自治体政策法務講義』、第一法規、2012年

大森彌、『自治体職員再論』、ぎょうせい、2015年

——、『政権交代と自治の潮流』、第一法規、2011年

岡田彰・池田泰久、『資料から読む地方自治』、法政大学出版局、2009年

加藤幸雄、『新しい地方議会』、学陽書房、2005年

上林陽治、『非正規公務員』、日本評論社、2012年

神原勝、『自治・議会基本条例論』、公人の友社、2008年

小泉祐一郎、『国と自治体の分担・相互関係』、敬文堂、2016年

鈴木勇紀、『自治体広報はプロモーションの時代からコミュニケーションの時代へ』、公人の友社、2015年

田村明、『都市ヨコハマをつくる』、中公新書、1983年

名和田彦編、『コミュニティの自治』、日本評論社、2009年

西尾勝、『地方分権改革』、東京大学出版会、2007年

林奈生子、『自治体職員の「専門性」概念—可視化による能力開発への展開』、公人の友社、2013年

松下圭一、『自治体は変わるか』、岩波新書、1999年、

——、『成熟と洗練』、公人の友社、2012年

武藤博己、『入札改革』、岩波新書、2003年

矢代隆嗣、『NPOと行政の“協働”活動における“成果要因”—成果へのプロセスをいかにマネジメントするか』、公人の友社、2013年

元田宏樹、『都市貧困層の実態と支援政策』、敬文堂、2016年

堀内匠、『地域の民意』と議会—第30回自治総研セミナーの記録』（自治総研ブックレット19）、公人社、2016年

稲垣陽子、『ひとり戸籍の幼児問題とマイノリティの人権に関する研究』、公人の友社、2018年

齋藤正己、『離島は寶島 沖縄の離島の耕作放棄地研究』公人の友社、2018年

【成績評価の方法と基準】

授業における発言と質問に対する回答のコメント票の記入内容（25%）、ブック・レポート（25%）、期末レポート（50%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

【レポート提出要領】

授業で取り上げた様々な論点の中から、1つを取り上げ、それについて自分の意見を中心に論述して下さい。字数は2000字以内、8月2日（金）24:00までに、メールで提出のこと。メール・アドレスは、muto@hosei.ac.jpです。@は全角。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、政策研究

<研究テーマ>現代社会と行政、入札改革、政策評価

<主要研究業績>

・武藤博己共著、『人口減少時代のまちづくり読本』公職研、2015年

・武藤博己編著、『公共サービス改革の本質』、敬文堂、2014年1月

・武藤博己編著、『東アジアの公務員制度』、法政大学出版局、2013年3月

・武藤博己著、『道路行政』、東京大学出版会、2008年7月

・武藤博己著、『自治体の入札改革』、イマジン出版、2006年8月

【Outline and objectives】

To study the Local Government. At first why local governments need the autonomy is the most important question in this modern society. Starting this question, we consider the historical development of local government system, the movement of decentralization, the size and structure of local government, planning, participation and partnership by citizens, etc. Recently the 32 Local Government System Research Council has been held and I am a member of it, and I explain the contents and discussions in the Council.

POL500A3

公務員制度研究

遠藤 宣男

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が、

- ①国の行政を担う公務員の人事行政に関する基本的仕組みとその具体的な運営・改革（公務員制度の動態的把握）について、
 - ②公表資料（学術論文、行政文書等）を教材にして新たな視角を知ったり、理解を深めたりできるように、
 - ③実務経験者の視点も交えて紹介し、考察する。
- なお、授業では、公務員制度の研究においても分析枠組み（モデル）の使用が有効であることを紹介したい。

【到達目標】

学生が、公務員人事行政（公務員制度）に求められる基本的な考え方は、どのようなものであるかを政治との関係（政治による統制、中立性、公正性など）、合理性（技術性）、社会との応答関係などから説明し、考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。連帯社会インスティテュートにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公務員人事行政に関する基本的な考え方、具体的取組、課題、歴史などを次のようなテーマを中心に扱う予定である。学生は、授業で紹介される関連する文献・資料を講読しながら、基本的な事項について具体的に掘り下げた理解ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	公務員制度を組み立てている考え方	・公務員の数、従事している仕事の種類、イメージ ・公務員、官吏、官僚の概念 ・公務員制度を組み立てている考え方は何か。
第2回	国家公務員の採用・昇進	採用・昇進の制度と運用はどのようなになっているのか。
第3回	国家公務員の給与はどのような考え方で決められているのか。	官民比較を具体的に考える。
第4回	国家公務員の給与は、人事院、政府、国会等を通じてどのように改定されるのか。	公務員の給与は、どのように改定されるのか。通常時と政治問題化時の違いなど。
第5回	拙稿「官僚制改革に関する政策決定過程の研究」を読み、質疑応答	・分析枠組み（モデル）は何か。 ・論文で明らかにしようとしていることは何か。
第6回	戦後公務員制成立をめぐる政策決定過程	・戦後公務員制成立に関して、GHQの原典資料などによって分析して分かること。 ・分析モデルの有用性
第7回	公務員制度改革の歴史、動向、課題	・公務員制度をめぐってどのような改革の動きがあったのか。 ・分析モデル使用の具体例の紹介 ・近年の改革として行われたこととはどのようなことか。 ・今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、第5回の時期までに拙稿「官僚制改革に関する政策決定過程の研究」（第1回時に配付）を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。講義で使用する文献・資料は、授業時に配付又は紹介する。

【参考書】

- ・森田朗編著『行政学の基礎』（岩波書店）
 - ・真淵勝『行政学』（有斐閣）
 - ・原田久『行政学』（法律文化社）
 - ・前田健太郎『市民を雇わない国家』（東京大学出版会）
 - ・西尾隆『行政学叢書 11 公務員制』（東京大学出版会）
- など

【成績評価の方法と基準】

・授業における質疑、テーマについての考察（文献に対するコメント報告を含む）70%

講義における文献講読・質疑応答等を通じて、公務員制度に求められる基本的な考え方、政治との関係、合理性、社会との関係などについての分析手法の理解度や考察力を評価する。

・小論文（A4、2枚 計3000字程度）30%

本講義の受講後公務員制度に対する考え方が変化したかや、講義で取り上げたテーマに関連して研究したことなどについて論じてもらい、分析力・考察力を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

公務員人事行政（公務員制度）について考察するには、例えば公務員が従事している行政分野の種類や公務員の給与に関する技術的な内容・知識などを持つことが必要であるが、それらのことを知る意義を学生に理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

- ・国家公務員の採用試験制度の事務を担当した経験がある。行政改革の一環として行われた旧I種試験の第一次合格者数の大幅増加について取り上げ、その意味と課題について論じる。
- ・国家公務員の給与改定に関する人事院勧告の取扱いを閣議決定する事務を担当した経験がある。人事院勧告の取扱いが大きな政治問題となった具体的な事例を取り上げ、政治と行政の関係について論じる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、政治過程論

<研究テーマ> 公務員行政

<主要研究業績> 「日仏行政官の見た我が国の行政組織における執務体制～デスクワークの分業の観点から」（1996年、『人事行政の窓』、(財)日本人事行政研究所）

・『逐条国家公務員法』（共著、1988年、学陽書房）

・「官僚制改革に関する政策決定過程の研究（1）～（4）」（1980-1981年、『季刊・人事行政』、学陽書房）

【Outline and objectives】

Students :

- ① together their instructor with practical experience, read and comment about textbooks, official documents and literatures on personnel administration in national government.
- ② cultivate the ability to know a new viewpoint and appreciate about basic system, operation and reform of personnel administration in national government.
- ③ therefore, can understand concepts and frameworks are useful for research and analysis.

POL500A3

雇用・労働政策研究

濱口 桂一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府（厚生労働省）の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「雇用・労働政策研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻「雇用労働政策研究」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。連帯社会インスティテュート「雇用労働政策研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第2回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第3回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、キャリア教育、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第4回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金、均等待遇など
第5回	労働契約政策	解雇規制、有期契約、労働条件変更など
第6回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第7回	集团的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞雑誌等における労働問題に関わる記事を意識して読むこと。

【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構（2018年）

【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書（2009年）

濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫（2011年）

濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013年）

濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014年）

濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書（2015年）

なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。

<http://hamachan.on.coocan.jp/>

【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

労働法政策

< 研究テーマ >

日本と EU の労働法政策、日本の個別労働紛争の分析

< 主要研究業績 >

『EUの労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline and objectives】

Explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process. It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.

POL500A3

政策法務論

神崎 一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられている。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の中で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則の通り、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
- ③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1. GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義
7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
神崎一郎『「政策法務」試験～自治体と国のパララックス（1）（2）』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
「地方議会の立法機関性一議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%・立法演習40%・報告30%。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②『「政策法務」試験～自治体と国のパララックス（1）（2）』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性一議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline and objectives】

As the transfer of central government authorities to local governments progresses, local governments will wield more administrative power. To decentralize administrative powers, it is vital that municipal governments merge to improve their legal capabilities. In this class, we will study how to develop legal ability of local authorities.

POL500A3

防災危機管理研究

鍵屋 一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災、熊本地震、そして度重なる風水害などへの防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。しかも、その規模、頻度共に拡大する見込みである。防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けられないテーマである。本授業は、大学院生が防災危機管理を深く学び、危機に強い人材になれるよう支援する。

【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と討議することで、より深い理解につながるよう努めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPT および中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
2	大災害時の市民、行政の活動	東日本大震災発災時の行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークで KJ 法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
3	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
4	災害時要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。
5	防災教育、ボランティア	東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。
6	地域防災計画、防災条例、政策評価	東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。
7	企業の事業継続（BCP）、行政や福祉の業務継続計画、地区防災計画	企業、行政や福祉、地域社会も災害対応と重要業務を継続していかなければならない。その内容をまなぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」「チーム防災ジャパン」を事前に見ていただきたい。また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPT や論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005 年
平成 30 年「防災白書」
チーム防災ジャパンホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（6 回以上の討議参加を高く評価する）
質疑への熱意 50 %（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見では、これまでの実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に討議していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
地域防災、危機管理
<研究テーマ>
自治体の防災対策、防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要配慮者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）
<主要研究業績>
・『よくわかる自治体の防災危機管理』2011 年改訂、学芸書房
・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識 2009』2008 年、自由国民社
・『地域防災力強化宣言』2005 年、ぎょうせい

【Outline and objectives】

The importance of the disaster prevention measure to an East Japan Great Earthquake, Kumamoto Earthquake and repeated storm and flood damage is cried out for. And large-scale accident and terrorism exist in an artificial accident variously a natural disaster and nuclear-power disaster a big earthquake, storm and flood damage and a volcano in an accident. Moreover the possibility which expands to its scale and frequencies. Protection against disasters risk management is the theme which isn't avoided for a citizen, polity, a group and an enterprise. A graduate student learns disaster prevention risk management deeply, and this tuition supports it in order to be human resources strong in a crisis.

POL500A3

ジェンダー政治研究 1

衛藤 幹子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はジェンダー政治学の基本となる「ジェンダーによる政治分析とは何か」を習得することを目的としています。すなわち、ジェンダー概念を分析のツールととらえ、このツールを用いることで、政治なるものがどのように見えてくるのかを学習します。

本授業をとおして、ジェンダー研究に必須の分析視角を理解するとともに、自ら駆使できるようになることをめざします。

【到達目標】

文献を深く読み解き、理解するだけでなく、文献から自己の研究テーマへのインプリケーションを引き出す力を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

拙書『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近—』（政大出版局、2017年）をテキストに輪読し、リポーターによるプレゼンテーションと参加者の討論によって、文献理解を深めます。文献を表面的に理解するのではなく、文献の内容を自己の研究テーマや問題関心に関連づけ、独自の解釈をして読み進め、議論することに留意します。また、本書の中で引用されている文献のうちジェンダー研究において代表的なものを選び、極めて限定的ではありますが、原書にも触れるようにします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	テーマの確認、各自の研究テーマ、関心の紹介と討論、輪読リポーターの取り決め
第2回	テキスト「序」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第3回	テキスト第1章「フェミニズムとジェンダー」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第4回	テキスト第2章「『性』の支配」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第5回	テキスト第3章「『労働』の支配」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第6回	第4章「リベラリズムにおける排除と包摂」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第7回	テキスト第4章に関連した原書	輪読
第8回	テキスト第4章に関連した原書	自己の関心、研究テーマとの関連性についてプレゼン、討論
第9回	テキスト第5章「リベラリズムにおける平等と差異」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第10回	テキスト第6章「ジェンダー不在の市民社会」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第11回	テキスト第7章「市民社会の再構想」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第12回	テキスト第8章「リベラル・デモクラシーの不平等」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第13回	第9章「リベラル・デモクラシー再訪」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第14回	テキスト終章	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論、③まとめ、質疑応答、課題についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを熟読し、質問、コメントを準備する。リポーター担当者は、レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

衛藤幹子『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近—』（法政大学出版局、2017年）

【参考書】

授業の進行状況に応じて提示

【成績評価の方法と基準】

レポートの提出：①テキストを踏まえた上で、自己の関心や研究テーマとの関連性について論じること、②1600字程度（A4版用紙、横40字×縦36行、11ポイント）③授業終了後1週間以内に提出すること（厳守）70%
議論における論点整理と議論展開、議論への貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書、英英辞典（可能であれば）

【その他の重要事項】

欠席は2回まで認めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ジェンダー政治学

<研究テーマ>女性の議会代表性、民主主義や市民社会をジェンダーの観点から分析

<主要研究業績>

『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近』法政大学出版局、二〇一七年（単著）、Women and Politics in Japan: A Combined Analysis of Representation and Participation, Stockholm: Stockholm University Press, December 2013 (solo).

『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店、二〇一四年（三浦まりとの共編著）

主要論文

“Women and Representation in Japan: The Causes of Political Inequality”, International Feminist Journal of Politics, Vol. 12: No. 2, June 2010 (solo); “Reframing Civil Society from Gender Perspectives: A Model of a Multi-layered Seamless World”, Journal of Civil Society, Vol. 8: No. 2, 2012 (solo); “Gender Problems in Japanese Politics: A Dispute over a Socio-Cultural Change towards Increasing Equality”, Japanese Journal of political Science, Vol. 17: No. 3, 2016 (solo).

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deeply understand the text and lean a way of examining politics through using gender lens. The class encourages students to be directly involved in presentation, commenting and discussion. The students will be expected to acquire gender perspectives as an analytical tool.

POL500A3

ジェンダー政治研究2

衛藤 幹子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はジェンダー政治学の基本となる「ジェンダーによる政治分析とは何か」を習得することを目的としています。すなわち、ジェンダー概念を分析のツールととらえ、このツールを用いることで、政治なるものがどのように見えてくるのかを学習します。

本授業をとおして、ジェンダー研究に必須の分析視角を理解するとともに、自ら駆使できるようになることをめざします。

【到達目標】

テキストを深く読み解き、理解するだけでなく、テキストから自己の研究テーマへのインプリケーションを引き出す力を培います。今期は英語文献を読みこなす訓練に力を入れます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

イギリスを代表するフェミニスト政治理論学者 Anne Phillips の『The Politics of the Humanism』（2015, Cambridge University Press）をテキストに輪読し、リポーターによるプレゼンテーションと参加者の討論によって、テキスト理解を深めます。テキストを表面的に理解するのではなく、テキストの内容を自己の研究テーマや問題関心に関連づけ、独自の解釈をして読み進め、議論することに留意します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	目的、テーマの確認、各自の研究テーマ、関心の紹介と討論、輪読リポーターの取り決め
第2回	テキスト第1章「The Politics of the Human」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第3回	テキスト第1章「The Politics of the Human」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第4回	テキスト第1章「The Politics of the Human」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第5回	テキスト第2章「Human, with Consent and without」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第6回	テキスト第2章「Human, with Consent and without」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第7回	テキスト第3章「On Not Justifying Equality」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第8回	テキスト第3章「On Not Justifying Equality」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第9回	研究テーマ発表会	①各自の研究テーマについて報告し、全員よりコメント②テキストの研究テーマへのインプリケーションを議論
第10回	テキスト第4章「Dignify and Equality」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第11回	テキスト第4章「Dignify and Equality」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第12回	テキスト第5章「Humanism and Posthumanism」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第13回	テキスト第5章「Humanism and Posthumanism」	①リポーターのプレゼンテーション、 ②参加者による議論
第14回	総括	まとめ、質疑応答、課題についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リポーターはレジュメと発表の準備する
事前にテキストを読み、質問やコメントを用意する

【テキスト（教科書）】

Anne Phillips の『The Politics of the Humanism』（2015, Cambridge University Press）

【参考書】

授業の進行状況に応じて随時提示

【成績評価の方法と基準】

レポートの提出：①テキストを踏まえ上で、自己の関心や研究テーマとの関連性について論じること、② 1600 字程度（A4 版用紙、横 40 字 × 縦 36 行、11 ポイント）③授業終了後 1 週間以内に提出すること（厳守）70 %
議論における論点整理と議論展開、議論への貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書、英英辞典（可能であれば）、タブレットもしくはパソコン

【その他の重要事項】

欠席は 2 回まで認めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deeply understand the text and lean a way of examining politics through using gender lens. The class encourages students to be directly involved in presentation, commenting and discussion. The students will be expected to acquire gender perspectives as an analytical tool.

In this semester, specifically, they will practice reading and understanding academic texts in English.

POL500A3

自治体福祉政策論

鏡 論

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障給付費は100兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の4割近くを支弁している。自治体においては、介護保険制度や高齢者福祉制度の運営が課題となっている。高齢者の生活を支える自治体政策を通して、これからの更なる高齢社会に向かう人々の暮らしに、どのような給付と負担の関係を構築する必要があるのかを考える。

今日の社会保障においては、給付の縮減を是とした改正が続いているが、果たして安心できる暮らしを維持していく事が可能かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を考える。

【到達目標】

2000年に制度化された介護保険は、今や10兆円規模の給付となり、この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をする。

キーワードは次の通り。

- ・介護保険制度の課題と市町村対応
- ・地域包括ケアの課題
- ・介護予防日常生活支援事業の可能性
- ・介護と医療の連携の課題
- ・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
- ・成年後見制度の効果と課題

上記それぞれの項目について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。各項目については、以下の通り。

- ・日本の将来予測から社会保障のあり方について
- ・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
- ・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
- ・2006年・2012年・2015年・2018年制度改正の課題
- ・介護予防と地域支援事業の課題把握
- ・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
- ・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援の実態把握
- ・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション&高齢者をとりまく諸情報の整理と社会保障・自治体福祉政策	(1) 社会変化と社会保障 (2) 自治体福祉政策の必然性 (3) 2018年介護保険改正後の実務
第2回	介護保険制度(1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)	発表 A (1) 措置から契約へ (2) 介護の社会化 (3) サービスの質の担保と効率（民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題） (4) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定 (5) 給付と負担・保険料決定の仕組み
第3回	介護保険制度(2) ☆介護保険改正のめざしたもの (介護保険における給付と負担)	発表 B (1) 介護保険と地方分権（三位一体改革の影響） (2) 介護予防・日常生活支援総合事業とは何か（地域支援事業創設） (3) 崩れた給付と負担のバランス (4) 自立支援介護とは何か
第4回	介護保険制度(3) ☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果	発表 C (1) 地域包括支援センターの創設 (2) 地域包括ケアとは何か (3) 自治体の介護予防 (4) 医療との連携の形 (5) 地域の見守りネットワーク

第5回 介護保険制度(4) 発表 D
☆介護サービス事業の現状と課題
(介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)

(1) 高齢者虐待・介護放棄
(2) 独居の認知症高齢者
(3) 生活支援の難しさ
(4) 精神疾患患者の支援

第6回 介護保険制度(5) 発表 E
☆施設サービスと地域密着サービス
(在宅と施設高齢者サービスの選択)

(1) 高齢者福祉施設の種類と目的
(2) 特養を利用する人とは
(3) ユニット個室の課題
(4) 地域密着サービスとは
(5) 住んでみたい施設づくり

第7回 高齢者ケア 発表 F
☆判断能力を欠く状況における権利擁護
(介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)

(1) 成年後見制度の概要
(2) 成年後見制度利用支援事業・生活支援事業（旧地域福祉権利擁護制度）
(3) 市民後見制度の課題
(4) 任意後見制度と法人後見
(5) 判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生の課題研究及び発表により授業を行う。基本的には200分の授業時間の内、教員による講義を100分、院生の発表30分、議論70分とする。したがって、院生は毎回1名～2名の報告者を予定する。報告者は、事前にレポートをまとめる。他の出席者も、それぞれの回のテーマについて、疑問点や課題等の意見をあらかじめ整理しておく。

【テキスト（教科書）】

「介護保険制度の強さと脆さ」公人の友社刊 鏡論編著
さらに適宜プリント配布。

【参考書】

「総介護社会」岩波新書刊 小竹雅子著
「総括・介護保険の10年～2012年改正の論点～」公人の友社刊 鏡論編著
「自治体現場から見た介護保険」公人の友社刊 鏡論著

【成績評価の方法と基準】

授業参加と発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、70%以上の配点とする。講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について、意見を徴収する。

【学生が準備すべき機器他】

適宜映像資料を活用する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業終了後実施する。
自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

【担当教員の専門分野】

自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

【Outline and objectives】

We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments.

The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person. However, it became a system to support the life of the elderly, etc. by the universal social insurance system today. Moreover, the subject is a municipality. The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations. In local Government policy 「Benefits and Burdens」 Discuss the relationship between

POL500A3

自治体議会論

鍵屋 一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにする。学生の洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだす。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第2回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第3回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第4回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第5回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第6回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第7回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。

【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991年、4,644円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70 %
振り返りシート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災
<研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策
<主要研究業績>紀要論文、議員研修

【Outline and objectives】

The problem which learns history and a point of an autonomous body assembly, and is an assembly, domestic and abroad, I choose the forward case which can be put as doing research and deepen the understanding about the state of the assembly and the councilor as a duality representative engine. I aim to become the assembly councilor who plans for improvement of welfare of residents under the strained relation with an executive committee by this.

POL500A3

NPO論 1

柏木 宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（民間非営利組織）は、サービス活動の提供による社会・地域問題への対応と、社会変革に向けたアドボカシー活動の両輪によって成り立っている。これらの活動により、NPOは、市民セクターの形成・発展の中心的な役割を担うとともに、市民社会を構築するための重要なツールとして機能している。日本におけるNPOは、1998年のNPO法成立によって具体化、顕在化したといえるが、「NPOの先進国、アメリカ」では、1世紀以上前から生成し、1960年代以降、急速に発展している。本授業では、NPOに関する基本的な概念の整理、こうした日米におけるNPOの歴史的背景や意義について理解することを目的とする。

【到達目標】

上記の授業の概要と目的を踏まえ、NPOに関する基本的な知識を幅広く獲得するとともに、現状や課題についての理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「NPO論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「NPO論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

連帯社会インスティテュート「NPO論（現状と課題）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業の資料は、ウェブにアップする。これらを読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の授業は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。なお、授業に対する理解度を確認するため、期間中に授業のまとめ（ふりかえり）のセッションを実施する。さらに、授業に関連したテーマでレポートを作成し、発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについての説明をオリエンテーションとして実施する。
第2回	非営利と公益の定義	NPOにとって最も重要といえる「非営利」と「公益」というふたつの概念を整理、理解する。
第3回	ボランティア活動	ボランティア活動とNPO活動の同質性と異質性、また関係性について検討、理解する。
第4回	NPO法の成立	阪神淡路大震災後のボランティア活動の広がり、その影響もあり1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、法の概要を整理するとともに、同法の成立後のNPOの発展や税制優遇制度の導入など、同法に関連した重要な動きを概観する。
第5回	世界のNPO	ジョンズ・ホプキンス大学の調査をベースに、世界のNPOを概観する。
第6回	アメリカのNPO	世界最大のNPOセクターをもつアメリカで、NPOがどのように発展し、制度が築かれてきたのかについて考える。そのうえで、アメリカのNPOセクターの現状について最新のデータを用いて把握するとともに、課題についても検討する。
第7回	ふりかえり	第1回から6回までの授業内容で興味を持った点とわかりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第8回	レポートのアウトライン発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを受講生が提示し、院生と教員からフィードバックを受ける。

第9回 NPOのサービス活動

NPOのサービス活動とアドボカシー活動が、どのように関連して展開され、NPOのサービスの充実や社会課題に関する政策の形成に寄与しているのか、理論的に検討する。

第10回 NPOのアドボカシー活動

日本とアメリカにおけるNPOのサービス活動とアドボカシー活動について、その実態について事例を含め、検討、理解する。

第11回 NPOと協働1

NPOと行政・企業との関係の理論的な枠組みを検討する。

第12回 NPOと協働2

日米においてNPOと行政・企業の間で、どのように協働が展開されているのか、事例を含め、検討する。

第13回 レポートの発表1

授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、院生と教員からのフィードバックを受ける。

第14回 レポートの発表2

授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、院生と教員からのフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料は、ウェブにアップする。授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。これを予習とする。復習については、各自の判断にまかせる。ただし、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておくことが望まれる。この他、「ふりかえり」のセッションに文書（オリエンテーションで書式を提示）を作成が求められる。さらに、レポートに関しては、アウトラインとレポートを期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

柏木宏『ボランティア活動を考える：アメリカの事例から』（岩波書店）、NPOサポートセンター編『アメリカのNPO：日本社会へのメッセージ』（第一書林）

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点50%、報告、レポート50%。
レポートの評価基準：学術性、創意工夫、論旨

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO論、NPOマネジメント

<研究テーマ>

日米のNPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』（明石書店、1991年）
- ・『企業経営と人権：アメリカに学ぶ社会貢献とNPO』（解放出版社、1993年）
- ・『アメリカのなかの日本企業：グラスルーツとジャパンパッシング』（日本評論社、1994年）
- ・『災害ボランティアとNPO』（共編著、朝日新聞社、1995年）
- ・『ボランティア活動を考える：アメリカの事例から』（岩波書店、1996年）
- ・『NPOインターンシップの魅力』（共編著、アルク、1998年）
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』（労働大学、1999年）
- ・『NPOマネジメントハンドブック』（明石書店、2004年）
- ・『指定管理者制度とNPO』（明石書店、2007年）
- ・『NPOと政治』（明石書店、2008年）
- ・『創造都市経済と都市地域再生』（共著、大阪公立大学共同出版会、2011年）
- ・『みんなで考える広域複合災害』（共著、大阪公立大学共同出版会、2013年）
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』（共著、ミネルヴァ書房、2017年）
- ・『未来を切り拓く女性たちのNPO活動』（共著、明石書店、2019年）

【Outline and objectives】

The nonprofit organizations have two roles: providing services and advocating social issues. By taking these roles, they lead a key role to create civil society. This course as an introduction to nonprofit organizations provides students key concepts on nonprofit organizations and its historical background and current situations and problems.

POL500A3

NPO論2

柏木 宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO 論Ⅰを NPO に関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO 論Ⅱは NPO をどのように運営していくのかを示す、マネジメント編として位置づけることができる。したがって、NPO のマネジメントの基本である、ヒト、カネ、プランを中心に、具体的な手法を提示し、議論する。

【到達目標】

上記の授業の概要と目的を踏まえ、NPO マネジメントの基礎となる、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、マネジメント手法を理解することで、NPO の運営を担う基礎的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「NPO 論2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「市民社会ガバナンス論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

連帯社会インスティテュート「NPO 論（現状と課題）Ⅱ」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連、特に「DP1」に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業の資料は、ウェブにアップする。これらを読み、授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の授業は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめをする。なお、授業に対する理解度を確認するため、期間中に授業のまとめ（ふりかえり）のセッションを実施する。さらに、授業に関連したテーマでレポートを作成し、発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについての説明をオリエンテーションとして実施する。
第2回	NPO マネジメントの特色	NPO のマネジメントが企業や行政のマネジメントとどう異なるか検討することを通じて、その特色を理解する。
第3回	ヒューマンリソースのマネジメント 1	NPO が活用するヒューマンリソースは、ボランティアとスタッフ、理事に大別できる。この三者がどのように連携することで、効果的な組織運営が可能になるか考える。
第4回	ヒューマンリソースのマネジメント 2	ボランティアとスタッフ、理事のそれぞれに対するマネジメントの手法について考える。
第5回	資金のマネジメント 1	NPO の事業の受益者の多くは、十分な支払い能力がない。このため、非営利の社会的企業は、ファンドレイジングが必要となる。ファンドレイジングをどのように行うか、考える。
第6回	資金のマネジメント 2	ファンドレイジングで獲得した資金も含め、適切な財務管理を行う必要がある。これらの意義や手法について検討する。
第7回	プログラムプランニング	NPO の実態は、個々の事業、すなわちプログラムである。これをいかに企画立し、実施していくのかについて検討する。
第8回	戦略計画	変化の激しい現代において、NPO も内外の変化に対応していかなければ、継続、発展はできない。このため、組織の内外環境を分析し、優先順位をつけて運営を進めるための戦略計画について検討する。
第9回	授業の「ふりかえり」	第1回から8回までの授業内容で興味を持った点とわかりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。

第10回 レポートのアウトラインの発表 最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、院生と教員からフィードバックを受ける。

第11回 NPO の設立 組織は、設立しなければ機能しない。営利であれば株式会社、非営利であれば NPO 法人や一般社団・財団など法人格の取得を行うことになる。ここでは、NPO 法人の設立について考える。NPO においても、設立から時間が経過すると、世代交代の問題が出てくる。これらを進める手法を検討する。

第12回 NPO の世代交代 授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受ける。

第13回 レポートの発表1 授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受ける。

第14回 レポートの発表2 授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料は、ウェブにアップする。授業内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。これを予習とする。復習については、各自の判断にまかせる。ただし、講義のメモや授業中の質問、回答、議論などについて、毎回、簡単に整理しておくことが望まれる。この他、「ふりかえり」のセッションに文書（オリエンテーションで書式を提示）を作成が求められる。さらに、レポートに関しては、アウトラインとレポートを期限（オリエンテーションで提示）までに提出する。

【テキスト（教科書）】

柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック』明石書店

【参考書】

院生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点 50 %、報告、レポート 50 %。
特になし。レポートの評価基準：学術性、創意工夫、論旨

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO 論、NPO マネジメント

<研究テーマ>

日米の NPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』（明石書店、1991年）
- ・『企業経営と人権：アメリカに学ぶ社会貢献と NPO』（解放出版社、1993年）
- ・『アメリカのなかの日本企業：グラスルーツとジャパンバッシング』（日本評論社、1994年）
- ・『災害ボランティアと NPO』（共編著、朝日新聞社、1995年）
- ・『ボランティア活動を考える：アメリカの事例から』（岩波書店、1996年）
- ・『NPO インターシップの魅力』（共編著、アルク、1998年）
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』（労働大学、1999年）
- ・『NPO マネジメントハンドブック』（明石書店、2004年）
- ・『指定管理者制度と NPO』（明石書店、2007年）
- ・『NPO と政治』（明石書店、2008年）
- ・『創造都市経済と都市地域再生』（共著、大阪公立大学共同出版会、2011年）
- ・『みんなで考える広域複合災害』（共著、大阪公立大学共同出版会、2013年）
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』（共著、ミネルヴァ書房、2017年）
- ・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』（共著、明石書店、2019年）

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to learn the methods of management of nonprofit organizations. This course focus on human resources, finance and planning of nonprofit management. Through learning them, students are expected to obtain basic knowledge of managing a nonprofit organization.

POL500A3

市民社会論

菅原 敏夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代市民社会の実相と市民社会論の再検討。自由、平等、信頼、互酬を理念とする市民社会の劣化と危機尾を見据えて、再構築を急ぐ。

【到達目標】

市民社会の強化につながる論点を習得する。市民社会の現代的構築の論点を習得する。現代市民社会形成の批判的主体となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

連帯社会インスティテュートにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

世界的に市民社会への関心が高まっている。政治的民主主義と開放経済のもとで、市民社会をよりよくガバナリングしていくことの意味を捉え、市民社会論が果たすべき役割を考える。現代市民社会の考察（観察と研究）は参与的で、社会と観察者個人は相互的な役割を果たす。そのただなかでの、市民社会、個人、集団の相互連関について考察する。現代の市民社会をその変化の中で主体的にとらえる。また、市民社会論形成の思想史を追体験し、検証をおこなう。事前に示す文献を元に講義と討論を行う。志願した報告者が報告をする方式が望ましい。基本的内容は講義形式を予定する。市民社会の歴史的存在形態を一瞥し、近代以降の市民社会（狭義の市民社会）に関心を集中する。ジョン・ロックを出発点とし、米國、日本の市民社会論の特徴を明らかにする。討論の中から問題点が浮かび上がるように工夫したい。2018年は、日本ではいわゆるNPO法制定20年の節目だった。この20年は市民社会、市民社会団体、社会関係資本が相互に親和的な時を過ごした。しかし今や再検討が必要になった。市民社会を歴史的に振り返る必要が強まっている。そうした課題の探求にもこたえたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	市民社会の歴史俯瞰 1	シュテファン・ホルトヴィヒ・ホフマン『市民結社と民主主義 1750-1914』を参考に市民社会と市民結社の関係を最新の研究動向から考える。
第2回	市民社会の歴史俯瞰 2	シュテファン・ホルトヴィヒ・ホフマン『市民結社と民主主義 1750-1914』を参考に市民社会と市民結社の関係を最新の研究動向から考える。今後の講義計画について話し合う。
第3回	市民社会の思想史 1	ジョン・ロックとともに考える。『統治二論』
第4回	市民社会の思想史 2	ジョン・ロックとともに考える。『統治二論』
第5回	市民社会の哲学 1	松下圭一『ロック「市民政府論」を読む』も参照しつつ。市民社会の反省、ロバート・D・パットナムとともに考える。『孤独なボウリング』
第6回	市民社会の哲学 2	市民社会の反省、ロバート・D・パットナムとともに考える。『孤独なボウリング』併せて、『哲学する民主主義』、『われらの子ども』も参照する。
第7回	現代の市民社会と公共性の構造転換 1	エルゲン・ハバーマスとともに考える。『第2版公共性の構造転換』
第8回	現代の市民社会と公共性の構造転換 2	エルゲン・ハバーマスとともに考える。『第2版公共性の構造転換』併せて、『コミュニケーション的行為の理論』も参照する。
第9回	リバタリアニズムとコミュニティニズム 1	自由と共同体に関する制度。ロールズ『正義論』
第10回	リバタリアニズムとコミュニティニズム 2	自由と共同体に関する制度。ロールズ『正義論』併せて、ウォルツァー『正義の領分』を参照する。
第11回	ソーシャルチェンジの理論と実践 1	CSO（市民社会団体）の実践から学ぶ。

第12回	ソーシャルチェンジの理論と実践 2	国家的なものとして市民社会の相克。ナショナリズムの再定義。「想像の共同体」の再発見。
第13回	市民社会ガバナンス 1	ソーシャル・ガバナンスと市民社会ガバナンス。「新しい公共」。東日本大震災で問われる市民社会の復興と構築。市民社会ガバナンスの本質。「新しい公共」「新しい公共サービス」。まとめ。
第14回	市民社会ガバナンス 2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シュテファン・ホルトヴィヒ・ホフマン『市民結社と民主主義 1750-1914』、ジョン・ロック『統治二論』、ロバート・D・パットナム『孤独なボウリング』、エルゲン・ハバーマス『第2版公共性の構造転換』、ロールズ『正義論』、ウォルツァー『正義の領分』は市民社会を考えるための必須の文献となっている。新訳等も現れて学びやすい分野である。事前の学習として一定の密度で目を通しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

授業計画で示した文献をその講義のテキスト（議論の基点となる材料）とする。

【参考書】

テキストと同じ。

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、各回の授業において各自の報告発表・討議を行った場合50%の枠内で加点、各回の討論への参加・貢献を40%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論を適切に構築し、各自の気づきを尊重する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>公共性論・市民社会論・市民経済学

<研究テーマ>公私協働領域の研究

<主要研究業績>・「参院選と両院のねじれ」『ハンギョレ経済研究所レビュー』

2010年9月号

・「公益法人改革の行方」『日経グローバル』2010年7月号

・「新しい公共と信頼の再構築」『JP総研リサーチ』2010年12月。「公共サービスと地域資源」『DIO』2018年1月号

【Outline and objectives】

Our objectives are observation of modern Civil society and reconsideration on Civil society theory. We try to reconstruct the Civil society theory.

POL500A3

シンクタンク論

蒔田 純

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家-社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】

- ・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
- ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家-社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
- ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。連帯社会インスティテュートにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家-社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けた。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話いただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起るような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期集中

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会	国家-社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金	フィランソロピー、501(C)3 など
第7回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク	利益集団・压力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、ニュース等で実際に起こっている具体的なトピックについて常に敏感にアンテナを張り、その内容や問題点等について考えてほしい。講義後は、扱った内容を振り返り、政治行政の現場で現在起こっている事象につき、シンクタンクの観点から公共政策的に説明する、という思考作業を常に行ってもらいたい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

Alex Abella, 2009. *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire*. Mariner Books.

飯尾潤. 2007.『日本の統治構造』中央公論新社.

小池洋次（編著）. 2010.『政策形成』ミネルヴァ書房.

Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.

Smith, James A. 1991. *The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite*, Free Press.

鈴木崇弘. 2007.『日本に民主主義を起業する—自伝的シンクタンク論』第一書林.

鈴木崇弘. 2011.「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.

鈴木崇弘・上野真城子. 1993.『世界のシンク・タンク—「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.

鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005.『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版

Smith, James, 1993. *The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite*, Free Press.

Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史. 2008『比較政治制度論』有斐閣.

横江公美. 2008.『アメリカのシンクタンク 第五の権力の真相』ミネルヴァ書房.

横江公美. 2004.『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.

宮田智之. 2017.『アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.

Weaver, R., 2002. *Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加 45 %、レポート 35 %、プレゼンテーション 20 %

<評価基準>

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力、問題提起性等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策

<研究テーマ>政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割 など

<主要研究業績>

『立法補佐機関の制度と機能—各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年.

“Chap.8, A Policy Analysis of the Japanese Diet from the Perspective of Legislative Supporting Agencies”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, 2015, pp.123-138.

「政府—議会関係から見た行政組織編成権に関する一考察」『季刊行政管理研究』No.155, pp.29-39, 2016年.

「団体形成から見る政策ネットワークの変化—医薬品ネット販売の規制緩和を事例として—」『政治社会論叢』第4号、pp.55-70、2016年.

【Outline and objectives】

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.

POL500A3

国際政治の基礎理論 1

森 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、初學者の受講を念頭に置いた国際政治学の入門講座である。その目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を広い視野から理解したり説明したりするのに必要な、国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野でこれまで生み出されてきた基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。また、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際政治の基礎理論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際政治理論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「国際政治学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻「国際政治学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で進める。日々動く国際情勢にも随時言及しながら、講義内容を解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	国際政治学の概要（1）	主要パラダイムの概観。理論とは何か。
2	国際政治学の概要（2）	学問としての国際政治学の発展の歴史。
3	国際政治学における分析の枠組み	分析レベルの問題。リサーチ・プログラムとは何か。
4	なぜ国家は競争・対立するのか（1）	リアリズムの中核概念。古典的リアリズムとは何か。
5	なぜ国家は競争・対立するのか（2）	ネオリアリズムとは何か。攻撃的・防衛的リアリズム。
6	なぜ国家は競争・対立するのか（3）	リアリズムの諸理論。リアリズムへの批判。
7	なぜ国家は協調するのか（1）	リベラリズムの中核概念。観念的・商業的・共和的リベラリズムとは何か。
8	なぜ国家は協調するのか（2）	ネオリベラル制度論とは何か。ネオ・ネオ論争。リベラリズムへの批判。
9	なぜ国家間関係は変化するのか（1）	コンストラクティビズムの中核概念。適切性の論理と結果の論理とは何か。
10	なぜ国家間関係は変化するのか（2）	規範と文化に関する諸理論。コンストラクティビズムへの批判。
11	国家の対外政策はどのように決まるのか（1）	対外政策過程分析の諸モデル。政治指導者と対外政策。
12	国家の対外政策はどのように決まるのか（2）	ネオクラシカル・リアリズムとその諸理論。
13	国際秩序とは何か	国際秩序の定義。国際秩序の理論的類型。
14	総括	全体の振り返りとまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関心を持ったトピックについて、参考書で関連用語を調べ、理解を深めるといふ個人的な努力を積み、ゼミでの研究に結びつく力を養うことができる。
・新聞の国際面の記事を読みながら、授業で習った概念を使って、そこで報じられている事件・事象をどう理解できるかを常に考える癖をつけるとなるとよい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。
・田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』、有斐閣ブックス、2004年、2400円。
・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013年、3000円。
・世界地図。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施し評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。
・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義用アウトライン（見出し入りレジュメ）を授業支援システムにアップロードするので、履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するといふ。アウトラインに、授業で使用するパワーポイントや講義の内容を書き込んでいくといふ。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
＜主要研究業績＞
・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。
など

【Outline and objectives】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL500A3

国際開発政策研究 1

武貞 稔彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

授業の到達目標は、(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際開発政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。国際政治学専攻「国際協力政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に予習が必要な文献には英語文献も含まれるため、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景-途上国の貧困と先進国との格差-について概観する
第2回	国際協力をめぐる歴史と制度 (1) 経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後 1970 年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治/歴史の文脈に位置づけて概観する。
第3回	国際協力をめぐる歴史と制度 (2) 経済成長路線から人間開発路線へ	1980 年代、90 年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方/取り組みの重点の変化を概観する。
第4回	国際協力をめぐる歴史と制度 (3) 環境と持続可能な開発	2000 年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける
第5回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第6回	「開発」とは何か: 開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第7回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題（問題）」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごと（最終回を除く）に必要なリーディングを指定しますので、受講者は授業支援システムから当該文献をダウンロードし、事前に熟読して講義に臨むことが必要です。また報告担当者はレジュメを作成のうえ、配布し報告を行うこととします。

担当を決める都合上、第1回の講義には必ず参加してください。（出席が困難な場合は担当教員に必ず事前に連絡をしてください。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート（50%）、各回の担当報告の内容（30%）、授業やディスカッションへの貢献（20%）を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419-430.

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年、
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline and objectives】

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting special emphasis on Japan's role in the international society.

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

POL500A3

国際地域研究 1

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代中国に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、現代中国に生起するさまざまな政治社会現象の諸相を検討し、その討究を進めることを目的とする。学生には、中国的諸事象の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、その世界的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題テーマに掲げる受講生は改革開放期中国の深層構造を把握すること、また、教員免許状取得その他を目的に本授業に参加する学生は現代国際政治を理解する上で不可欠の存在となりつつ移行期中国の全体像を獲得することをそれぞれ到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際地域研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際地域研究（中国）（1）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業で学ぶのは、現代中国における政治社会現象の有する意味を問うことである。つまり、今日時点の中国において生起している諸現象を単なる静的な事象としてではなく、伝統として建国以前から受け継いだもの、そして1949年以降の社会主義過程、1978年以降の改革開放という市場化プロセスが織りなすものとして把握し、その世界的、国際的インプリケーションを常に問う姿勢を獲得するための訓練をする。その際には、本邦内外の地域研究としての中国研究がこれまで蓄積してきた国家・社会論アプローチ、ポスト・コミュニズム論、リブセット仮説、移行期論等を「導きの糸」として、中国の政治社会生活の現実態から、分析対象をピックアップし、学生一人一人の個別の見方を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	序論「中国研究の問うべきもの」
第2回	中国の“巨大性”	：人口、国土、資源、思想
第3回	中国の“錯雑性”	：民族、階層、階級、利害
第4回	ガバナンスの課題	： “供給”量的質的保証
第5回	国際圧力	：国際秩序との“接軌”
第6回	“多元化”	：利害、関係、社会意識
第7回	エリートとマス	：パワーエリート、マネーエリート
第8回	改革開放プログラム	：市場化、市場メカニズムの導入
第9回	平等と公正	：格差と腐敗
第10回	宗教	：生き甲斐と死に甲斐
第11回	都市社会の変容	：ネット社会、中間層
第12回	農村社会の変容	：村長選挙と小民主実験
第13回	中国共産党の変容	：三つの代表論、党員構成
第14回	まとめ	：総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業予定項目に対する事前準備（報告予定者は報告内容の準備、その他受講者は報告予定者からML宛送付のレジュメ等各種資料に関する検討ほか）および関連事項の事前学習

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 梶谷懐『中国経済講義—統計の信頼性から成長のゆくえまで』中央公論新社、中公新書、2018年9月、255ページ
- * 天児慧『中国政治の社会懲制』岩波書店、2018年1月、304ページ
- * 柯隆『中国「強国復権」の条件：「一帯一路」の大望とリスク』慶應義塾大学出版会、2018年4月、408ページ
- * 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）新潮社、2017年8月、348ページ
- * 近藤大介『未来の中国年表 超高齢大国でこれから起こること』（講談社現代新書）、講談社、2018年6月、224ページ

【参考書】

菱田雅晴・鈴木隆『中国共産党とガバナンス』東京大学出版会、2016
菱田雅晴『中国：国家と社会の“共棲”』東京大学出版会、2001
ほか未定

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的貢献度（出席、授業内における発言、コメント）（40%）および期末レポート（タームペーパー）の完成度、独自性（60%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

別記の通り、「国際地域研究（中国）（1）」を受講しようとするものは、「国際地域研究（中国）（2）」をも併せ受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学
<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究
<主要研究業績>

- ・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）
- ・『中国問題』（東京大学出版会、2012）
- ・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）
- ・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）
- ・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of current socio-political situation in contemporary China, focusing an ideological crisis and interest conflict as the outcome of massive economic development. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's domestic policies, and develop an understanding of structural characteristics of China's one-party system as well as the emerging civil society perspective.

POL500A3

国際地域研究 2

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代中国に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、現代中国に生起するさまざまな政治社会現象の諸相を検討し、その討究を進めることを目的とする。学生には、中国的諸事象の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、その世界的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題テーマに掲げる受講生は改革開放期中国の深層構造を把握すること、また、教員免許状取得その他を目的に本授業に参加する学生は現代国際政治を理解する上で不可欠の存在となりつつ移行期中国の全体像を獲得することをそれぞれ到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際地域研究 2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際地域研究（中国）（2）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は、中国政治研究の核としての中国共産党を祖上に載せ、その組織的側面の検討を通じ、経済発展と政治変革との関係を討究する。本授業では、演習形態によるテキスト・クリティークを行う。ここでは、「国際地域研究（中国）（1）」で浮上する論点につき、集中討論を行う。このため、「国際地域研究（中国）（2）」を受講しようとするものは、必ず「国際地域研究（中国）（1）」をも併せ受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	中国研究の現状と課題	中国研究はどこまでの課題に迫り得ているのか
2	中国研究の方法	ツールとしての中国語、歴史、文化理解 文献解読、中国ネット利用
3	中国政治における共産党	中国政治の核としての共産党を位置付ける
4	党史～地下革命党	執政党としての地位を中国共産党が獲得するまでの過程
5	党史～建国から執政党へ	ポスト革命期における党の課題
6	合法性の淵源（革命性）	抗日戦争、人民革命の勝利者
7	合法性の淵源（業績性）	高度経済成長、生活上革命の供給者
8	合法性の淵源（民族性）	大国としての中国の国際地位の向上、民族的昂揚感の供給者
9	三つの代表論	江沢民“三つの代表論”の意味するもの：私営経済／私営企業家の経済的／社会階層的／政治的認知
10	組織的危機	党細胞、党組織“真空”の発生、党活動、イデオロギーの弛緩
11	入党動機	学生層、青年層における入党動機から党／党員イメージを検討する
12	“党建”キャンペーン	弛緩した党組織細胞、党活動の再建努力
13	私営企業家のレスポンス	《三つの代表論》による入党勧誘に対する私営企業家の反応、背景
14	党内民主論	レーニン主義政党内部における党内民主と中国政治社会全体の民主化の関連

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業予定項目に対する事前準備（報告予定者は報告内容の準備、その他受講者は報告予定者から ML 宛送付のレジュメ等各種資料に関する検討ほか）および関連事項の事前学習

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 『2017 中国社会藍皮書』（2018）（中国社会科学文献出版社）
- * 何清連・程曉農（2017）『中国』（ワニブックス）
- * 東一真（2017）『中国の不思議な資本主義』（中公新書）
- * 小野寺史郎（2017）『中国ナショナリズム - 民族と愛国の近現代史』（中公新書）

【参考書】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 梶谷懐『中国経済講義—統計の信頼性から成長のゆくえまで』中央公論新社、中公新書、2018年9月、255ページ
- * 天児慧『中国政治の社会態制』岩波書店、2018年1月、304ページ
- * 柯隆『中国「強国復権」の条件:「一帯一路」の大望とリスク』慶應義塾大学出版会、2018年4月、408ページ
- * 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）新潮社、2017年8月、348ページ
- * 近藤大介『未来の中国年表 超高齢大国でこれから起こること』（講談社現代新書）、講談社、2018年6月、224ページ

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的貢献度（出席、授業内における発言、コメント）（40%）および期末レポート（タームペーパー）の完成度、独自性（60%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

上記の通り、「国際地域研究（中国）（2）」を受講しようとするものは、必ず「国際地域研究（中国）（1）」をも併せ受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学
<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究
<主要研究業績>

- ・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）
- ・『中国問題』（東京大学出版会、2012）
- ・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）
- ・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）
- ・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of current socio-political situation in contemporary China, focusing an ideological crisis and interest conflict as the outcome of massive economic development. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's domestic policies, and develop an understanding of structural characteristics of China's one-party system as well as the emerging civil society perspective.

POL500A3

アメリカ外交研究 1

森 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「アメリカ外交研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。国際政治学専攻「アメリカ外交史」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。アウトラインを配布し、パワーポイントを使用しながら講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講談会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レント・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、主要な出来事の発生要因を整理しておくことよい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。
斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施し評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、今回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
<主要研究業績>
・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。
など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL500A3

アメリカ外交研究2

森 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦以降のアメリカの世界戦略や外交に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機微についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。ハリー・トルーマン政権からドナルド・トランプ政権までのアメリカ外交の歴史的展開を辿り、各政権の世界観がどのように変遷してきたのかを解説する。

【到達目標】

・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できる能力を身につける。
・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多面的なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できる能力を身につける。
・また、歴代政権の対外政策の連続性と変化を理解し、その要因について仮説を立てられる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「アメリカ外交研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「アメリカの対外政策」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式による授業とする。（なお、履修者数が少ない場合には、教員の判断でゼミに準じた形式を導入する可能性もある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	アメリカの対外関与	アメリカの対外関与のパターン
第2回	アメリカの国際秩序観	一国主義とリベラル国際主義の起源と融合
第3回	冷戦の起源とアメリカ	アメリカによる戦後秩序構想
第4回	冷戦期の封じ込め戦略（その1）	トルーマン政権の初期封じ込め戦略とNSC68
第5回	冷戦期の封じ込め戦略（その2）	アイゼンハワー政権のニュールック戦略と、ケネディ・ジョンソン政権の柔軟反応戦略
第6回	冷戦期の封じ込め戦略（その3）	ニクソン・フォード政権のデタント外交と、カーター政権の対外政策
第7回	冷戦期の封じ込め戦略（その4）	レーガン政権の巻き返しと、ブッシュI政権の対外政策
第8回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その1）	クリントン政権の対外政策
第9回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その2）	ブッシュII政権の対外政策
第10回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その1）	オバマ政権の対外政策
第11回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その2）	オバマ政権の対アジア戦略
第12回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その3）	トランプ政権登場の背景
第13回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その4）	トランプ政権の対外政策
第14回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その5）	トランプ外交の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容を復習されたい。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。（履修者数が20名に満たない場合には、レポート課題に切り替える可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭で、前回の要点を振り返る。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

ポスト冷戦期までの講義部分を圧縮して、終盤はトランプ政権の対外政策に時間を割く可能性がある。

【現代アメリカの外交・安全保障政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide class participants with specialized knowledge relating to U.S. foreign policy after the Second World War, and thereby enable them to deepen their understanding of the politics of foreign policy-making, and gain practical knowledge related to decision-making and implementation of U.S. foreign policy. The course will illustrate U.S. diplomacy from the Truman administration to the Trump administration, and point out the global outlook of successive postwar U.S. administrations.

POL500A3

日中関係政策論 1

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、中国の対外政策に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、中国と日本との間に生起するさまざまな現象の諸相を検討し、その討議を進めることを目的とする。学生には、日中関係の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、日中関係の国際的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを旨とする。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題テーマに掲げるものは日中関係の深層構造を把握すること、および教員免許状取得等を目的とするその他受講生は日本にとって最重要の二国間関係の一つである日中関係の全体相を諒解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「日中関係政策論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「対外政策研究（中国）（1）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業で学ぶのは、中国の対外関係における日中関係の有する意味を問うことである。つまり、日中関係を、今日時点の中国が展開している対外政策、外交の一分野としてではなく、単なるバイラテラルな二国間関係の地平を超え、その地域的、国際的インプリケーションを常に問う姿勢を獲得するための訓練をする。その際には、本邦内外の地域研究としての中国研究がこれまで蓄積してきたものを「蓄きの糸」として、利害、イデオロギー、主権等をめぐる日中関係の現実的諸実態から、分析対象をピックアップし、学生一人一人の個別の見方を確認していく。

まずは、日本にとって最重要の二国間関係となっている日中関係の発展史、各段階における外交課題等の側面について、演習形式により、基本知識を学ぶ。併せて、現代の問題状況を分析するための資料蒐集や方法論の獲得も目指す。後半は、視座を中国側に移し、日中関係の《鏡像》構造を検討し、地域的／国際的フレーム下での日中二国間関係を捉え返すこととし、「対外政策研究（中国）（2）」で各テーマの集中討議を行う。このため、「対外政策研究（中国）（1）」を受講するものは、必ず「対外政策研究（中国）（2）」をも併せて受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	日中関係の基本視座	日中関係を討議する際の基本的視座：歴史、関係性（バイ／マルチ）、固有性
2	日中関係簡史（Ⅰ）	1972年の日中国交正常化に至る戦後日中関係の歩みを概観する
3	日中関係簡史（Ⅱ）	1972年の日中国交正常化以降の日中関係の歩みを概観する
4	日中関係のアクター（Ⅰ）	日中関係におけるさまざまなアクター：政界、官界、メディア
5	日中関係のアクター（Ⅱ）	日中関係のアクター：経済実業界
6	日中関係のアクター（Ⅲ）	日中関係のアクター：文化社会界
7	日中国交正常化への途	国交正常化に至る過程における“日中友好人士”と“友好運動”の果たした役割
8	過去からの遺産	日中関係を規定する歴史性を過去からの遺産として市場幻想と贖罪感を検討する。
9	中国における中日関係（Ⅰ）	国交正常化に至る途：周恩来のリーダーシップと果たした役割
10	中国における中日関係（Ⅱ）	対日政策過程における“日本組”の役割
11	制度摩擦から文化摩擦へ	国交回復後の日中関係：中国側の改革開放政策採用に伴い、制度摩擦から文化摩擦への変化をみる
12	“反日”と“嫌中”	制度を超え、文化摩擦の先に存在する“反日”感情と“嫌中”情緒の相克の可能性を検討する

- 13 第三ファクター：台湾、米国要素 日中関係をたんなる二国間関係としてではなく、第三ファクターを導入し、特に米国要素を検討する。併せ、日中関係における台湾問題も考慮する
- 14 東アジア地域における日中関係：巨像と蟻 日中関係を東アジア地域という広袤から検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各提示資料の読み込みおよびリアクションペーパーの準備

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

*毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018年12月、320ページ

*益尾知佐子、青山瑠妙、三船恵美他『中国外交史』、東京大学出版会、2017年9月、264ページ

*波多野澄雄、戸部良一、松元崇 他『決定版 日中戦争』新潮新書、新潮社、2018年11月、288ページ

*田島高志、高原明生、井上正也 他『外交証言録 日中平和友好条約交渉と鄧小平来日』岩波書店、2018年8月、224ページ

【参考書】

初回時に提示する

【成績評価の方法と基準】

最終レポートおよび各討論場面における独創性（50%）、論理性（50%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

別記の通り、「対外政策研究（中国）（1）」を受講しようとするものは、「対外政策研究（中国）（2）」をも併せて受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学

<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究

<主要研究業績>

・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）

・『中国問題』（東京大学出版会、2012）

・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）

・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）

・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of China's international relations, including the relations with its main partners, Japan and the US. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's external policies, and develop an understanding of China's main bilateral relations as well as the partner countries' perspective.

POL500A3

日中関係政策論2

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、中国の対外政策に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、中国と日本との間に生起するさまざまな現象の諸相を検討し、その討議を進めることを目的とする。学生には、日中関係の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、日中関係の国際的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを旨とする。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題に掲げるものは日中関係の深層構造を把握すること、および教員免許状取得等を目的とするその他受講生は日本にとって重要な二国間関係の一つである日中関係の全体相を諒解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「日中関係政策論2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「対外政策研究（中国）（2）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

先ずは、日本にとって最重要の二国間関係となっている日中関係の発展史、各段階における外交課題等の側面について、演習形式により、基本知識を学ぶ。併せて、現代の問題状況を分析するための資料蒐集や方法論の獲得も目指す。後半は、視座を中国側に移し、中日関係の《鏡像》構造を検討し、地域的／国際的フレーム下での日中二国間関係を捉え返すこととし、「対外政策研究（中国）（2）」で各テーマの集中討議を行う。

なお、本授業は、「対外政策研究（中国）（1）」授業時間に引き続き行うもので、同授業科目で設定された課題の討議を行う。このため、「対外政策研究（中国）（2）」を受講するものは、必ず「対外政策研究（中国）（1）」をも併せて受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	日中関係の基本視座	日中関係を討議する際の基本的視座：歴史、関係性（バイ／マルチ）、固有性
2	日中関係簡史（Ⅰ）	1972年の日中国交正常化に至る戦後日中関係の歩みを概観する
3	日中関係簡史（Ⅱ）	1972年の日中国交正常化以降の日中関係の歩みを概観する
4	日中関係のアクター（Ⅰ）	日中関係におけるさまざまなアクター：政界、官界、メディア
5	日中関係のアクター（Ⅱ）	日中関係のアクター：経済実業界
6	日中関係のアクター（Ⅲ）	日中関係のアクター：文化社会界
7	日中国交正常化への途	国交正常化に至る過程における“日中友好人士”と“友好運動”の果たした役割
8	過去からの遺産	日中関係を規定する歴史性を過去からの遺産として市場幻想と贖罪感を検討する。
9	中国における中日関係（Ⅰ）	国交正常化に至る途：周恩来のリーダーシップと果たした役割
10	中国における中日関係（Ⅱ）	対日政策過程における“日本組”の役割
11	制度摩擦から文化摩擦へ	国交回復後の日中関係：中国側の改革開放政策採用に伴い、制度摩擦から文化摩擦への変化をみる
12	“反日”と“嫌中”	制度を超え、文化摩擦の先に存在する“反日”感情と“嫌中”情緒の相克の可能性を検討する
13	第三ファクター：台湾、米国要素	日中関係をたんなる二国間関係としてではなく、第三ファクターを導入し、特に米国要素を検討する。併せ、日中関係における台湾問題も考慮する
14	東アジア地域における日中関係：巨像と蟻	日中関係を東アジア地域という広表から検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各提示資料の読み込みおよびリアクションペーパーの準備

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

*毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018年12月、320ページ

*益尾知佐子、青山瑠妙、三船恵美他『中国外交史』、東京大学出版会、2017年9月、264ページ

*波多野澄雄、戸部良一、松元崇 他『決定版 日中戦争』新潮新書、新潮社、2018年11月、288ページ

*田島高志、高原明生、井上正也 他『外交証言録 日中平和友好条約交渉と鄧小平来日』岩波書店、2018年8月、224ページ

【参考書】

初回時に提示する

【成績評価の方法と基準】

最終レポートおよび各討議場面における独創性（50%）、論理性（50%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

別記の通り、「対外政策研究（中国）（1）」を受講しようとするものは、「対外政策研究（中国）（2）」をも併せて受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学

<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究

<主要研究業績>

・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）

・『中国問題』（東京大学出版会、2012）

・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）

・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）

・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of China's international relations, including the relations with its main partners, Japan and the US. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's external policies, and develop an understanding of China's main bilateral relations as well as the partner countries' perspective.

POL500A3

国連・平和構築研究 1

弓削 昭子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国連・平和構築研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。国際政治学専攻「国連・平和構築研究1（国連組織）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat's role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General's role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN's relationship with regional actors
11	Civil society	UN's relationship with civil society actors
12	Private sector	UN's relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations, Oxford University Press, 2018.
 ・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

【参考書】

・ Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.
 ・ 日本国際連合学会（編）『グローバル・コモンズと国連』国連研究第 15 号、国際書院、2014
 ・ 日本国際連合学会（編）『新たな地球規範と国連』国連研究第 11 号、国際書院、2010 年
 ・ 日本国際連合学会（編）『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50 %), final report (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

POL500A3

国連・平和構築研究 2

弓削 昭子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on peacebuilding), the students will examine the role and activities of the UN and its various agencies in peacebuilding around the world. The students will analyze peacebuilding and related issues from political, economic, social, environmental, human rights, and security angles thereby deepening understanding on their inter-linkages.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding of conflict prevention, post-conflict reconstruction and peacebuilding and how the UN system and its agencies have addressed the various challenges related to these. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in peacebuilding. Through presentation and discussion in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国連・平和構築研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国連・平和構築研究2（平和構築）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to conflict prevention, post-conflict reconstruction, and peacebuilding, especially those supported by the UN system and its agencies. Classes will focus on the analysis of different aspects of peacebuilding as well as the roles of various actors in peacebuilding through class presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction: what is peacebuilding?	Overview of peacebuilding
2	Conflict prevention	Conflict prevention and the role of UN
3	Peacekeeping	Evolution of UN peacekeeping operations
4	Peacebuilding	Peacebuilding and role of UN
5	Poverty and fragility	Peacebuilding and poverty and fragility
6	Peacebuilding steps	Different phases of peacebuilding
7	Actors in peacebuilding	Cooperation among stakeholders in peacebuilding
8	Humanitarian intervention	Responsibility to Protect (R2P)
9	Humanitarian action	Humanitarian action and coordination
10	Peacebuilding and economic development	Development and peacebuilding nexus
11	Democracy and good governance	Peacebuilding and governance
12	Women and gender	The role of women and gender in peacebuilding
13	Prospects for UN reform	UN reform in peacebuilding
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations, Oxford University Press, 2018.

・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

・ Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), International Development, Ideas, Experiences, & Prospects, Oxford University Press, 2014.

【参考書】

・ Edward Newman, Roland Paris, and Oliver P. Richmond (ed.), New Perspectives on Liberal Peacebuilding, United Nations University Press, 2009.

・ Ramesh Thakur, Reviewing the Responsibilities to Protect: Origins, Implementation and Controversies (Global Politics and the Responsibility to Protect), Routledge, 2019.

・ 稲田十一、『紛争後の復興開発を考える アンゴラと内戦・資源・国家統合・中国・地雷』、創成社、2014年

・ 稲田十一（編）、「開発と平和、脆弱国家支援論」、有斐閣ブックス、有斐閣、2009年

・ 横田洋三（編）『国連による平和と安全の維持 解説と資料 第2巻』国際書院、2007年

・ 日本国際連合学会（編）『平和構築と国連』国連研究第8号、国際書院、2007年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50 %), final report (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

POL500A3

国際行政研究 1

坂根 徹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究1では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際行政研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際公共政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

先ずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な説明を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源を論じる。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概説
3	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開の概説
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の推進主体1	国連システム
7	国際公共政策の推進主体2	EU
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策の必要資源1	資金
11	国際公共政策の必要資源2	人材
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介する文献・資料等を適宜参照することに加えて、特に終盤の調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進度、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGOの役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第10号、国際書院、2009年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

・「国連 PKO における民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第35巻第2号、内外出版、2008年に所収）

【Outline and objectives】

Main theme of this seminar (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public policy. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ A

杉田 敦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成に向けて、チュートリアルを通じて、それぞれの研究テーマに即した知識を獲得する。

【到達目標】

博士論文執筆に必要な知識の獲得と、執筆上に必要な方法論を獲得するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、受講者から研究の進捗状況について報告し、必要な研究上の助言を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	チュートリアル 1	研究状況に沿った助言 1
第2回	チュートリアル 2	研究状況に沿った助言 2
第3回	チュートリアル 3	研究状況に沿った助言 3
第4回	チュートリアル 4	研究状況に沿った助言 4
第5回	チュートリアル 5	研究状況に沿った助言 5
第6回	チュートリアル 6	研究状況に沿った助言 6
第7回	チュートリアル 7	研究状況に沿った助言 7
第8回	チュートリアル 8	研究状況に沿った助言 8
第9回	チュートリアル 9	研究状況に沿った助言 9
第10回	チュートリアル 10	研究状況に沿った助言 10
第11回	チュートリアル 11	研究状況に沿った助言 11
第12回	チュートリアル 12	研究状況に沿った助言 12
第13回	チュートリアル 13	研究状況に沿った助言 13
第14回	チュートリアル 14	研究状況に沿った助言 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、前回、教員から指定された文献を読み、その内容をまとめると共に、自らの研究の進捗状況をまとめ、報告を準備する。

【テキスト（教科書）】

講義中に、読むべき文献をその都度指定する。

【参考書】

必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点による。

【学生の意見等からの気づき】

今後も、さらに受講者とのコミュニケーションを密にし、必要な改善を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治理論

<研究テーマ>権力論

<主要研究業績>

「権力論」、「境界線の政治学 増補版」（いずれも岩波現代文庫）

【Outline and objectives】

In this class, participants will be given tutorials with regard to their respective research interests for their doctoral theses.

POL700A3

博士論文演習Ⅱ B

杉田 敦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成に向けて、チュートリアルを通じて、それぞれの研究テーマに即した知識を獲得する。

【到達目標】

博士論文執筆に必要な知識の獲得と、執筆上に必要な方法論を獲得するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、受講者から研究の進捗状況について報告し、必要な研究上の助言を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	チュートリアル1	研究状況に沿った助言1
第2回	チュートリアル2	研究状況に沿った助言2
第3回	チュートリアル3	研究状況に沿った助言3
第4回	チュートリアル4	研究状況に沿った助言4
第5回	チュートリアル5	研究状況に沿った助言5
第6回	チュートリアル6	研究状況に沿った助言6
第7回	チュートリアル7	研究状況に沿った助言7
第8回	チュートリアル8	研究状況に沿った助言8
第9回	チュートリアル9	研究状況に沿った助言9
第10回	チュートリアル10	研究状況に沿った助言10
第11回	チュートリアル11	研究状況に沿った助言11
第12回	チュートリアル12	研究状況に沿った助言12
第13回	チュートリアル13	研究状況に沿った助言13
第14回	チュートリアル14	研究状況に沿った助言14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、前回、教員から指定された文献を読み、その内容をまとめると共に、自らの研究の進捗状況をまとめ、報告を準備する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度指定する。

【参考書】

必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点による。

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションをより深める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治理論

<研究テーマ>権力論

<主要研究業績>

権力論、「境界線の政治学 増補版」（いずれも岩波現代文庫）

【Outline and objectives】

In this class, participants will be given tutorials with regard to their respective research interests for their doctoral theses.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ A

本多 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習は、博士後期課程の学生が博士論文を書き上げていくうえで必要な指導を行なう論文指導科目である。秋学期開講の「博士論文演習Ⅲ B」を併せて受講のこと。

【到達目標】

最終目標は博士論文を完成させることである。
 ・論文執筆の際に必要なアカデミック・スキルを身に付けること。
 ・関連分野の先行研究をしっかりと行うこと。
 ・研究発表を繰り返し、論文を練り上げていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指導教員の指導を受けながら、先行研究の読破と整理、論文構想の彫琢、論文執筆、とじっくりと時間をかけながら進めていく。学内の研究発表会および学外の研究会や学会での発表報告にもチャレンジしてコメントを得ることによって、論文の加筆・修正を繰り返しながら、論文完成へとステップを踏む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	論文執筆の心構え	博士論文の執筆にあたって心構えを知る。
2	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方に習熟する。
3	研究テーマと論文構想①	自分なりに研究テーマの設定を試みる。
4	研究テーマと論文構想②	研究方法（理論、仮説など）について考える。
5	先行研究の整理①	論文で扱うテーマに関連する先行研究について調べて整理する。
6	先行研究の整理②	論文で扱うテーマに関連する先行研究について調べて整理する。
7	先行研究についての発表	先行研究について報告し、フィードバックを受ける。先行研究の整理をさらに行う。
8	論文構想づくり①	自分なりに論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。
9	論文構想づくり②	自分なりに論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。
10	論文構想についての発表	論文構想について発表を行い、フィードバックを受け、論文執筆の準備に生かす。
11	論文テーマの設定	論文のテーマを確定する。
12	資料・文献の読破①	テーマに関連する文献・資料を読み解く。
13	資料・文献の読破②	テーマに関連する文献・資料を読み解く。
14	資料・文献の読破③	テーマに関連する文献・資料を読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業計画」に示した内容を参考に論文執筆の準備を進められたい。機会をみて、学外での研究会や学会に参加し、研究報告を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況（20%）、課題の提出（30%）、報告内容（50%）をふまえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究
 <研究テーマ>

国際社会の平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018)、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁—効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874, East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがあ

【Outline and objectives】

This course is designed for the students in the PhD course. Students are expected to acquire academic skills indispensable for writing doctoral thesis and complete the thesis. Students who take this course are required to take the continuous course IIIB in the fall semester.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ B

本多 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習は、博士後期課程の学生が博士論文を書き上げていくうえで必要な指導を行なう論文指導科目である。春学期開講の「博士論文演習Ⅲ A」を受講しておくこと。

【到達目標】

最終目標は博士論文を完成させることである。
 ・論文執筆の際に必要なアカデミック・スキルを身に付けること。
 ・関連分野の先行研究をしっかりと行うこと。
 ・研究発表を繰り返し、論文を練り上げていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指導教員の指導を受けながら、先行研究の読破と整理、論文構想の彫琢、論文執筆、とじっくりと時間をかけながら進めていく。学内の研究発表会および学外の研究会や学会での発表報告にもチャレンジしてコメントを得ることによって、論文の加筆・修正を繰り返しながら、論文完成へとステップを踏む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	執筆計画の提出	修士論文執筆のための計画書を提出する。
2	論文構想の彫琢①	論文の構想を練る。
3	論文構想の彫琢②	論文の構想を練る。
4	論文構想についての発表	論文構想について発表を行い、フィードバックを受け、論文執筆の準備に生かす。
5	論文の執筆	論文執筆に取り掛かる。
6	執筆部分の発表①	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
7	執筆部分の発表②	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
8	執筆部分の発表③	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
9	執筆部分の発表④	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
10	執筆部分の発表⑤	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
11	執筆部分の発表⑥	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
12	執筆部分の発表⑦	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
13	執筆部分の発表⑧	執筆した部分の発表を行い、コメントを得る。次回までに加筆・修正などを行い、論文のブラッシュアップをする。
14	まとめ	一年間の講評と今後の計画について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業計画」に示した内容を参考に論文執筆の準備を進められたい。機会をみて、学外での研究会や学会に参加し、研究報告を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況（20%）、課題の提出（30%）、報告内容（50%）をふまえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会の平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、『Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018)』、『国連による『スマート・サンクション』と金融制裁—効果の追求と副次的影響の回避を模索して』、『国連の金融制裁』(東信堂、2018年)、『平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』、『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』(明石書店、2016年)、『国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』(国際書院、2013年)、『北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』(勁草書房、2012年)、『『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』、『グローバリゼーションとアジア地域統合』(勁草書房、2012年)、『"The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874," East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010)』などがある。

【Outline and objectives】

This course is designed for the students in the PhD course. Students are expected to acquire academic skills indispensable for writing doctoral thesis and complete the thesis. Students who take this course are required to get through the course IIIA with credit in the spring semester.

POL600A4-1000

国際政治理論

森 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、初学者の受講を念頭に置いた国際政治学の入門講座である。その目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を広い視野から理解したり説明したりするのに必要な、国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野でこれまで生み出されてきた基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。また、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際政治の基礎理論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際政治理論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「国際政治学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻「国際政治学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で進める。日々動く国際情勢にも随時言及しながら、講義内容を解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	国際政治学の概要（1）	主要パラダイムの概観。理論とは何か。
2	国際政治学の概要（2）	学問としての国際政治学の発展の歴史。
3	国際政治学における分析の枠組み	分析レベルの問題。リサーチ・プログラムとは何か。
4	なぜ国家は競争・対立するのか（1）	リアリズムの中核概念。古典的リアリズムとは何か。
5	なぜ国家は競争・対立するのか（2）	ネオリアリズムとは何か。攻撃的・防衛的リアリズム。
6	なぜ国家は競争・対立するのか（3）	リアリズムの諸理論。リアリズムへの批判。
7	なぜ国家は協調するのか（1）	リベラリズムの中核概念。観念的・商業的・共和的リベラリズムとは何か。
8	なぜ国家は協調するのか（2）	ネオリベラル制度論とは何か。ネオ・ネオ論争。リベラリズムへの批判。
9	なぜ国家間関係は変化するのか（1）	コンストラクティビズムの中核概念。適切性の論理と結果の論理とは何か。
10	なぜ国家間関係は変化するのか（2）	規範と文化に関する諸理論。コンストラクティビズムへの批判。
11	国家の対外政策はどのように決まるのか（1）	対外政策過程分析の諸モデル。政治指導者と対外政策。
12	国家の対外政策はどのように決まるのか（2）	ネオクラシカル・リアリズムとその諸理論。
13	国際秩序とは何か	国際秩序の定義。国際秩序の理論的類型。
14	総括	全体の振り返りとまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関心を持ったトピックについて、参考書で関連用語を調べ、理解を深めるといった個人的な努力を積み、ゼミでの研究に結びつく力を養うことができる。
・新聞の国際面の記事を読みながら、授業で習った概念を使って、そこで報じられている事件・事象をどう理解できるかを常に考える癖をつけるとなると良い。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。

- ・田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』、有斐閣ブックス、2004年、2400円。
- ・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013年、3000円。
- ・世界地図。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施し評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

- ・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。
- ・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義用アウトライン（見出し入りレジュメ）を授業支援システムにアップロードするので、履修者は各自でそれをダウンロードして、授業に持参するとい。アウトラインに、授業で使用するパワーポイントや講義の内容を書き込んでいくとよい。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

- ＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
- ＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
- ＜主要研究業績＞
- ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
- ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
- ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
- ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
- ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。
- など

【Outline and objectives】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL600A4-1010

アメリカ外交史

森 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「アメリカ外交研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。国際政治学専攻「アメリカ外交史」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。アウトラインを配布し、パワーポイントを使用しながら講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レント・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、主要な出来事の発生要因を整理しておくことよい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。
斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施し評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、今回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
<主要研究業績>
・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。
など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL600A4-1011

アジア国際政治史

福田 円

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、近現代における東アジア諸国・地域の歴史について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者が東アジア近現代史について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、特定の時期、諸国・地域について研究した文献を精読する。そして、精読した文献が東アジア近現代史を理解する上で、どのような意味を持つのかについて議論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度の授業においては、対象とする戦後中華民国・台湾史および日華・日台関係史の研究動向について、まず教員が講義を行う。その後、戦後日華・日台関係の推移と「台湾外交」が形成される過程について論じた文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と精読文献の紹介
第2回	文献精読の準備（1）	台湾現代史に関する研究動向
第3回	文献精読の準備（2）	日華・日台関係に関する研究動向
第4回	文献精読（1）	台湾の中華民国外交の特徴
第5回	文献精読（2）	1950年代の米台関係と「現状維持」をめぐるジレンマ
第6回	文献精読（3）	1961年の中国代表権問題をめぐる米台関係
第7回	文献精読（4）	政経分離をめぐる日中台関係の展開
第8回	文献精読（5）	1960年代の日華関係における外交と宣伝工作
第9回	文献精読（6）	中華民国の国連脱退とその衝撃
第10回	文献精読（7）	日華断交のとき 1972年
第11回	文献精読（8）	外交関係なき「外交」交渉
第12回	文献精読（9）	中華民国外交から台湾外交へ
第13回	文献精読（10）	「現状維持」の再生産と台湾外交の形成
第14回	議論：台湾外交の形成	精読した文献の論点をまとめ、発展させるための議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する精読文献の該当部分および配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

輪読文献の他には特に指定しない。2019年度は以下の文献と別途配布する論文（中国語、英語論文を含む可能性もある）を輪読する予定である。

清水麗『台湾外交の形成-日華断交と中華民国からの転換』名古屋大学出版会、2019年

【参考書】

福田円『中国外交と台湾-「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013年

川島真・松田康博・楊永明・清水麗『日台関係史 1945-2008』東京大学出版会、2009年
若林正文『台湾の政治-中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008年

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline and objectives】

This course aims to introduce and analyze the history of international relations in East Asia since 20th century.

POL600A4-1005

国際公共政策研究 1

坂根 徹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究1では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際行政研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際公共政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

先ずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な説明を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源を論じる。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概説
3	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開の概説
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の推進主体1	国連システム
7	国際公共政策の推進主体2	EU
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策の必要資源1	資金
11	国際公共政策の必要資源2	人材
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介する文献・資料等を適宜参照することに加えて、特に終盤の調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、発表・レポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進度、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGOの役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第10号、国際書院、2009年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

・「国連 PKO における民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第35巻第2号、内外出版、2008年に所収）

【Outline and objectives】

Main theme of this seminar (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public policy. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL600A4-1006

国際公共政策研究 2

坂根 徹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究2では、「日本の国際公共政策：International Public Policy of Japan」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策について、特に日本に焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

先ずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、政策・公共政策に関して一般的な説明を行い、日本との関係に焦点を当てて国際公共政策とその史的展開を確認する。その後、日本の中央政府・地方政府という政策の推進主体及び、政策の推進に必要な資金・人材という代表的な資源を国際公共政策の見地から論じる。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	公共政策	政策・公共政策の概説
3	国際公共政策	国際公共政策を日本との関係に焦点を当てて概説する
4	調査研究テーマの選定と検討	調査研究テーマの選定と調査の進め方の検討
5	歴史	国際公共政策の史的展開を日本との関係で検討する
6	日本の国際公共政策の推進主体1	中央政府
7	日本の国際公共政策の推進主体2	地方政府
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	日本の国際公共政策の必要資源1	資金
11	日本の国際公共政策の必要資源2	人材
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介する文献・資料等を適宜参照することに加えて、特に終盤の調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を 50%、発表・レポートを 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがありうる。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際公共政策・国連研究・行政学等

＜研究テーマ＞国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

＜主要研究業績（比較的最近の単著論文から3篇を抜粋）＞

・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGOの役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第10号、国際書院、2009年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., *International Handbook of Public Procurement*, Taylor and Francis, 2008)

・「国連 PKO における民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第35巻第2号、内外出版、2008年に所収）

【Outline and objectives】

Main theme of this seminar (International Public Policy 2) is to learn and consider about international public policy of Japan. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL600A4-1007

国際協力政策研究 1

武貞 稔彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

授業の到達目標は、(1) 現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2) 国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3) 誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際開発政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。国際政治学専攻「国際協力政策研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。公共政策学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻「国際協力論」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に予習が必要な文献には英語文献も含まれるため、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景-途上国の貧困と先進国との格差-について概観する
第2回	国際協力をめぐる歴史と制度 (1) 経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治/歴史の文脈に位置づけて概観する。
第3回	国際協力をめぐる歴史と制度 (2) 経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方/取り組みの重点の変化を概観する。
第4回	国際協力をめぐる歴史と制度 (3) 環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける
第5回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。
第6回	「開発」とは何か: 開発と文化、社会科学	現在すすめられている開発の到達目標(行き着く先)について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。
第7回	アフリカ	国際協力における近年の「大きな課題(問題)」であるアフリカについて、何が「問題」となっているのか、その由来や対応を含めて概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごと（最終回を除く）に必要なリーディングを指定しますので、受講者は授業支援システムから当該文献をダウンロードし、事前に熟読して講義に臨むことが必要です。また報告担当者はレジュメを作成のうえ、配布し報告を行うこととします。

担当者を決める都合上、第1回の講義には必ず参加してください。（出席が困難な場合は担当教員に必ず事前に連絡をしてください。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

斎藤文彦『国際開発論』（日本評論社）、下村恭民他『国際協力』（有斐閣）、外務省『日本の経済協力』（ODA 白書）を基本書とします。他は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート（50%）、各回の担当報告の内容（30%）、授業やディスカッションへの貢献（20%）を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理
＜研究テーマ＞ 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

＜主要研究業績＞

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430.

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房 2012 年、
"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【Outline and objectives】

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting special emphasis on Japan's role in the international society.

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and
- 3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

POL600A4-1012

非伝統的安全保障研究

本多 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現在の国際社会を理解するうえで不可欠な「非伝統的安全保障研究」の最前線について学ぶ。非伝統的安全保障研究とは、多くは非軍事的ではあるが、国家や人にとって「安全を脅かす」とみなされる事象について、事象の性質を見極めたうえで、どのような視点から分析できるかを考察する研究分野である。主権国家を単位とする近代の国際社会において、安全保障はもともと重要視される価値のひとつであるが、その概念はもともと状況依存的であることから、国際秩序の状況に応じて対象となる問題領域は変化してきた。とくに冷戦後は、経済危機、環境、難民・避難民、感染症などが安全保障上の重要な問題として顕在化したことによって安全保障をめぐる概念は多義化し、民主主義、人権、責任などの価値の広がりや背景に大きく変容してきた。授業では、変容してきた安全保障概念について整理した後、「誰か誰をどのような脅威からどう守るのか」という点に注目して、非軍事的で越境的な脅威とそれらに取り組む国際社会がどのように研究されてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・変容する安全保障概念について理解する。
- ・非伝統的安全保障問題の分析方法について学ぶ。
- ・非伝統的安全保障を扱った研究論文を通じて、現在の安全保障研究の最前線を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

担当教員が理論の整理などを行ったあと、受講生がそれぞれ関心のある非伝統的安全保障問題を選択し、報告を行い、議論を持つ。事前の文献購読を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と講読文献についての説明
第2回	安全保障概念の変遷	安全保障概念の多義化と再構築への試み
第3回	非伝統的安全保障とは何か	非伝統的安全保障問題と研究の系譜
第4回	非伝統的安全保障問題へのアプローチⅠ	理論と方法①
第5回	非伝統的安全保障問題へのアプローチⅡ	理論と方法②
第6回	民族紛争と安全保障	理論と事例
第7回	貧困と経済の安全保障	理論と事例
第8回	環境と安全保障	理論と事例
第9回	食糧と安全保障	理論と事例
第10回	エネルギーと安全保障	理論と事例
第11回	人の移動と安全保障	理論と事例
第12回	グローバル・ヘルスと安全保障	理論と事例
第13回	組織犯罪と安全保障	理論と事例
第14回	テロリズムと安全保障	理論と事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された文献を必ず読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Mely Caballero-Anthony, "An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach," SAGE Publications, 2016.

【参考書】

Barry Buzan, Ole Wæver, and Jaap De Wilde, Security: A New Framework for Analysis (London: Lynne Rienner Publishers, 1997)、篠田英朗『国際社会の秩序』東京大学出版、2007年。その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表報告（40%）、議論への参加（10%）と期末レポート（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「地球規模課題政策研究」を秋学期に開講する。「地球規模課題政策研究」は、国家や国際機構、市民社会などのさまざまなアクターがグローバル・イシューを解決するために取り組んでいる政策と実践について、国際機構論の視点から考察するものである。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会の「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、"Complex Emergencies and Humanitarian Response" (Union Press, 2018)、『国連による「スマート・サンクション」と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジュンガー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874, East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。

【Outline and objectives】

Who secures safety of whom, from what kinds of threats, and how? — Concept of security has changed with the times. The objective of this course is to analyze changes in security concepts from the historical perspective. With the end of the Cold War era, the international community met the decrease in interstate conflicts but the increase in intrastate conflicts originated from religious/ethnic frictions. States have faced newly-emerged threats, so-called non-military issues or "non-traditional" security issues which include infectious diseases, environment degradation; displaced persons emerged from intra conflicts. And states recognize those non-traditional issues as "threats" to their national safety, and politicize them, and then securitize them by formulating national policies. Students are expected to understand the changing international security environment and how theorists and political scientists have tried to analyze the situation by using theories.

POL600A4-0100

Academic Reading (初級)

アラン メドウズ

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This lower-level graduate course aims to help students acquire the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

The course will enable students to develop all four language skills: reading, writing, listening and speaking, although the main focus will be on reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of sources, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals will be studied. The aim throughout will be to boost academic reading and critical thinking skills, together with the acquisition, and active use of, the academic vocabulary necessary to function at this level of study. Interaction with classmates in pair, small group and whole class activities will offer ample opportunity to exchange information and opinions. Students will also undertake reading exercises leading to a variety of oral and written assignments to be submitted throughout the course.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course Orientation and Introductions	Overview of course.
2	How to be an Active Reader	Advice on practical reading skills. Introduction to the Academic Word List.
3	Reading Theme I: Learning Styles	Reading based on analysis of different learning styles.
4	Reading Theme II: College Life	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world.
5	Reading Theme III: Political Science	Readings on issues related to Political Science.
6	Reading Theme IV: Environmental Science	Readings on issues related to Environmental Science.
7	Reading Theme V: The Population Bomb	Readings on global demographic trends and their effects on Global Politics.
8	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
9	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
10	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
11	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
12	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
13	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
14	Final Wrap Up	Course Review and Final Presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to read widely on any given topic, as directed by the instructor.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course.

【参考書】

Materials will be provided by the instructor or accessible via the internet or through the university library or bookshop.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.

Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

【学生の意見等からの気づき】

None

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline and objectives】

As above

POL600A4-0101

Academic Reading (上級)

ザヘル・ハスン

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

The main focus is to improve student's reading comprehension, critical thinking skills regarding the content and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course will attempt to utilize and improve all four language skills to increase comprehension and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material. The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of media, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals and web-based material will be utilized and studied with the aim of boosting academic reading and critical thinking skills, along with vocabulary acquisition. Introduction to action plans and mediated action plans. Interaction with classmates in pair work, small group and whole class activities will offer ample opportunities to exchange information and opinions in an interactive manner. Reading circles will be used for discussions based on reading material with group member having various responsibilities to perform.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第 2 回	Presentation/Debate simulation	Debate and presentation principles
第 3 回	Preparation for Debate	Preparation and research for debate
第 4 回	Proposals in Debate and Negotiation	Proposals and the debate process
第 5 回	Bargaining and Presentation	Bargaining and presentation of debate results
第 6 回	Debate Topic I	Debate Topic I - Preparation stage
第 7 回	Debate Topic I (continued)	Debate Topic I - Debate stage
第 8 回	Debate Topic I (continued)	Debate Topic I - Proposal stage
第 9 回	Debate Topic I (continued)	Debate Topic I - Final Bargain and Presentations
第 10 回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第 11 回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第 12 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 13 回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第 14 回	Global Politics Reading Theme II Final Presentations Final Essay exam	Action Plans and global and local problems Final exam and course feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

This is a practical course in which students will be actively engaged in a variety of tasks and activities. They will be expected to do sufficient research and preparation outside of

the classroom to engage in a meaningful and productive series of discussions, presentations and formulations of action plans.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds

【成績評価の方法と基準】

30% Advanced academic reading and negotiation.

20% Action Plans on global and local problems

30% Active class participation and homework.

20% Final Essay Exam

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare papers, action plans and presentations on various topics and learn from each other.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

POL600A4-0102

Thesis Writing (初級)

アラン メドウズ

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline and objectives】

As above.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is the lower-level G-GAP Thesis Writing course.

【到達目標】

The course aims to help students acquire the fundamental skills needed to write an academic thesis in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

This lower-level graduate course will enable students to become familiar with the fundamentals of the writing process: from brainstorming and note-making, through the organisational stages to the final editing and proofreading of a completed piece of work. During the course, students will be expected to hone their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Regular 'language clinics' will help to minimize common organizational, grammatical and stylistic errors. Most of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	The Writing Process I	Narrowing down a topic and writing an outline.
3	The Writing Process II	Writing the introduction. Working on the thesis statement.
4	The Writing Process III	Writing the conclusion
5	Paragraph Structure I	Unity within a paragraph.
6	Paragraph Structure II	Unity between paragraphs.
7	Supports I	Illustrative examples.
8	Supports II	Paraphrasing.
9	Supports III	Summarising.
10	Supports IV	Quotations.
11	Supports V	Facts and statistics. In-text citations and the bibliography.
12	Academic Style I	Formality
13	Academic Style II	Hedging and tentative language.
14	Academic Style III	Synonyms and modal verbs.
	Course Wrap Up	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The bulk of the writing tasks will be undertaken outside of the classroom. Students will be expected to fulfill all homework requirements and meet all deadlines as the course proceeds.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments

40% Report

Students are expected to attend at least 70% of the lessons offered or risk failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

This syllabus is flexible and subject to change in line with the ability level and particular needs of the students, as assessed by the instructor.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

POL600A4-0103

Thesis Writing (上級)

ザヘル・ハスン

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students expand and formalize the skills needed to write an academic thesis in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

During the course, students will be expected to develop their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Grammatical mini-clinics will attempt to minimize common stylistic, grammatical and organizational errors. Much of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, self and peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Overview of the course and self-introductions
第 2 回	Pre-writing	Topic generation and brainstorming
第 3 回	Writing the Introduction	The Thesis Statement
第 4 回	Paragraph Structure	Review of the three parts of a paragraph
第 5 回	Unity and Coherence	How to unify the content within a paragraph
第 6 回	Supporting Details	How to find and explain facts quotations and statistics
第 7 回	Facts vs. Opinions	How to decide what is fact and what is opinion
第 8 回	Paraphrasing and Quotations	The differences between paraphrasing and quoting
第 9 回	Summarizing	How to state the main idea in your own words
第 10 回	Argumentation	Investigating collecting generating and evaluating evidence
第 11 回	Types of sentences	Writing dependent and independent clauses
第 12 回	Parallel Structures	Showing how two or more ideas have the same level of importance
第 13 回	Opposition Clauses	Focusing on adverb clauses showing unexpected results
第 14 回	Participial Phrases Course Review and Evaluation	How to make your sentences more powerful and richer Summary of ideas covered and individual conferences

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to take an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course. This is very much a practical course in which students will be actively engaged in a variety of tasks and activities. Students will be expected to do sufficient research and preparation outside of the classroom to enable a meaningful and productive series of discussions and evaluations of writing samples and critical analysis of rhetorical styles

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, in-class participation, and the quality of in-class and submitted written work. Further details relating to the grading criteria will be announced during the first class.

The final Thesis product will comprised 50% of the final grade

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

POL600A4-0104

Presentation & Debate (初級)

アラン メドウズ

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is the lower-level G-GAP Presentation and Debate course. The course will present students with a range of topical global issues that lend themselves to discussion, debate and formal presentations. It is designed to give students the ability to identify, analyze, explain, summarize and evaluate the key arguments that underpin a variety of global political issues. Practical advice will be given on how to give academic presentations, Students will learn the mechanics of debate and how to hone their analytical and delivery skills so as to more effectively defend their case within an academically challenging environment.

【到達目標】

This course aims to develop students' presentation and debating skills so that they are able to exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making abilities. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to global politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. Students will be offered guidance in their research and information gathering activities, instruction in using appropriate language and delivery techniques, and help in developing their critical listening and evaluation skills.

By the end of the course students will have an improved understanding of the procedures and constrictions of making academic presentations and should be able to conduct debates with increased confidence and effectiveness.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	Key Presentation and Debate Skills	Voice control, body language, content. Organizing, explaining and supporting opinions. Challenging supports and organizing your refutation.
3	News briefs (1)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
4	News briefs (2)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
5	Case Study	Examination of the arguments relating to a debate topic to be decided in consultation with the students.
6	Case Study	Continuation of the previous lesson.
7	In-class Debate	Debate.
8	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
9	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
10	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
11	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
12	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
13	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
14	Presentation and/or final Debate Course Wrap Up	Course review and final presentations.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Most of the actual research and writing of each presentation and/or debate will be undertaken outside of classroom. Students will be expected to fulfill all homework requirements and meet all deadlines as the course proceeds.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this class.

【参考書】

All necessary materials will be provided by the instructor. More information will be given during the course orientation.

【成績評価の方法と基準】

A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% = 80%.

Class participation 20%.

Students are expected to attend at least 70% of the lessons offered or risk failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Note: This syllabus is flexible and subject to change. The amount of time needed for the class to complete assignments and each round of presentations and debates is difficult to predict. Stay alert in class for precise dates for assignments.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline and objectives】

As above.

POL600A4-0105

Presentation & Debate (上級)

ザヘル・ハスン

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

【到達目標】

For students to develop critical thinking skills regarding the global political environment. Cooperative learning will be a main focus with students learning about various content areas from each other. Teamwork, autonomy, and research skills will be developed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to Global Politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. In the early stages of the course, students will prepare for the debate process through topic identification, research into that topic, both for and against a position, write either affirmative or negative case positions and anticipate problems with their positions and then present their position in formal class debates and presentations. Following the debates, specific proposals will be written, discarding some of the weaker aspects of their position and incorporating some of the stronger aspects of the opposition. Finally, formalized debates will take place with a goal of seeking a solution agreeable to the interests of both parties.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Presentation 1	Three greatest accomplishments
第3回	Presentation 1 (cont.)	Three greatest accomplishments
第4回	Presentation 2 preparation	Future Nobel Peace Prize winners
第5回	Presentation 2	Future Nobel Peace Prize winners
第6回	Presentation 2 (cont.)	Future Nobel Peace Prize winners
第7回	Persuasive Presentations	Persuasive presentations introduction
第8回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第9回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第10回	Problem solving presentations	Problem solving presentations
第11回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第12回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第13回	Final Presentation Preparation	Final Presentation Preparation
第14回	Final Presentations	Final Presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

This is a practical course in which students will be actively engaged in a variety of tasks and activities. They will be expected to do sufficient research and preparation outside of the classroom to engage in a meaningful and productive series of debates, presentations and negotiations during class time.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

20% First In-Class debate and presentation.
20% Second In-Class debate and presentation.
20% Third In-Class debate and presentation.
20% Fourth In-Class debate and presentation.
20% Active class participation and homework.

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

POL600A4-2200

国連・平和構築研究 1 (国連組織)

弓削 昭子

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政治学専攻「国連・平和構築研究 1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。国際政治学専攻「国連・平和構築研究 1 (国連組織)」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat's role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General's role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN's relationship with regional actors
11	Civil society	UN's relationship with civil society actors
12	Private sector	UN's relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト (教科書)】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations, Oxford University Press, 2018.
・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

【参考書】

・ Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.
・ 日本国際連合学会 (編) 『グローバル・コモンズと国連』 国連研究第 15 号、国際書院、2014
・ 日本国際連合学会 (編) 『新たな地球規範と国連』 国連研究第 11 号、国際書院、2010 年
・ 日本国際連合学会 (編) 『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』 国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50 %), final report (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

POL600A4-2201

国連・平和構築研究2（平和構築）

弓削 昭子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on peacebuilding), the students will examine the role and activities of the UN and its various agencies in peacebuilding around the world. The students will analyze peacebuilding and related issues from political, economic, social, environmental, human rights, and security angles thereby deepening understanding on their inter-linkages.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding of conflict prevention, post-conflict reconstruction and peacebuilding and how the UN system and its agencies have addressed the various challenges related to these. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in peacebuilding. Through presentation and discussion in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国連・平和構築研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国連・平和構築研究2（平和構築）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to conflict prevention, post-conflict reconstruction, and peacebuilding, especially those supported by the UN system and its agencies. Classes will focus on the analysis of different aspects of peacebuilding as well as the roles of various actors in peacebuilding through class presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction: what is peacebuilding?	Overview of peacebuilding
2	Conflict prevention	Conflict prevention and the role of UN
3	Peacekeeping	Evolution of UN peacekeeping operations
4	Peacebuilding	Peacebuilding and role of UN
5	Poverty and fragility	Peacebuilding and poverty and fragility
6	Peacebuilding steps	Different phases of peacebuilding
7	Actors in peacebuilding	Cooperation among stakeholders in peacebuilding
8	Humanitarian intervention	Responsibility to Protect (R2P)
9	Humanitarian action	Humanitarian action and coordination
10	Peacebuilding and economic development	Development and peacebuilding nexus
11	Democracy and good governance	Peacebuilding and governance
12	Women and gender	The role of women and gender in peacebuilding
13	Prospects for UN reform	UN reform in peacebuilding
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations, Oxford University Press, 2018.

・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

・ Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), International Development, Ideas, Experiences, & Prospects, Oxford University Press, 2014.

【参考書】

・ Edward Newman, Roland Paris, and Oliver P. Richmond (ed.), New Perspectives on Liberal Peacebuilding, United Nations University Press, 2009.

・ Ramesh Thakur, Reviewing the Responsibilities to Protect: Origins, Implementation and Controversies (Global Politics and the Responsibility to Protect), Routledge, 2019.

・ 稲田十一、『紛争後の復興開発を考える アンゴラと内戦・資源・国家統合・中国・地雷』、創成社、2014年

・ 稲田十一（編）、「開発と平和、脆弱国家支援論」、有斐閣ブックス、有斐閣、2009年

・ 横田洋三（編）『国連による平和と安全の維持 解説と資料 第2巻』国際書院、2007年

・ 日本国際連合学会（編）『平和構築と国連』国連研究第8号、国際書院、2007年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50%), final report (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

POL600A4-2202

国際公共調達研究 1

坂根 徹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共調達政策1では、「日本の国際公共調達政策 International Public Procurement Policy of Japan」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

国際公共調達政策について、特に日本の公共調達における国際的側面に焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、日本の行政について概説した後、日本の公共調達の課題について事例と対策を確認し、その公共調達について、WTO 政府調達協定や ODA における公共調達などの国際的な側面を検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究結果を発表して議論を行うとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	日本の行政の概説	日本の公共調達を論じる前提として日本の行政の概説を行う
3	日本の公共調達における課題	日本の公共調達における問題事例やその背景について検討する
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	日本の公共調達における課題への対策1	日本の公共調達における課題への組織的側面の対策
7	日本の公共調達における課題への対策2	日本の公共調達における課題への実施手法の側面の対策
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	WTO 政府調達協定と日本	WTO 政府調達協定と日本における適用
11	日本の ODA における公共調達	日本の ODA における公共調達についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介する文献・資料等を適宜参照することに加えて、特に終盤の調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を 50%、発表・レポートを 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の人数や関心テーマ・予備知識等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際公共政策・国連研究・行政学等

＜研究テーマ＞国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

＜研究業績の例（単著論文から 3 篇を抜粋）＞

・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGO の役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第 10 号、国際書院、2009 年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

・「国連 PKO における民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第 35 巻第 2 号、内外出版、2008 年に所収）

【Outline and objectives】

Main theme of this seminar (International Public Procurement Policy 1) is to learn and consider about international public procurement policy of Japan. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL600A4-2203

国際公共調達研究 2

坂根 徹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共調達政策 2 では、「国連システムの公共調達政策：Public Procurement Policy of the United Nations System」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共調達政策について、特に国連システムに焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

先ずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国連システムに関して全般的な説明を行い、国連システムの物資・サービスの調達について概説する。その後、個別機関の調達政策に関して、国連の PKO、WFP の食糧援助、UNICEF の保健衛生支援、UNHCR の難民支援等を具体例として取り上げて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表して議論するとともに、レポートを完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国連システム	国連システムの概説
3	国連システムの調達	国連システムの調達の概説
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	個別機関の調達政策	国連の PKO に関する調達政策についての検討
7	個別機関の調達政策	WFP の食糧支援に関する調達政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	個別機関の調達政策	UNICEF の保健衛生支援に関する調達政策についての検討
11	個別機関の調達政策	UNHCR の難民支援に関する調達政策についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けてレポート完成に向けての検討や全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介する文献・資料等を適宜参照することに加えて、特に終盤の調査研究発表とレポート提出に向けての事前準備をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を 50%、発表・レポートを 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の人数や関心テーマ・予備知識等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<主要研究業績（比較的最近の単著論文から 3 篇を抜粋）>

・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGO の役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第 10 号、国際書院、2009 年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., *International Handbook of Public Procurement*, Taylor and Francis, 2008)

・「国連 PKO における民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第 35 巻第 2 号、内外出版、2008 年に所収）

【Outline and objectives】

Main theme of this seminar (International Public Procurement Policy 2) is to learn and consider about public procurement policy of the United Nations System. By taking this seminar, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

POL600A4-2210

地球環境政治論

横田 匡紀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みや気候変動問題、パリ協定、トランプ政権などの事例により理解して行くことを目的とする。院生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらおうことをめざす。

【到達目標】

- ・気候変動問題、パリ協定、トランプ政権、生物多様性、化学物質管理などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際政治学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法 / Method(s)】

講義は、担当者及び受講者の自己紹介、概論的講義を踏まえて、地球環境政治の事例分析、アクター、グローバル・ガバナンスに関する課題文献の発表、討論という形式で進行します。最終的にレポートを提出してもらいます。また受講者の人数や関心によっては、パリ協定などの地球環境政治の 이슈を一つとりあげ、シミュレーションを体験してもらおうことも考えています。
*進捗や受講生の要望により、講義計画を変更することがあります。
*講義の参加にあたって、課題文献の発表と討論への参加が義務づけられます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議から SDGs まで
第3回	気候変動ガバナンス (1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス (2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題 (1)：生物多様性の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書など生物多様性をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題 (2)：化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンス	水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの新たな展開
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧 (Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権とトランプ政権、エネルギー政策、環境正義
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス (1)	NGO や企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス (2)	NGO や企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG 投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方 (1)	リアリズムとリベラリズム

第14回 地球環境政治の見方 (2) コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献を理解するよう努める。
関連する参考文献にあたる。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版、2018年
リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガंक編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018年
亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年
亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年
新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年
角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015年
小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016年
太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016年
蟹江憲史編『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
臼井陽一郎『環境のEU、規範の政治』ナカニシヤ出版、2013年
ナオミ・クライン『これがすべてを変える上・下』岩波書店、2017年
杉野綾子『米大統領の権限強化と新たな政策手段』日本評論社、2017年
中西優美子編『EU 環境法の最前線』法律文化社、2016年
早川有紀『環境リスク規制の比較政治学』ミネルヴァ書房、2018年
村田見嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年
中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年
大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』泉文社、2015年
足立研幾『国際政治と規範』有信堂、2015年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017年
鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017年
K.O'Neill, The Environment and International Relations, Second Edition, Cambridge UP, 2017.
H.Stevenson, Global Environmental Politics, Cambridge UP, 2017.
Peter Dauvergne, Justin Alger eds., A research agenda for global environmental politics, E. Elgar, 2018.

【成績評価の方法と基準】

発表、討論への参加 65%、レポート 35%

【学生の意見等からの気づき】

各々の院生のベースに配慮すること。
他の科目との関連や相違にも配慮すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

地球環境政治

<研究テーマ>

持続可能な発展のグローバル・ガバナンス、日本の地球環境外交

<主要研究業績>

(共著)『国際関係論 (第3版)』弘文堂、2018年
(共著)『平和と安全保障を考える事典』法律文化社、2016年

【Outline and objectives】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

POL600A4-2211

持続可能な開発のための教育（ESD）

弓削 昭子

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussions (50%), final report (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, international organizations

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, the students will examine the various elements of the 2030 Agenda for Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) as well as education for sustainable development (ESD). The role of various stakeholders including governments, international organizations, civil society, the private sector, and the academic community in the implementation of SDGs will be analyzed with a view to strengthening partnerships among them to accelerate SDGs implementation. The students will also explore how they can contribute to the achievement of the SDGs.

【到達目標】

The students will deepen their understanding of the 2030 Agenda and SDGs and key issues related to its implementation. They will examine how they can participate towards the achievement of SDGs in concrete terms and will take actions accordingly. Through presentations and discussion in English, the students will also enhance their English language proficiency thereby enhancing dialogue and take action at the global level in SDGs implementation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to the 2030 Agenda and the SDGs. Classes will focus on analysis of different aspects of SDGs as well as implementation issues and role of different actors through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study SDG-related materials produced by the UN and other countries and international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Meaning, elements, and evolution of ESG
2	Meaning of sustainable development	Evolution of concept of sustainable development
3	Issues related to sustainable development	Global Action Program of ESD
4	Sustainable Development Goals (SDGs)	2030 Agenda on Sustainable Development and SDGs
5	Progress on SDGs	Implementation and issues on SDGs
6	Poverty	SDGs and poverty eradication
7	Human rights	SDGs and human rights
8	Environment and climate change	SDGs and environment and climate change
9	Disaster reduction	SDGs and disaster reduction
10	Gender issues	SDGs and gender
11	Peaceful societies	SDGs and peace and security
12	Global partnerships	SDGs and global partnerships
13	Human resources	SDGs and human resources
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

・ Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), International Development - ideas, experience & prospects. New York: Oxford University Press, 2014.

・ Documentation of the UN and other sources will be distributed in class.

【参考書】

・ Raj M. Desai, Hiroshi Kato, Homi Kharas, John W. McArthur (ed.), From Summits to Solutions: Innovations in Implementing the Sustainable Development Goals, Brookings Institution Press, 2018.

・ United Nations Development Programme (UNDP), Human Development Report 2011: Sustainability and Equity, A Better Future for All. New York: Palgrave Macmillan, 2011.

POL600A4-2216

国際食糧資源エネルギー政策

柴田 明夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界は資源の「枯渇」、「環境」、「利害対立」という3つの問題に直面しています。本授業は、原油、金属、穀物、水などの資源の特性を理解し、政治・経済・社会への影響を考慮したうえで、問題解決の具体的な取り組みを考えることが目的です。

【到達目標】

資源問題について、自ら専門用語を用いて分析し、将来を洞察する力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

資源とはなにか、といった視点から枯渇性資源、再生可能資源について原油や穀物など、個別具体的な資源を取り上げ、理解を深めることにします。その上で、ダイナミックに変動する国際資源市場に目を転じ、資源価格がどのように決まるのか、主要資源国の戦略（資源ナショナリズム）、資源メジャーの戦略などの切り口から資源市場を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	資源とは何か	濃縮され経済的位置に大量にある自然物
第2回	資源エネルギー論概要	経済と資源エネルギー
第3回	一次エネルギー	産業革命以降の資源エネルギー消費
第4回	鉱物の特性	原油、天然ガス、石炭、原子力 鉄・鉄鉱石、非鉄（ベースメタル、レアメタル）、金
第5回	食糧（穀物、油糧種子）	小麦、コム、トウモロコシ、大、
第6回	その他農産物	コーヒー、綿花、砂糖とその政治性
第7回	水資源について	地球の水、加速化する水需要、バーチャルウォーター、水資源管理
第8回	資源価格の特性	需要・供給に対する価格の非弾力性、価格発見の場としての先物市場
第9回	気候変動と食料	地球温暖化問題、エルニーニョ、ラニーニャ
第10回	遺伝子組み換え作物（GMO）	大豆、トウモロコシに見る普及の状況、そのメリット・デメリット、ゲノム編集について
第11回	グローバリゼーションと貿易の自由化	リカードの比較優位論、GATT からWTO まで
第12回	グローバリゼーションと貿易の自由化	アジア通貨危機以降の貿易自由化：EPA, TPP, FTA の現状と問題
第13回	地球温暖化問題	パリ協定と低炭素社会の構築に向けて、ESG 投資、化石燃料からの投資撤退
第14回	資源の枯渇問題と将来世界	グローバリゼーションからローカリゼーションへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・雑誌・ウェブ版のニュースなどから、資源問題に関する話題を各自毎回取り上げ、そのニュースの概要、取りあげた理由、意見・評価を行うこと。

【テキスト（教科書）】

毎回、関連する資源のテーマに関しレジュメを用意する。

【参考書】

柴田明夫『資源に何が起きているか？』（TAC 出版）、『資源を読む』『資源インフレ』、『食糧争奪』『食糧危機に備えよ』日本経済新聞出版社。『1時間図解世界資源地図』中経出版、『シェール革命の夢と現実』（PHP 出版）

【成績評価の方法と基準】

出席状況、平常の授業の中でのディスカッションなどを通して評価。特に、試験・レポートの提出は求めない。

【学生の意見等からの気づき】

食糧とエネルギー（原油・天然ガス・石炭）、産業鉱物（鉄・銅・アルミ・レアメタル）などが市場を通じて相互に関連し合い、国際政治経済にも大きな影響を及ぼしている点を理解している学生がほとんどいないということ。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

食糧資源エネルギー問題は、一国の経済問題に止まらず、広く国際政治情勢、地球環境、技術、人口、貧困など様々な要因が複雑に絡み合った問題である。何事にも好奇心と問題意識をもった学生諸君の受講を希望する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

石油、非鉄、穀物などの一次産品市場分析、農業経済

<研究テーマ>

国際情勢と資源市場の関連、日本農業・農村問題

日本の資源外交戦略－レアアース型危機を視野に（世界経済評論 2011.3.4）

水 日本は三百億トンの輸入国（文芸春秋 2008.10）

「需給再均衡」を探る動きが続く一次産品市況（輸入食糧協議会 2017.Nov.）

他多数

日本の資源外交戦略－レアアース型危機を視野に（世界経済評論 2011.3.4）

水 日本は三百億トンの輸入国（文芸春秋 2008.10）

「需給再均衡」を探る動きが続く一次産品市況（輸入食糧協議会 2017.Nov.）

他多数

<主要研究業績>

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

Now, the world is facing with 3 problems, those are “depletion”, “environment” and “antagonism between interesting”.

The goal of this course is grasp the meaning of a characteristic of National Resources, namely Crude oil, Metals, Grains and Water, considering the influence on Politics, Economy, Society. to find various possibilities to find solutions.

POL600A4-2218

グローバル・ビジネス研究

瀧澤 道夫

【Outline and objectives】

Since the cold war is over, the importance of geo-economics becomes greater.

We will observe various impacts of global change.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦終了後の国際政治においては地経学の比重が高まっている。さまざまな変化の要因やインパクトをグローバルにとらえ、とりわけ変化のスピードが上がっている様相を考察しながら政治経済を中心としたグローバル・ビジネスを学ぶ。

【到達目標】

グローバルな変化のスピードが高まる中で国際政治は常に新たな課題と向き合っているが冷戦構造が終了し、欧米先進国から中進国に軸足が移行する側面と20世紀から続く未解決な問題や課題を整理しながら、構造的、多面的な視点でのグローバルな知見の獲得を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義と購読・討議の両建てで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方。購読の進め方。受講者の関心と興味など
第2回	経済発展と社会的発展	シュムペーター理論の概要
第3回	自由貿易をめぐる諸相	2世紀以上続く自由貿易の議論、今日的な意味あい
第4回	広がる市場と経済協定	WTO/FTA や TPP をめぐる変化とインパクト
第5回	購読と討議	グローバル経済の源流
第6回	購読と討議	高度成長経済
第7回	購読と討議	アジア通貨危機
第8回	購読と討議	拡大する中所得者層
第9回	購読と討議	新興経済諸国
第10回	購読と討議	金融経済危機
第11回	購読と討議	グローバル・ガバナンス
第12回	購読と討議	ICTの発達と普及
第13回	開発国家の変容	東アジア開発国家の特徴と変容
第14回	持続的発展	環境、人権、持続的発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グローバルなニュースに接し変化のスピードを考える

【テキスト（教科書）】

The Nest Convergence

Michael Spence

（購読時のテキスト）

【参考書】

ウェブ掲載の論文

「持続的発展を目指す東アジア」

「スキルアップの社会学」

【成績評価の方法と基準】

出席50%、購読を含めた講義への積極的参加50%で評価する

【学生の意見等からの気づき】

質問や疑問があれば遠慮なく出してください

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

政治経済、グローバル・ビジネス（海外駐在14年を含むビジネス経験30年）

<研究テーマ>

グローバル・アジア

シンガポール、タイ、香港に14年海外駐在、投融資や海外プロジェクトに

30年間従事

<主要研究業績>

「黒船は何を目指したか？」

「シンガポールの都市型観光産業の分析」

「社会人基礎力とスキルアップの社会学」

「持続的発展を目指す東アジア」

POL600A4-2222

地球規模課題政策研究

本多 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際機構論の視点から、国際機構、地域的機構、企業、市民社会などの重要な行為主体（アクター）が、国際社会の秩序を回復・維持するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのか、あるいは機能してこなかったのかについて考察する。授業では安全保障をめぐる問題、開発問題、貧困問題、環境問題、感染症問題などの地球規模の問題（グローバル・イシューあるいはトランスナショナル・イシュー）を取り上げ、それらを解決するための各アクターの役割と機能、政策、課題について考察する。その際に、各アクター間の協働と確執について注目し、各問題領域で形成されつつある「ガバナンス」の現状と今後の課題を展望する。

【到達目標】

- ・時代とともに変容してきた国際機構、企業、市民社会の役割・機能についての知識を身に付ける。
- ・地球規模の問題を解決するために、協働と確執を繰り返しながら取り組むさまざまなアクターの政策と活動について理解する。
- ・国際社会が直面する地球規模の問題に対して自分の問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者間で議論する時間を毎回設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と進め方
第2回	国際社会の平和と安全への協働①	国連とその他の国際機構の協力
第3回	国際社会の平和と安全への協働②	国際機構と企業、市民社会の協力
第4回	国連による集団安全保障①	軍事的措置と非軍事的措置
第5回	国連による集団安全保障②	平和構築
第6回	核不拡散	政策と実践
第7回	軍備管理と軍縮	政策と実践
第8回	人権と民主主義	人権の国際的保障をめぐる政策と実践
第9回	人の移動	難民・避難民、就労移民をめぐる政策と実践
第10回	感染症	政策と実践
第11回	開発協力①	政策と実践
第12回	開発協力②	政策と実践
第13回	環境保護	政策と実践
第14回	資源の管理	政策と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムなどへの参加が望ましい。

【テキスト（教科書）】

吉村祥子・則武輝幸・渡部茂己編著『国際機構論 活動編』国際書院、2019年春（予定）。詳しくは授業内で提示する。

【参考書】

渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。
吉村祥子・則武輝幸・渡部茂己編著『国際機構論 活動編』国際書院、2017年。
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での議論への参加（30%）と期末レポート（70%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「非伝統的安全保障研究」を春学期に開講する。「非伝統的安全保障研究」は、伝統的安全保障との考え方の違いや分析アプローチの違いに重きを置いた内容であり、「人間の安全保障」や「保護する責任」など国際規範についてもより深く考察する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会の「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、「Complex Emergencies and Humanitarian Response」(Union Press, 2018)、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバルイシューとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874, East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。

【Outline and objectives】

The international community faces diversified transnational issues such as security issues, poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. No single nation can control them anymore. And those issues cannot be understood within the nation-centered narratives. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified actors have made efforts to tackle with the issues. Students will know that nations make contributions to the settlement of those issues in cooperation with regional and international institutions, businesses, civil society, and other entities. These efforts and social movements by the diversified actors can be called "global governance." Students will understand how the international community tries to manage "global governance."

POL600A4-2302

アジア統合論

福田 円

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア諸国の地域協力と統合について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者がアジア諸国の地域協力や統合について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、同地域の協力や統合について論じた近年の学術書を精読し、議論する。そして、同地域における地域協力や統合の課題を理解し、地域協力のよりよいあり方について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業においては、アジアにおける地域協力・統合の現状と、中国の台頭が地域協力におよぼす影響についてまず教員が講義を行う。その後、東アジア（またはアジア太平洋）の地域協力、中国と周辺諸国との関係、中国の地域協力に対する姿勢について論じた文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と精読文献の紹介
第2回	文献精読の準備（1）	アジア地域協力の現状
第3回	文献精読の準備（2）	中国の周辺外交
第4回	文献精読の準備（3）	中国と周辺諸国の関係
第5回	文献精読（1）	アジア地域協力の歴史
第6回	文献精読（2）	日本とアジア地域協力
第7回	文献精読（3）	オーストラリアとアジア地域協力
第8回	文献精読（4）	ASEAN の発展
第9回	文献精読（5）	ASEAN を中心とする重層的な地域協力
第10回	文献精読（6）	中国の大国化
第11回	文献精読（7）	中国の周辺外交
第12回	文献精読（8）	アジア地域協力の展望
第13回	ディスカッション（1）	アジア地域協力と中国
第14回	ディスカッション（2）	アジア地域協力の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

精読文献以外には指定しない。以下の参考書は精読文献の候補でもある。また、文献精読を発展させるために、別途参考論文を配布することもある。

【参考書】

大庭三枝編『東アジアのかたち』千倉書房、2016年
 Katzenstein, Peter J., A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium, Cornell University Press, 2015
 大庭三枝『重層的な地域としてのアジア』有斐閣、2014年
 寺田貫『東アジアとアジア太平洋』東京大学出版会、2013年
 P.J カッツェンスタイン『世界政治と地域主義— 世界の上のアメリカ、ヨーロッパの中のドイツ、アジアの横の日本』書籍工房早山、2012年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline and objectives】

This course aims to introduce and analyze the current state of regional cooperation and integration in Asia.

POL600A4-2304

戦略と政策

森 聡

[Outline and objectives]

The objective of the course is to acquire basic knowledge in the area of security studies. Class participants will read textbooks on security and strategic studies and engage in discussion.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安全保障研究ないし戦略研究に関する基礎的及び専門的な知識を習得することを目的とする。テキストを講読していく。

【到達目標】

現代における安全保障問題および戦略の性質の変化について理解する能力を身につける。安全保障研究と戦略研究に関する専門知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者が授業で指定される文献の担当部分について、レジュメを使ってその要旨を発表し、受講者全員で論点を特定して、議論を行う。

ある授業回の後半にレジュメ発表を行い、課題を決める。その課題について、次週の授業までに考えをまとめてきて、授業前半で議論を行う。（同授業の後半で、レジュメ発表を行い、同じプロセスを繰り返す。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	導入	安全保障とは何か。戦略とは何か。
第2回	安全保障の概念	概念の歴史の変遷。
第3回	戦争と平和の理論	国家間戦争と内戦の発生要因。
第4回	安全保障とパワー	パワーの諸要素。
第5回	勢力均衡と同盟	軍備の増強と同盟の結成。集団防衛という考え方。
第6回	覇権	覇権に関する諸理論。
第7回	集団安全保障と国連	集団安全保障の現実。
第8回	現代の紛争管理	人道的介入、危機管理など。
第9回	核と安全保障	核抑止の歴史の変遷。
第10回	戦略という難問	戦略研究とパワーの問題
第11回	戦略研究の古典	クラウゼヴィッツ、孫子、リデルハート、シェリング。
第12回	21世紀の安全保障と戦略（1）	テロリズム、ハイブリッド戦など。
第13回	21世紀の安全保障と戦略（2）	国防イノベーション、サイバー戦など。
第14回	総括	これからの安全保障と戦略。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出された課題について、A4 一〜二枚程度で考えをまとめること。

【テキスト（教科書）】

『安全保障学入門』（新訂第5版）亜紀書房、2018年（3,200円）を予定。詳細は授業初回ないし第2回で指示する。

【参考書】

Thomas G. Mahnken and Joseph A. Maiolo, *Strategic Studies: A Reader*, 2d edition, Routledge, 2014.

【成績評価の方法と基準】

文献報告の完成度（60%）、毎回の課題ペーパー（A4 一、二枚）の完成度（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生たちが議論を行って、翌週までの課題を決定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
 <研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
 <主要研究業績>
 ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
 ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
 ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
 ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
 ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）など

POL600A4-2305

アメリカの対外政策

森 聡

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦以降のアメリカの世界戦略や外交に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機微についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。ハリー・トルーマン政権からドナルド・トランプ政権までのアメリカ外交の歴史的展開を辿り、各政権の世界観がどのように変遷してきたのかを解説する。

【到達目標】

- ・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できる能力を身につける。
- ・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多様なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できる能力を身につける。
- ・また、歴代政権の対外政策の連続性と変化を理解し、その要因について仮説を立てられる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「アメリカ外交研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「アメリカの対外政策」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式による授業とする。（なお、履修者数が少ない場合には、教員の判断でゼミに準じた形式を導入する可能性もある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	アメリカの対外関与	アメリカの対外関与のパターン
第2回	アメリカの国際秩序観	一国主義とリベラル国際主義の起源と融合
第3回	冷戦の起源とアメリカ	アメリカによる戦後秩序構想
第4回	冷戦期の封じ込め戦略（その1）	トルーマン政権の初期封じ込め戦略とNSC68
第5回	冷戦期の封じ込め戦略（その2）	アイゼンハワー政権のニュールック戦略と、ケネディ・ジョンソン政権の柔軟反応戦略
第6回	冷戦期の封じ込め戦略（その3）	ニクソン・フォード政権のデタント外交と、カーター政権の対外政策
第7回	冷戦期の封じ込め戦略（その4）	レーガン政権の巻き返しと、ブッシュI政権の対外政策
第8回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その1）	クリントン政権の対外政策
第9回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その2）	ブッシュII政権の対外政策
第10回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その1）	オバマ政権の対外政策
第11回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その2）	オバマ政権の対アジア戦略
第12回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その3）	トランプ政権登場の背景
第13回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その4）	トランプ政権の対外政策
第14回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その5）	トランプ外交の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容を復習されたい。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。（履修者数が20名に満たない場合には、レポート課題に切り替える可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭で、前回の要点を振り返る。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

ポスト冷戦期までの講義部分を圧縮して、終盤はトランプ政権の対外政策に時間を割く可能性がある。

【現代アメリカの外交・安全保障政策】

＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

＜主要研究業績＞

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ベトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide class participants with specialized knowledge relating to U.S. foreign policy after the Second World War, and thereby enable them to deepen their understanding of the politics of foreign policy-making, and gain practical knowledge related to decision-making and implementation of U.S. foreign policy. The course will illustrate U.S. diplomacy from the Truman administration to the Trump administration, and point out the global outlook of successive postwar U.S. administrations.

POL600A4-2306

対外政策研究（中国）（1）

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、中国の対外政策に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、中国と日本との間に生起するさまざまな現象の諸相を検討し、その討議を進めることを目的とする。学生には、日中関係の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、日中関係の国際的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを旨とする。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題テーマに掲げるものは日中関係の深層構造を把握すること、および教員免許状取得等を目的とするその他受講生は日本にとって最重要の二国間関係の一つである日中関係の全体相を諒解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「日中関係政策論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「対外政策研究（中国）（1）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業で学ぶのは、中国の対外関係における日中関係の有する意味を問うことである。つまり、日中関係を、今日時点の中国が展開している対外政策、外交の一分野としてではなく、単なるバイラテラルな二国間関係の地平を超え、その地域的、国際的インプリケーションを常に問う姿勢を獲得するための訓練をする。その際には、本邦内外の地域研究としての中国研究がこれまで蓄積してきたものを「蓄きの糸」として、利害、イデオロギー、主権等をめぐる日中関係の現実的諸実態から、分析対象をピックアップし、学生一人一人の個別の見方を確認していく。

まずは、日本にとって最重要の二国間関係となっている日中関係の発展史、各段階における外交課題等の側面について、演習形式により、基本知識を学ぶ。併せて、現代の問題状況を分析するための資料蒐集や方法論の獲得も目指す。後半は、視座を中国側に移し、日中関係の《鏡像》構造を検討し、地域的／国際的フレーム下での日中二国間関係を捉え直すこととし、「対外政策研究（中国）（2）」で各テーマの集中討論を行う。このため、「対外政策研究（中国）（1）」を受講するものは、必ず「対外政策研究（中国）（2）」をも併せて受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	日中関係の基本視座	日中関係を討議する際の基本的視座：歴史、関係性（バイ／マルチ）、固有性
2	日中関係簡史（Ⅰ）	1972年の日中国交正常化に至る戦後日中関係の歩みを概観する
3	日中関係簡史（Ⅱ）	1972年の日中国交正常化以降の日中関係の歩みを概観する
4	日中関係のアクター（Ⅰ）	日中関係におけるさまざまなアクター：政界、官界、メディア
5	日中関係のアクター（Ⅱ）	日中関係のアクター：経済実業界
6	日中関係のアクター（Ⅲ）	日中関係のアクター：文化社会界
7	日中国交正常化への途	国交正常化に至る過程における“日中友好人士”と“友好運動”の果たした役割
8	過去からの遺産	日中関係を規定する歴史性を過去からの遺産として市場幻想と贖罪感を検討する。
9	中国における中日関係（Ⅰ）	国交正常化に至る途：周恩来のリーダーシップと果たした役割
10	中国における中日関係（Ⅱ）	対日政策過程における“日本組”の役割
11	制度摩擦から文化摩擦へ	国交回復後の日中関係：中国側の改革開放政策採用に伴い、制度摩擦から文化摩擦への変化をみる
12	“反日”と“嫌中”	制度を超え、文化摩擦の先に存在する“反日”感情と“嫌中”情緒の相克の可能性を検討する

- 13 第三ファクター：台湾、米国要素 日中関係をたんなる二国間関係としてではなく、第三ファクターを導入し、特に米国要素を検討する。併せ、日中関係における台湾問題も考慮する
- 14 東アジア地域における日中関係：巨像と蟻 日中関係を東アジア地域という広袤から検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各提示資料の読み込みおよびリアクションペーパーの準備

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

*毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018年12月、320ページ

*益尾知佐子、青山瑠妙、三船恵美他『中国外交史』、東京大学出版会、2017年9月、264ページ

*波多野澄雄、戸部良一、松元崇 他『決定版 日中戦争』新潮新書、新潮社、2018年11月、288ページ

*田島高志、高原明生、井上正也 他『外交証言録 日中平和友好条約交渉と鄧小平来日』岩波書店、2018年8月、224ページ

【参考書】

初回時に提示する

【成績評価の方法と基準】

最終レポートおよび各討論場面における独創性（50%）、論理性（50%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

別記の通り、「対外政策研究（中国）（1）」を受講しようとするものは、「対外政策研究（中国）（2）」をも併せて受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学

<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究

<主要研究業績>

・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）

・『中国問題』（東京大学出版会、2012）

・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）

・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）

・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of China's international relations, including the relations with its main partners, Japan and the US. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's external policies, and develop an understanding of China's main bilateral relations as well as the partner countries' perspective.

POL600A4-2307

対外政策研究（中国）（2）

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、中国の対外政策に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、中国と日本との間に生起するさまざまな現象の諸相を検討し、その討議を進めることを目的とする。学生には、日中関係の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、日中関係の国際的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを旨とする。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題に掲げるものは日中関係の深層構造を把握すること、および教員免許状取得等を目的とするその他受講生は日本にとって重要な二国間関係の一つである日中関係の全体相を諒解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「日中関係政策論2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「対外政策研究（中国）（2）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

先ずは、日本にとって最重要の二国間関係となっている日中関係の発展史、各段階における外交課題等の側面について、演習形式により、基本知識を学ぶ。併せて、現代の問題状況を分析するための資料蒐集や方法論の獲得も目指す。後半は、視座を中国側に移し、中日関係の《鏡像》構造を検討し、地域的／国際的フレーム下での日中二国間関係を捉え返すこととし、「対外政策研究（中国）（2）」で各テーマの集中討議を行う。

なお、本授業は、「対外政策研究（中国）（1）」授業時間に引き続き行うもので、同授業科目で設定された課題の討議を行う。このため、「対外政策研究（中国）（2）」を受講するものは、必ず「対外政策研究（中国）（1）」をも併せて受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	日中関係の基本視座	日中関係を討議する際の基本的視座：歴史、関係性（バイ／マルチ）、固有性
2	日中関係簡史（Ⅰ）	1972年の日中国交正常化に至る戦後日中関係の歩みを概観する
3	日中関係簡史（Ⅱ）	1972年の日中国交正常化以降の日中関係の歩みを概観する
4	日中関係のアクター（Ⅰ）	日中関係におけるさまざまなアクター：政界、官界、メディア
5	日中関係のアクター（Ⅱ）	日中関係のアクター：経済実業界
6	日中関係のアクター（Ⅲ）	日中関係のアクター：文化社会界
7	日中国交正常化への途	国交正常化に至る過程における“日中友好人士”と“友好運動”の果たした役割
8	過去からの遺産	日中関係を規定する歴史性を過去からの遺産として市場幻想と贖罪感を検討する。
9	中国における中日関係（Ⅰ）	国交正常化に至る途：周恩来のリーダーシップと果たした役割
10	中国における中日関係（Ⅱ）	対日政策過程における“日本組”の役割
11	制度摩擦から文化摩擦へ	国交回復後の日中関係：中国側の改革開放政策採用に伴い、制度摩擦から文化摩擦への変化をみる
12	“反日”と“嫌中”	制度を超え、文化摩擦の先に存在する“反日”感情と“嫌中”情緒の相克の可能性を検討する
13	第三ファクター：台湾、米国要素	日中関係をたんなる二国間関係としてではなく、第三ファクターを導入し、特に米国要素を検討する。併せ、日中関係における台湾問題も考慮する
14	東アジア地域における日中関係：巨像と蟻	日中関係を東アジア地域という広表から検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各提示資料の読み込みおよびリアクションペーパーの準備

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018年12月、320ページ
- * 益尾知佐子、青山瑠妙、三船恵美他『中国外交史』、東京大学出版会、2017年9月、264ページ
- * 波多野澄雄、戸部良一、松元崇 他『決定版 日中戦争』新潮新書、新潮社、2018年11月、288ページ
- * 田島高志、高原明生、井上正也 他『外交証言録 日中平和友好条約交渉と鄧小平来日』岩波書店、2018年8月、224ページ

【参考書】

初回時に提示する

【成績評価の方法と基準】

最終レポートおよび各討議場面における独創性（50%）、論理性（50%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

別記の通り、「対外政策研究（中国）（1）」を受講しようとするものは、「対外政策研究（中国）（2）」をも併せて受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学

<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究

<主要研究業績>

- ・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）
- ・『中国問題』（東京大学出版会、2012）
- ・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）
- ・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）
- ・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of China's international relations, including the relations with its main partners, Japan and the US. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's external policies, and develop an understanding of China's main bilateral relations as well as the partner countries' perspective.

POL600A4-2310

ロシア政治外交研究 1

溝口 修平

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代から90年代にかけて、世界中で民主化する国が増加し、その現象は民主化の「第三の波」と呼ばれた。しかし、現在ではむしろ旧ソ連諸国をはじめとして多くの国で権威主義体制が強化されていることに注目が集まっている。本科目では、政治体制の類型や変動に関する比較政治学の理論的研究を学ぶとともに、旧ソ連諸国を中心とするポスト社会主義諸国の政治変動が比較政治学の分野でどのように説明されてきたのかを学ぶ。前期の授業では、民主化の理論的研究、社会主義体制の崩壊とポスト社会主義諸国の政治変動に関する文献を扱う。

【到達目標】

1 民主化をめぐる比較政治学の理論研究がどのように進んできたかを理解し、説明することができる。
2 ポスト社会主義諸国の政治変動がどのように起こり、そのことが理論研究の中でどのように説明され、どこに限界があったのかを理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

比較政治学の主要論文（主に英語文献）を参加者全員で講読する。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第2回	民主主義体制の定義（1）	ロバート・ダール『ボリアーキー』前半を読む
第3回	民主主義体制の定義（2）	ロバート・ダール『ボリアーキー』後半を読む
第4回	民主化の理論（1）	経済発展と民主化の関係に関する古典的研究を読む
第5回	民主化の理論（2）	経済発展と民主化の関係に関する最近の研究を読む
第6回	民主化の理論（3）	移行理論について
第7回	民主主義体制の定着（1）	民主主義体制の定着とは何か
第8回	民主主義体制の定着（2）	ソーシャル・キャピタルの理論について
第9回	民主主義体制の定着（3）	政治制度の選択と民主主義体制の定着について
第10回	ポスト社会主義諸国の体制転換（1）	ポスト社会主義諸国に民主化理論は適用可能か
第11回	ポスト社会主義諸国の体制転換（2）	ポスト社会主義諸国の体制転換の違いについて
第12回	ポスト社会主義諸国の体制転換（3）	旧ソ連諸国の体制転換について
第13回	ポスト社会主義諸国の体制転換（4）	中東欧諸国の体制転換について
第14回	ポスト社会主義諸国の体制転換（5）	ポスト社会主義諸国の政治制度の選択について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、毎回の課題文献を読み、論文の中核的主張と論文に対する批判点をまとめ、教員に提出した上で授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

ロバート・A・ダール『ボリアーキー』岩波文庫、2014年、1166円。
その他の論文は、できる限り dropbox などを使って受講者の間で電子ファイルを共有する。

【参考書】

久保慶一ほか『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年、2160円。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の完成度（30%）
文献に関する報告（20%）
授業中の討論への貢献（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

受講者の専門は問わないが、比較政治学の基礎知識がないものは、上記参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。また、『ボリアーキー』を早めに入手し、各自で読み進めておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ> 旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割
<主要研究業績>

- ① 「ロシアにおける1993年憲法体制の成立と変容—憲法改正なき変容から憲法改正を伴う変容へ」『レヴァイアサン』第60号、79-99頁、2017年。
- ② 『ロシア連邦憲法体制の成立—重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。
- ③ 『連邦制の逆説？—効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。

【Outline and objectives】

Why have some countries become and consolidated democracies, but others not? This course reviews the theoretical literatures of comparative politics concerned with typology of political regimes and regime changes. The course will also analyze the experiences of the countries in Central and Eastern Europe and the former Soviet countries. An important aim of this course is to encourage each student to analyze the regime changes in post-socialist countries from theoretical perspectives.

All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading for each week. In addition, each student will be asked at least once to present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2311

ロシア政治外交研究2

溝口 修平

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代から90年代にかけて、世界中で民主化する国が増加し、その現象は民主化の「第三の波」と呼ばれた。しかし、現在ではむしろ旧ソ連諸国をはじめとして多くの国で権威主義体制が強化されていることに注目が集まっている。本科目では、政治体制の類型や変動に関する比較政治学の理論的研究を学ぶとともに、旧ソ連諸国を中心とするポスト社会主義諸国の政治変動が比較政治学の分野でどのように説明されてきたのかを学ぶ。後期の授業では、現代の権威主義体制に関する理論的研究と、旧ソ連諸国の権威主義体制に関する文献を扱う。

【到達目標】

- 1 現代の権威主義体制がどのような特徴を持ち、どのように維持されているかを理論的に説明することができる。
- 2 21世紀に入って、旧ソ連諸国の政治体制に起きた変化がなぜ起きたのか、そして国ごとの発展経路の違いがなぜ生じているのかを理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

比較政治学の主要論文（主に英語文献）を参加者全員で講読する。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第2回	民主化研究の問題点	民主化研究にはどのような問題があったか。前期の復習も兼ねて。
第3回	移行研究の限界	移行研究の前提条件の問題点について
第4回	民主主義と権威主義の中間的な体制	ハイブリッド・レジームと呼ばれる体制について
第5回	権威主義体制と選挙	権威主義体制における選挙の役割について
第6回	競争的権威主義	競争的権威主義とは何か？
第7回	権威主義の世界的拡大	21世紀以降の権威主義体制をめぐる情勢の変化について
第8回	民主主義の後退	世界中で民主主義の後退が生じているという主張について
第9回	権威主義の強化	世界中で権威主義の強化が進んでいるという主張について
第10回	カラー革命（1）	2000年代に旧ソ連諸国で起きた政治変動（カラー革命）の原因について
第11回	カラー革命（2）	2000年代に旧ソ連諸国で起きた政治変動（カラー革命）がもたらした帰結について
第12回	旧ソ連諸国の政治変動（1）	旧ソ連諸国における体制変動のバリエーションについて
第13回	旧ソ連諸国の政治変動（2）	恩顧主義と体制変動の関係について
第14回	今学期のまとめ	今学期読んだテーマに関する日本語文献を読み、全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、毎回の課題文献を読み、論文の中核的主張と論文に対する批判点をまとめ、教員に提出した上で授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

川中豪編『後退する民主主義、強化される権威主義：最良の政治制度とは何か』ミネルヴァ書房、2018年、5400円。
その他授業で扱う論文は、できる限りdropboxなどを使って受講者の間で電子ファイルを共有する。

【参考書】

久保慶一ほか『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年、2160円。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の完成度（30%）
文献に関する報告（20%）
授業中の討論への貢献（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

後期だけの受講も可能であるが、比較政治学の基礎知識がないものは、上記参考図書を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交
<研究テーマ>旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割
<主要研究業績>

- ①『ロシアにおける1993年憲法体制の成立と変容—憲法改正なき変容から憲法改正を伴う変容へ』『レヴァイアサン』第60号、79-99頁、2017年。
- ②『ロシア連邦憲法体制の成立—重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。
- ③『連邦制の逆説？—効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。

【Outline and objectives】

Why do some authoritarian countries endure, but others collapse? What will happen once an autocratic leader is ousted by a coup or a popular protest movement? These are the questions explored in this course. The course offers a comparative outlook to the study of authoritarianism, focusing on political institutions such as election, the factors sustaining or breaking it down, as well as global resilience of authoritarianism. The course will then analyze the political dynamics of authoritarian regimes in the former Soviet countries.

All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading for each week. In addition, each student will be asked at least once to present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2312

国際地域研究（中国）（1）

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代中国に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、現代中国に生起するさまざまな政治社会現象の諸相を検討し、その討究を進めることを目的とする。学生には、中国的諸事象の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、その世界的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題テーマに掲げる受講生は改革開放期中国の深層構造を把握すること、また、教員免許状取得その他を目的に本授業に参加する学生は現代国際政治を理解する上で不可欠の存在となりつつ移行期中国の全体像を獲得することをそれぞれ到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際地域研究1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際地域研究（中国）（1）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業で学ぶのは、現代中国における政治社会現象の有する意味を問うことである。つまり、今日時点の中国において生起している諸現象を単なる静的な事象としてではなく、伝統として建国以前から受け継いだもの、そして1949年以降の社会主義過程、1978年以降の改革開放という市場化プロセスが織りなすものとして把握し、その世界的、国際的インプリケーションを常に問う姿勢を獲得するための訓練をする。その際には、本邦内外の地域研究としての中国研究がこれまで蓄積してきた国家・社会論アプローチ、ポスト・コミュニズム論、リブセット仮説、移行期論等を「導きの糸」として、中国の政治社会生活の現実態から、分析対象をピックアップし、学生一人一人の個別の見方を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	序論「中国研究の問うべきもの」
第2回	中国の“巨大性”	：人口、国土、資源、思想
第3回	中国の“錯雑性”	：民族、階層、階級、利害
第4回	ガバナンスの課題	： “供給”量的質的保証
第5回	国際圧力	：国際秩序との“接軌”
第6回	“多元化”	：利害、関係、社会意識
第7回	エリートとマス	：パワーエリート、マネーエリート
第8回	改革開放プログラム	：市場化、市場メカニズムの導入
第9回	平等と公正	：格差と腐敗
第10回	宗教	：生き甲斐と死に甲斐
第11回	都市社会の変容	：ネット社会、中間層
第12回	農村社会の変容	：村長選挙と小民主実験
第13回	中国共産党の変容	：三つの代表論、党員構成
第14回	まとめ	：総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業予定項目に対する事前準備（報告予定者は報告内容の準備、その他受講者は報告予定者からML宛送付のレジюме等各種資料に関する検討ほか）および関連事項の事前学習

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 梶谷懐『中国経済講義—統計の信頼性から成長のゆくえまで』中央公論新社、中公新書、2018年9月、255ページ
- * 天児慧『中国政治の社会懲制』岩波書店、2018年1月、304ページ
- * 柯隆『中国「強国復権」の条件：「一带一路」の大望とリスク』慶應義塾大学出版会、2018年4月、408ページ
- * 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）新潮社、2017年8月、348ページ
- * 近藤大介『未来の中国年表 超高齢大国でこれから起こること』（講談社現代新書）、講談社、2018年6月、224ページ

【参考書】

菱田雅晴・鈴木隆『中国共産党とガバナンス』東京大学出版会、2016
菱田雅晴『中国：国家と社会の“共棲”』東京大学出版会、2001
ほか未定

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的貢献度（出席、授業内における発言、コメント）（40%）および期末レポート（タームペーパー）の完成度、独自性（60%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

別記の通り、「国際地域研究（中国）（1）」を受講しようとするものは、「国際地域研究（中国）（2）」をも併せ受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学
<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究
<主要研究業績>

- ・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）
- ・『中国問題』（東京大学出版会、2012）
- ・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）
- ・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）
- ・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of current socio-political situation in contemporary China, focusing an ideological crisis and interest conflict as the outcome of massive economic development. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's domestic policies, and develop an understanding of structural characteristics of China's one-party system as well as the emerging civil society perspective.

POL600A4-2313

国際地域研究（中国）（2）

菱田 雅晴

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代中国に関する地域研究の理論と代表的な先行研究の概要を紹介し、それらに基づき、現代中国に生起するさまざまな政治社会現象の諸相を検討し、その討究を進めることを目的とする。学生には、中国的諸事象の背後に潜むイデオロギー、権力、利益の錯綜状況を分析し、その世界的インプリケーションについて考え、追求していく視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

現代中国を直接の研究課題テーマに掲げる受講生は改革開放期中国の深層構造を把握すること、また、教員免許状取得その他を目的に本授業に参加する学生は現代国際政治を理解する上で不可欠の存在となりつつ移行期中国の全体像を獲得することをそれぞれ到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「国際地域研究2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

国際政治学専攻「国際地域研究（中国）（2）」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は、中国政治研究の核としての中国共産党を俎上に載せ、その組織的側面の検討を通じ、経済発展と政治変革との関係を討究する。本授業では、演習形態によるテキスト・クリティークを行う。ここでは、「国際地域研究（中国）（1）」で浮上する論点につき、集中討論を行う。このため、「国際地域研究（中国）（2）」を受講しようとするものは、必ず「国際地域研究（中国）（1）」をも併せ受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	中国研究の現状と課題	中国研究はどこまでの課題に迫り得ているのか
2	中国研究の方法	ツールとしての中国語、歴史、文化理解 文献読解、中国ネット利用
3	中国政治における共産党	中国政治の核としての共産党を位置付ける
4	党史～地下革命党	執政党としての地位を中国共産党が獲得するまでの過程
5	党史～建国から執政党へ	ポスト革命期における党の課題
6	合法性の淵源（革命的性）	抗日戦争、人民革命の勝利者
7	合法性の淵源（業績性）	高度経済成長、生活上革命の供給者
8	合法性の淵源（民族性）	大国としての中国の国際地位の向上、民族的昂揚感の供給者
9	三つの代表論	江沢民“三つの代表論”の意味するもの：私営経済／私営企業家の経済的／社会階層的／政治的認知
10	組織的危機	党細胞、党組織“真空”の発生、党活動、イデオロギーの弛緩
11	入党動機	学生層、青年層における入党動機から党／党員イメージを検討する
12	“党建”キャンペーン	弛緩した党組織細胞、党活動の再建努力
13	私営企業家のレスポンス	《三つの代表論》による入党勧誘に対する私営企業家の反応、背景
14	党内民主論	レーニン主義政党内部における党内民主と中国政治社会全体の民主化の関連

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業予定項目に対する事前準備（報告予定者は報告内容の準備、その他受講者は報告予定者から ML 宛送付のレジュメ等各種資料に関する検討ほか）および関連事項の事前学習

【テキスト（教科書）】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 『2017 中国社会藍皮書』（2018）（中国社会科学文献出版社）
- * 何清連・程曉農（2017）『中国』（ワニブックス）
- * 東一真（2017）『中国の不思議な資本主義』（中公新書）
- * 小野寺史郎（2017）『中国ナショナリズム - 民族と愛国の近現代史』（中公新書）

【参考書】

受講者の語学能力等に対応して、決定することとするが、取り敢えずのところ、以下を予定している。

- * 梶谷懐『中国経済講義—統計の信頼性から成長のゆくえまで』中央公論新社、中公新書、2018年9月、255ページ
- * 天児慧『中国政治の社会態制』岩波書店、2018年1月、304ページ
- * 柯隆『中国「強国復権」の条件：「一帯一路」の大望とリスク』慶應義塾大学出版会、2018年4月、408ページ
- * 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）新潮社、2017年8月、348ページ
- * 近藤大介『未来の中国年表 超高齢大国でこれから起こること』（講談社現代新書）、講談社、2018年6月、224ページ

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的貢献度（出席、授業内における発言、コメント）（40%）および期末レポート（タームペーパー）の完成度、独自性（60%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

上記の通り、「国際地域研究（中国）（2）」を受講しようとするものは、必ず「国際地域研究（中国）（1）」をも併せ受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治社会学 現代中国学
<研究テーマ> 国家・社会関係 移行期論 中南海研究 廉政研究
<主要研究業績>

- ・『超大国中国 党とガバナンス』（東京大学出版会、2016）
- ・『中国問題』（東京大学出版会、2012）
- ・『中国共産党のサバイバル戦略』（三和書籍、2012）
- ・『中国：基層からのガバナンス』（法政大学出版局、2010）
- ・『China's Trade Unions; How Autonomous Are They?』（Routledge、2009）

【Outline and objectives】

The course is to familiarize students with the basic issues of current socio-political situation in contemporary China, focusing an ideological crisis and interest conflict as the outcome of massive economic development. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of China's domestic policies, and develop an understanding of structural characteristics of China's one-party system as well as the emerging civil society perspective.

国際地域研究（朝鮮半島）（1）

権 鎬淵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、韓国における政治社会の諸問題を検討する。

大統領選挙の仕組みと投票分析、リベラル勢力と保守派の対立、慶尚道と全羅道間の地域対立、兵役制度の仕組みと社会的影響、経済制度の特徴、北に対する認識と政策、反共教育、歴史認識、市民運動などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は、韓国における政治社会の諸問題の存在とその対処方法などを見て、それらを自国の例と比較検討しながら教訓を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	韓国政治の特徴	渦巻型構造論（中央集権、首都集中、科挙制の影響）
第2回	大統領選挙の仕組み、歴史、投票分析	5年1期だけ制度の長短所 改憲の歴史、地域基盤の差異
第3回	国会議員選挙の仕組み、歴史、投票分析	国会の権限を含む
第4回	リベラル勢力1（政治勢力）	リベラル勢力の変遷を含む
第5回	リベラル勢力2（市民運動）	市民運動、学生運動
第6回	保守派の分析	自由党、共和党、民正党、ハンナラ党、自由韓国党
第7回	地域対立問題	慶尚道と全羅道の反目
第8回	兵役制度の仕組みと社会的影響	兵役の歴史を含む
第9回	教育制度の問題点	入試制度
第10回	不動産問題	価格高騰及び格差や少子化への影響
第11回	経済制度1（就職・雇用関係）	就職状況と賃金、正規職と非正規職
第12回	経済制度2（年金、弱者対策）	貧困対策、老人政策を含む
第13回	少子化問題	少子化の原因と対策
第14回	北朝鮮・南北統一に関する認識	世論調査をみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は事前に指定テキストを2回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を1枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に手渡す必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席 40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策
南北朝鮮情勢
東アジアの軍事情勢

【Outline and objectives】

This course introduces the political and social issues of contemporary South Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of presidential elections, the confrontation of liberals and conservatives, the social influence of compulsory military service, the perception of North Korea issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to copy with those issues.

POL600A4-2315

国際地域研究（朝鮮半島）（2）

権 鎬淵

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、北朝鮮における政治社会の諸問題を検討する。

朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係と「先軍政治」、核やミサイル戦力の現状と配置状況、兵役制度の仕組みと社会的影響、食糧事情、エネルギー（特に電気）事情、ジャンマダン（市場）経済の状況、通常軍事力の陳腐化、歴史認識などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は北朝鮮の社会構造の基本とその問題点を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	権力機関の構成	国家保健省・人民武力省・人民保安省
第2回	朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係	役割分担と相互関係
第3回	兵役制度の仕組みと社会的影響	10年説、11年説？ 女性の兵役は？
第4回	教育制度	学年制、カリキュラム、学費について
第5回	経済制度1	就職・雇用・住宅・配給・老後政策
第6回	経済問題1	食糧事情、 ジャンマダン経済の状況
第7回	経済問題2	工業生産、エネルギー事情
第8回	改革開放の経済政策の試み	特区制度、農業制度、利益配分システム、私営企業
第9回	国連による経済制裁	経済制裁の内容と効果
第10回	核・ミサイル戦力の状況	戦力分析
第11回	通常戦力の状況	通常戦力の南北比較
第12回	韓国や南北統一に関する認識	権力者と一般人の認識
第13回	米国、中国に対する政策	対ロシア政策も
第14回	日本に対する政策	対日政策の歴史も含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は指定テキストを2回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を1枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に手渡す必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席 40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策
南北朝鮮情勢
東アジアの軍事情勢

【Outline and objectives】

This course introduces the political and social issues of contemporary North Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of communist party, government and military. Recent situation of North Korea's nuclear weapon capability, ballistic missiles and conventional weapons will be checked. It also will check current social and economic situation; food and energy situation presidential elections, the social influence of compulsory military service, the perception of unification issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in North Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to copy with those issues.

POL600A4-2316

国際地域研究（ロシア・中央アジア）（1）

片桐 俊浩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの対中央アジア外交、及び中央アジア各国の対露・対域内外交を論じるための基礎として、ロシア、中央アジア各国について知識と分析を深める。

【到達目標】

ロシア及び中央アジアに関して、歴史、地理、各国の政治体制の特徴、それぞれの二国間関係について知識を深め、授業における議論を通じて独自の見解を養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

主に演習形式で進める（発表者による登壇・発言等と、それに対する出席者の発言）。発表者は各回につき基本的に1名。発表者以外の学生は同程度の準備（事前資料の読解）をして発表者に捕捉説明・質問を行い、議論を深めていく。どのような準備（配布物、スライド）が必要となるかについては発表者の裁量による（会場設営のため電子機器の使用は事前に要相談）。シラバスの範囲を包括するため、教員が講義形式で補足をすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	ソ連崩壊後のロシアとその他の旧ソ連諸国との関係に係る概要、授業方針の説明
第2回	ロシアと「近い外国」(1)	エリツィン政権の対・旧ソ連諸国政策
第3回	ロシアと「近い外国」(2)	プーチン政権による CIS 諸国再統合の模索
第4回	カザフスタン (1)	歴史、内政（ナザルバエフ政権について）
第5回	カザフスタン (2)	外交、ロシアとの関係
第6回	ウズベキスタン (1)	歴史、内政（カリモフ時代・ミルジョエフ時代）
第7回	ウズベキスタン (2)	外交、ロシアとの関係
第8回	トルクメニスタン (1)	歴史、内政（ニヤゾフ時代・ベルディムハメドフ時代）
第9回	トルクメニスタン (2)	外交、ロシアとの関係
第10回	キルギス (1)	歴史、内政（チューリップ革命以前・それ以後）
第11回	キルギス (2)	外交、ロシアとの関係
第12回	タジキスタン (1)	歴史、内政（内戦・ラフモン時代）
第13回	タジキスタン (2)	外交、ロシアとの関係
第14回	中央アジアと日本、中国、米国	ロシア以外の諸国（主に日米中）との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表・質疑応答を有意義なものとするためにも文献は事前に読み込んでおく。
・ロシアや中央アジアを取り上げた新聞記事があれば目を通すようにする。

【テキスト（教科書）】

湯浅剛『現代中央アジアの国際政治——ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』明石書店、2015年。

【参考書】

（ロシア関連）

下斗米伸夫編著『ロシアの歴史を知るための50章』明石書店、2016年。（中央アジア関連）

帯谷知可編著『ウズベキスタンを知るための60章』明石書店、2018年。
ティムール・ダダバエフ『社会主義後のウズベキスタン—変化する国と揺れる人々の心』アジア経済研究所、2008年。

松井啓『初代大使が見たカザフスタン』めるくまーる、2007年。

宇山智彦・藤本透子編著『カザフスタンを知るための60章』明石書店、2015年。

【成績評価の方法と基準】

・担当分野のレジュメ作成・発表（50%）。
・授業中の質疑・議論への参加（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

発表を担当する場合、発表の形式は自由（プリント配布の有無、コンピュータ・スクリーンの使用等）。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ソ連・ロシア・コーカサス

＜研究テーマ＞ソ連史（都市建設、核開発）、ロシア政治、アゼルバイジャン内外政・経済・社会

＜主要研究業績＞

下斗米伸夫・島田博編著『現代ロシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2012年（第12章「民族問題とロシア政治」(pp.88-92)

第21章「現代のモスクワ」(pp.135-139)。

«Философия экономики; история и современность», Национальная Академия наук Азербайджана Институт философии, 2017. С.544.

То сихиро Катагири, Такаси Хирано, Ясуси Томосигэ, «Экспортный потенциал продвижения азербайджанской нефти в Украину и Беларусь; взгляды трех стран по поиску «украинского маршрута»». С.С.101-126.

【Outline and objectives】

Widen the knowledge and analysis of Russia and Central Asian countries as a basis for the further discussion on internal and mutual external diplomacy of the regions.

POL600A4-2317

国際地域研究（ロシア・中央アジア）（2）

片桐 俊浩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア・中央アジア諸国の地域の特徴、内外政を国際的な枠組みやプロジェクトから捉える。

【到達目標】

ロシア・中央アジア諸国の言語・民族・宗教、中国による「一帯一路」構想、ロシアの推進する安全保障の国際的枠組み、アフガニスタンからロシアに繋がる麻薬・宗教過激主義の伝達ルート、カスピ海の法的地位問題とエネルギー輸送をめぐる外交的駆け引き等を理解し、議論に積極的に貢献する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

主に演習形式で進める（発表者による登壇・発言等と、それに対する出席者の発言）。発表者は各回につき基本的に1名。発表者以外の学生は同程度の準備（事前資料の読解）をして発表者に捕捉説明・質問を行い、議論を深めていく。どのような準備（配布物、スライド等）が必要となるかについては発表者の裁量による（会場設営のため電子機器の使用は事前に要相談）。シラバスの範囲を包括するため、教員が講義形式で補足をすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	経済（1）	各国経済の特徴と貿易関係
第2回	経済（2）	南北及び東西輸送回廊構築と、「一帯一路」構想との関係
第3回	経済（3）	中央アジア産エネルギー資源の欧州への輸送ルート
第4回	文化・人的交流（1）	ロシア語の地位、中央アジア残留のロシア系住民
第5回	文化・人的交流（2）	中央アジアからロシアへの労働移民
第6回	宗教（1）	ロシアにおけるロシア正教
第7回	宗教（2）	中央アジアにおけるイスラム
第8回	テュルク系諸国（1）	文字改革、言語政策
第9回	テュルク系諸国（2）	トルコによる中央アジアへの影響
第10回	安全保障（1）	集団安全保障条約
第11回	安全保障（2）	上海協力機構
第12回	安全保障（3）	アフガニスタン・タジキスタン・ロシア
第13回	安全保障（4）	カスピ海沿岸5か国とカスピ海の法的地位決定
第14回	まとめ	これまでの学習の取りまとめ。カスピ海と黒海に挟まれたコーカサス地域について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表・質疑応答を有意義なものとするためにも文献は事前に読み込んでおく。
・ロシアや中央アジアを取り上げた新聞記事があれば目を通すようにする。

【テキスト（教科書）】

宇山智彦・樋渡雅人編著『現代中央アジア-政治・経済・社会』日本評論社、2018年。

【参考書】

（ロシア関連）

下斗米伸夫・島田博編著『現代ロシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2012年。

（中央アジア関連）

秋野豊『ユーラシアの世紀——民族の争乱と新たな国際システムの出現』日本経済新聞社、2000年。

宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章【第2版】』明石書店、2010年。

小松久男編著『テュルクを知るための61章』明石書店、2016年。

【成績評価の方法と基準】

・担当分野のレジュメ作成・発表（50%）。
・授業中の質疑・議論への参加（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

発表の形式は自由（プリント配布の有無、コンピュータ・スクリーンの使用等）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ソ連・ロシア・コーカサス

<研究テーマ>ソ連史（都市建設、核開発）、ロシア政治、アゼルバイジャン内外政・経済・社会

<主要研究業績>

下斗米伸夫・島田博編著『現代ロシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2012年（第12章「民族問題とロシア政治」（pp.88-92）第21章「現代のモスクワ」（pp.135-139））。

«Философия экономики; история и современность», Национальная Академия наук Азербайджана Институт философии, 2017. С.544.

То сихиро Катагири, Такаси Хирано, Ясуси Томосигэ, «Экспортный потенциал продвижения азербайджанской нефти в Украину и Беларусь; взгляды трех стран по поиску украинского маршрута» . СС.101-126.

【Outline and objectives】

Characterize the Russian/ Central Asian internal/external policies, from the point of views of international frameworks and projects.

POL600A4-2318

国際地域研究（東南アジア）（1）

浅見 靖仁

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が社会科学的地域研究を行うのに必要なスキルを習得することを目的とします。題材には東南アジアを対象とした文献やデータを多く用いますが、他の地域を研究する大学院生が履修しても、社会科学の議論の組み立て方やデータを分析するための基本的なスキルを習得できる授業構成にします。

【到達目標】

受講生が社会科学的地域研究を自分自身の力で行うのに必要な基本的なスキルを習得することを目標とします。研究対象とする国や地域について、自分自身で情報を集め、それを分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義と実習（与えられた課題を学生が行い、その結果をプレゼンする）を交互に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	地域研究の方法論	地域研究にとっての方法論の重要性についての講義。
第2回	東南アジア地域研究とリサーチ・デザイン	リサーチ・デザイン論についての講義。
第3回	リサーチ・デザイン実習(1)：先行研究のリサーチ・デザインを読み解く	いくつかの先行研究を題材にして、その研究に用いられているリサーチ・デザインを把握する実習。
第4回	リサーチ・デザイン実習(2)：自分自身のリサーチ・デザインを考える	受講生が、自分自身の研究テーマについて研究するためのリサーチ・デザインを考え、それを発表する。
第5回	地域研究とサンプル・バイアス	サンプル・バイアスという概念とサンプル・バイアスへの対処法についての講義。
第6回	サンプル・バイアスへの対処法実習(1)：サンプル・バイアスの見つけ方	いくつかの先行研究を題材にして、サンプル・バイアスがあるかどうかを受講生が検討する。
第7回	サンプル・バイアスへの対処法実習(2)：下限値、上限値、問題設定の変更	サンプル・バイアスが生じてしまった先行研究を題材にして、バイアスのあるサンプルしか得られなかった場合にどうすべきかについて受講生が考察する。
第8回	先行研究の批判的分析方法	先行研究を批判的に分析する方法についての講義。
第9回	先行研究の批判的分析実習(1)：リサーチ・デザイン上の欠陥とサンプル・バイアス	各受講生が研究対象とする地域やテーマについて書かれた先行研究を題材にして、それらの先行研究のリサーチ・デザインやサンプルの取り方を、受講生が批判的に分析する。
第10回	先行研究の批判的分析実習(2)：因果関係逆転の可能性と同義反復	各受講生が研究対象とする地域やテーマについて書かれた先行研究を題材にして、それらの先行研究が主張するのは因果関係について、受講生が批判的に再考察する。
第11回	先行研究の批判的分析実習(3)：第3の要因によるみかけ上の因果関係の可能性	各受講生が研究対象とする地域やテーマについて書かれた先行研究を題材にして、それらの先行研究が主張するのは異なる因果関係が存在する可能性について、受講生が考察する。
第12回	プレゼンテーション・スキル	プレゼンテーション・スキルについての講義。
第13回	受講生の研究計画プレゼンテーション(1)	第12回の授業で学んだプレゼンテーション・スキルを使って、受講生が、自分自身の研究計画についてプレゼンを行う。
第14回	受講生の研究計画プレゼンテーション(2)	第12回の授業で学んだプレゼンテーション・スキルを使って、受講生が、自分自身の研究計画についてプレゼンを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、実習の課題や、先行研究を読むことなどを行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを pdf ファイルとして配布します。

【参考書】

川村晃一他『東南アジアの比較政治学』アジア経済研究所（アジア研選書）2012年。G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。

Gary King, Robert O. Keohane, & Sidney Verba, Designing Social Inquiry Scientific Inference in Qualitative Research, Princeton University Press, 1994.

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うプレゼンテーション及び討議への貢献度 30%、期末試験 70%のウェイトで成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や社会についての知識を得るだけでなく、社会科学的地域研究についての基礎的なスキルをまず身に付けたいという要望に応えるために、東南アジアについての知識の伝達よりも、研究のための方法論に重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

受講生がプレゼンを行う回の準備のためには、PowerPoint などのプレゼンテーション用のソフトやエクセルなどの表計算用ソフトがインストールされた PC が必要になります。

【担当教員の専門分野等】

比較政治、地域研究、開発学

【Outline and objectives】

適切な研究テーマの設定に不可欠なリサーチ・デザインという考え方、地域研究においてしばしば問題となるサンプル・バイアスについての理解とその対処方法、論文やリサーチペーパーを書くのに不可欠な先行研究の批判的な分析方法などを扱います。

POL600A4-2319

国際地域研究（東南アジア）（2）

浅見 靖仁

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が社会科学的地域研究を行うのに必要なスキルを習得することを目標とします。題材には東南アジアを対象としたデータや事例を多く用いますが、他の地域を研究する大学院生が履修しても、基本的なスキルを習得できる授業構成にします。

【到達目標】

受講生が社会科学的地域研究を自分自身の力で行うのに必要な基本的なスキルを習得することを目標とします。研究対象とする国や地域について、自分自身で情報を集め、それを分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義と実習（与えられた課題を学生が行い、その結果をプレゼンする）を交互に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地域研究と不確実性	不確実な「事実」や不確実な未来に対して、確率論的な思考を行うことの重要性についての講義。
第 2 回	地域研究と統計データ分析	エクセルを使った基本的な統計分析についての講義。
第 3 回	統計データ分析実習 (1)	エクセルを使った集計とグラフの作成の実習。
第 4 回	統計データ分析実習 (2)	散布図と回帰分析の実習。
第 5 回	統計データ分析実習 (3)	受講生が研究対象とする地域のセンサデータの分析の実習。
第 6 回	地域研究と統計学的思考	地域研究における統計学的思考の応用方法についての講義。
第 7 回	確率論的推論実習 (1)	サンプル調査の不確実性の実験。
第 8 回	確率論的推論実習 (2)	不確実性の度合いを推測する実習。
第 9 回	地域研究とインタビュー	地域研究で多用されるインタビュー調査の基本的なスキルについての講義。
第 10 回	インタビュー実習 (1)	ノートテイキング、確認、追及、挑発、脱構築などスキルについての実習。
第 11 回	インタビュー実習 (2)	インタビュー結果の解釈についての実習。
第 12 回	統計学的思考とリサーチ・デザイン	統計学的思考とリサーチ・デザインの関係についての講義。
第 13 回	受講生による研究成果プレゼンテーション (1)	受講生各自が、この授業で学んだスキルを使って自分の研究テーマについてプレゼンテーションを行う。
第 14 回	受講生による研究成果プレゼンテーション (2)	受講生各自が、この授業で学んだスキルを使って自分の研究テーマについてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、グラフの作成や統計分析などの課題を行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを pdf ファイルとして配布します。

【参考書】

ジェイムズ・ホルスタイン、ジェイバー・グブリアム『アクティブ・インタビュー：相互行為としての社会調査』せりか書房、2004年。
菅民郎『Excel で学ぶ統計解析入門』オーム社、2016年。
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。
Gary King, Robert O. Keohane, & Sidney Verba, Designing Social Inquiry Scientific Inference in Qualitative Research, Princeton University Press, 1994.

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うプレゼンテーション及び討議への貢献度 50%、期末試験 50% のウェイトで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や社会についての知識を得るだけでなく、社会科学的地域研究についての基礎的なスキルをまず身に付けたいという要望に応えるために、東南アジアについての知識の伝達よりも、研究のための方法論に重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされた PC が必要です。

【担当教員の専門分野等】

比較政治、地域研究、開発学

【Outline and objectives】

研究対象とする地域の社会経済状況の把握に不可欠な統計データの基本的な分析方法、不確実性の存在を前提にした確率論的な思考方法、フィールドワークに不可欠なインタビュー・スキルなどを扱います。

国際地域研究（ヨーロッパ）（1）

宮下 雄一郎

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としてのフランス外交文書の分析

授業の目的：本講義の目的は、フランスをめぐる国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、フランス語の一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による史料読解・報告(1)	戦間期に関するフランス外交①
第3回	受講者による史料読解・報告(2)	戦間期に関するフランス外交②
第4回	受講者による史料読解・報告(3)	戦間期に関するフランス外交③
第5回	受講者による史料読解・報告(4)	戦間期に関するフランス外交④
第6回	受講者による史料読解・報告(5)	戦間期に関するフランス外交⑤
第7回	受講者による史料読解・報告(6)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交①
第8回	受講者による史料読解・報告(7)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交②
第9回	受講者による史料読解・報告(8)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交③
第10回	受講者による史料読解・報告(9)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交④
第11回	受講者による史料読解・報告(10)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交⑤
第12回	受講者による史料読解・報告(11)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交⑥
第13回	受講者による史料読解・報告(12)	第二次世界大戦期の「フランス」をめぐる外交⑦
第14回	総括	国際関係史と史料分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① ヨーロッパ国際関係史、フランス外交史に関する知識を身に付けること。
- ② フランス語の歴史文書、新聞を読むことができるのみならず、その内容を正しく理解するだけの能力を習熟しておくこと。

【テキスト（教科書）】

Documents diplomatiques français からの抜粋

【参考書】

Jean-Claude Allain et al., *Histoire de la diplomatie française*, 2 volumes (Paris: Perrin, 2007), coll. « tempus »

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70%）、議論への参加度（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学術論文を執筆する際に、必要となる技法の習得に直結する講義の実施

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修するに際しては、すでにフランス語を読解する能力を身に付けていることが必須である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績> 『フランス再興と国際秩序の構想－第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline and objectives】

Outline: Analyzing French diplomatic papers

POL600A4-2323

国際地域研究（ヨーロッパ）（2）

宮下 雄一郎

【Outline and objectives】

Outline: Analyzing French diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods. It is required to take the same course of the spring semester.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としてのフランス外交文書の分析

授業の目的：本講義の目的は、フランスをめぐる国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。国際地域研究（ヨーロッパ）（1）をすでに履修していることを前提とする。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、フランス語の一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／報告者の順番決め
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	冷戦期のフランス外交①
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	冷戦期のフランス外交②
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	冷戦期のフランス外交③
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	冷戦期のフランス外交④
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	冷戦期のフランス外交⑤
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	脱植民地化とフランス外交①
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	脱植民地化とフランス外交②
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	脱植民地化とフランス外交③
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	脱植民地化とフランス外交④
第14回	総括	フランス外交史研究の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① ヨーロッパ国際関係史、フランス外交史に関する知識ならびに研究動向を事前にある程度知っておくことが必須である。

② フランス語の歴史文書、新聞を読むことができるのみならず、その内容を正しく理解するだけの能力を習熟しておくこと。

【テキスト（教科書）】

Documents diplomatiques français からの抜粋

【参考書】

Jean-Claude Allain et al., *Histoire de la diplomatie française*, 2 volumes (Paris: Perrin, 2007), coll. « tempus »

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70%）、議論への参加度（30%）

【学生の意見等からの気づき】

秋学期に開催する授業ということもあり、よりフランス外交史に関する論文執筆に直結する内容に設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

履修するに際しては、すでにフランス語を読解する能力を身に付けていることが必須である。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際関係史／戦争史

＜研究テーマ＞フランス外交史／ヨーロッパ統合論

＜主要研究業績＞『フランス再興と国際秩序の構想－第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

POL600A4-2324

日本政治外交研究 1

高橋 和宏

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire an understanding of the political and diplomatic history of Japan since the end of the Second World War. Through intensive documents reading, students will learn the latest research findings as well as basic research methodology on historical archives.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、外交文書公開の進展や政治家等に対するオーラルヒストリーの蓄積により、戦後日本の政治外交史上の様々な争点が実証的に解明されつつある。本講義では、戦後日本外交に関する文献講読を通じて、こうした研究の最前線を理解するとともに一次史料の利用方法といった方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

戦後日本外交の主要な論点について一次史料に基づく専門知識を習熟する。また、そうした論点が現代の外交課題にどのようにつながっているのかを考える学問的素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習方式。講読対象文献を基に議論する。当該テーマに関する一次史料の読解を課題に課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第 2 回	方法論 (1)	戦後日本外交史の研究動向
第 3 回	方法論 (2)	史料の使い方
第 4 回	文献講読 (1)	戦後外交の始まりと再軍備
第 5 回	文献講読 (2)	外交三原則と戦後処理外交
第 6 回	文献講読 (3)	安保改定と沖縄返還
第 7 回	文献講読 (4)	日中国交正常化
第 8 回	文献講読 (5)	冷戦終結と湾岸戦争
第 9 回	文献講読 (6)	サンフランシスコ講和体制
第 10 回	文献講読 (7)	対ソ外交
第 11 回	文献講読 (8)	対アジア外交
第 12 回	文献講読 (9)	朝鮮半島外交
第 13 回	文献講読 (10)	核軍縮・不拡散外交
第 14 回	総括	戦後日本外交の研究上の論点について総括的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者はレジュメを作成する。レジュメには内容の要約及びディスカッションの論点を示すこと。それ以外の受講生は講読する文献を熟読の上、授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

- ① 栗山尚一『戦後日本外交 軌跡と課題』岩波書店、2016 年
- ② 波多野澄雄編『日本の外交 第 2 巻 外交史 戦後編』岩波書店、2013 年

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（50 %）

期末ペーパー（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本外交史、経済外交論、国際関係史

<研究テーマ> 冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

<主要研究業績> 『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959-1969 年』（千倉書房、2018 年）など。

POL600A4-2325

日本政治外交研究 2

高橋 和宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外交と内政との連関という視点から冷戦期の日米関係史を展望し、その特質を理解することを目的とする。戦後日米関係は占領期という特殊な時期を起点として、政治、経済、安全保障、文化と多層的な関係を築いてきた。経済摩擦や基地問題の例に顕著にみられるように、この間のプロセスは外交と内政とが密接に絡み合うものであり、双方の視点からその歴史的位置を見定めることが必要である。講義ではまた、実践的な史料の使い方や研究の方法論についても議論していく。

【到達目標】

戦後日米関係史上の主要な論点について専門的知識を習熟するとともに、そうした論点が現代日本の政治外交にどう繋がっているかを実証的に考察できる学術的知見を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習方式。博士論文をベースとして刊行された戦後日米関係（日米安保体制の確立、安保条約改定、沖縄返還、核、経済摩擦）に関する研究書を輪読する。一つの研究書を2回の授業で読了していく。対象とする研究書の選定は初回のガイダンスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第2回	方法論（1）	戦後日米関係史の研究動向
第3回	方法論（2）	史料の使い方
第4回	文献講読（1） （受講生による報告）	日米安保体制の確立①
第5回	文献講読（2） （受講生による報告）	日米安保体制の確立②
第6回	文献講読（3） （受講生による報告）	安保条約改定①
第7回	文献講読（4） （受講生による報告）	安保条約改定②
第8回	文献講読（5） （受講生による報告）	沖縄返還①
第9回	文献講読（6） （受講生による報告）	沖縄返還②
第10回	文献講読（7） （受講生による報告）	核をめぐる諸問題①
第11回	文献講読（8） （受講生による報告）	核をめぐる諸問題②
第12回	文献講読（9） （受講生による報告）	経済摩擦①
第13回	文献講読（10） （受講生による報告）	経済摩擦②
第14回	総括	戦後日米関係の研究上の論点について総括的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者はレジュメを作成する。レジュメには内容の要約及びディスカッションの論点を示すこと。それ以外の受講生は講読する文献を熟読の上、授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

講読対象文献については初回の授業の際に確定する。

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（50%）
期末ペーパー（50%）

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史

<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

<主要研究業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959-1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline and objectives】

The main purpose of this course is to provide basic perspective on Japan-U.S. relationship during the Cold War era, with a special focus on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered: formulation of the security arrangements, amendment of the Security Treaty, Okinawa reversion, nuclear problems, and economic friction.

POL600A4-2400

グローバル政治経済特別セミナー

福田 円

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、戦後台湾の経済外交を研究する王文隆准教授（南開大学歴史学部）を特別講師として迎え、集中講義を実施する。本講義では、戦後台湾の対外関係、とりわけ経済外交に関する重要トピックについて英語で学び、考えることを通じ、この分野における最新の論議や知見を吸収することを目的とする。

【到達目標】

This course aims to familiarize students with the basic issues of Taiwan's external relations, especially the economic relations with its main partners and developing countries. The students should obtain an understanding of the parameters, restraints and principles of Taiwan's international relations, and develop an understanding about roles of economic diplomacy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

約1週間の期間、一日2コマ、計5日間の講義を行う。これに加え、講義期間中の一日は中華民国／台湾の外交に関するワークショップに参加し、他の研究者の報告（日本語または英語）を聞く機会もある。講義の場合はディスカッション・タイムを設け、不明な点や未消化の部分について受講生の理解を促進する機会を設ける。

The course will be based on lectures (Power Point Presentation) and the workshop about diplomacy of ROC/Taiwan, each class has a discussion time with students. Students are required to read required items (articles or book chapters) before each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期集中

回	テーマ	内容
第1回	(Feb.5) Taiwan(ROC) as a state after 1949	The government of the ROC fled to Taiwan in 1949. Taiwan as a state to participate the international society and occupied the representative of the UN as China from 1949 to 1971.
第2回	(Feb.5) Island China	It's not easy to persuade other countries that the ROC government was still the only legal representative as China in the world. Depending on the supports from the USA, the ROC kept the official relations with most of the countries belongs to "The Western Bloc" and kept trading with most of them.
第3回	(Feb.6) The block of the ROC on economic connection	There were competitions between the Taiwan and Mainland China not only on legal status but also on the trade connection. The Navy of the ROC blocked the coast of Mainland China, and the ROC government tried to enroll other members of the Western Bloc not to trade with mainland China like what the USA did.
第4回	(Feb.6) Japan, Great British and Canada	The USA and the ROC government tried to limit other members of the Western Bloc to keep the economic connection to the mainland China, but it didn't work. China was imaged as the biggest market in the world, so some members of the western bloc tried to trade with the mainland China, including Japan, Great British and Canada.

第5回	(Feb.7) The UN representation and the foreign aid of the ROC	Here comes the boom of independent movement in Africa in 1960, and most of them claimed that they are neutral states became the member of the UN. For the representative as China in the UN, the ROC government got funding secretly from the USA affording foreign aid to these African countries enrolling support.
第6回	(Feb.7) Expand the foreign aid scale	It seemed success to use foreign aid as a diplomatic tool in Africa, so the ROC government decided to expand the scale by the similar pattern in Latin American, Southeastern Asia, and Oceania.
第7回	(Feb.8) Workshop; The ROC's economic diplomacy in the era of transition	Attend the workshop at Hosei University and participate in the discussion about the ROC's diplomacy in 1970's.
第8回	(Feb.8) Workshop; The ROC's economic diplomacy in the era of transition	Attend the workshop at Hosei University and participate in the discussion about the ROC's diplomacy in 1970's.
第9回	(Feb.8) Workshop; The ROC's economic diplomacy in the era of transition	Attend the workshop at Hosei University and participate in the discussion about the ROC's diplomacy in 1970's.
第10回	(Feb.8) Workshop; The ROC's economic diplomacy in the era of transition	Attend the workshop at Hosei University and participate in the discussion about the ROC's diplomacy in 1970's.
第11回	(Feb.10) Withdrew from the UN in 1971	Mainland China joined the UN as the preventive of China in 1971 in which was Cultural Revolution, and the ROC withdrew. During that time, Taiwan ruled by the ROC government started Taiwan Economic Miracle, be a successful economic development model became one of the Four Asian Tigers. Taiwan got into the international industry chain, so the ROC tried to use the connection as a diplomatic tool to keep the connection with these countries without official relation.
第12回	(Feb.10) Before the end of cold war	The USA cut the official relation with the ROC in the beginning of 1979. After that, the ROC government released the limitation to trade with Communist Bloc and tried to establish new connection to get weapons from other countries, like Netherland and France.
第13回	(Feb.11) After Cold War	The end of cold war made a new situation. The president of ROC, Chiang Ching-kuo, decided to end the Martial law, and allowed the veteran who moved to Taiwan around 1949 to visit Mainland China. And then, the succeed President Lee Teng-hui moved forward to end the Period of mobilization for the suppression of Communist rebellion, and made a free foreign exchange market.
第14回	(Feb.11) The economic connection between Taiwan and Mainland China	The PRC government eager to get investment outside of China to push the economic development, especially after 1989. The fund from Taiwan invested Mainland China from 1980s to nowadays, and made a very close connection to each other. Now, there are only 17 countries keep official relations with the ROC government, but it is no problem for Taiwanese to travel, trade and study abroad. Because of the strong economic connection with Mainland China, the ROC government should consider how to face the future to keep the balance and benefits.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の事前精読および授業内に示された英語の専門用語の内容を確認し、基本コンセプトの復習を徹底する。

Peruse of references

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じて掲示を行ったり、授業内で指示する。

None

【参考書】

参考書は特に指定しないが、必読文献をレフェレンス・リストとして提示するので事前精読のこと。

Shown as required reading list in advance

【成績評価の方法と基準】

聴講時における参加の積極性（40％）およびディスカッション・セッションにおける討議への貢献度（60％）で評価する。

Continuous assessment based on participation and presentation of Required Reading.

【学生の意見等からの気づき】

not applicable

【その他の重要事項】

上述の通り、本授業は1日2コマ、計5日間の集中講義形態と、半日のワークショップ（4コマ分）で構成する。具体的な実施日時は別途掲示する。なお、本講義は、政治学研究科以外の他研究科等からの聴講も可。

【担当講師の専門分野等】

王文隆（Wen-lung Wang）

台湾生まれ。国立政治大学歴史学部卒業後、同修士・博士課程を修了。博士（歴史学）。中国国民党文化伝播委員会党史館館長などを経て、2018年9月より南開大学（中国）歴史学部准教授。専門は中華民国外交史、中華民国教育史および蒋介石研究。

【Outline and objectives】

This course provides graduate and under-graduate students with a survey of the Economic Diplomacy of Taiwan from 1949 in which the Government of Republic of China(ROC) moved to Taiwan to nowadays. We shall review the trend of the development and crisis of the ROC government under the reconsideration of the international situation from the cold war to the post-cold war. Our focus will be on the economic diplomacy and the strategy of the ROC.

POL600A4-2401

開発援助運営論：JICA 講座

弓削 昭子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「実践講座クラスター」（現実とのダイアログを目的とした科目群）のひとつとして設置されている本講座は、日本の政府開発援助（ODA）を実施する「国際協力機構（JICA）」の業務と開発援助の主要課題について、JICA 現役職員がオムニバス方式で講義するものである。この講義では、開発途上国が抱える諸問題と、それらに対する国際開発援助の役割と活動について日本政府 ODA と JICA 事業を中心に学ぶ。国際開発援助の在り方、種類、課題について、さらに日本の ODA の特徴についての理解も深める。

【到達目標】

開発途上国の諸問題と国際開発援助、特に日本の ODA と JICA 事業の役割と活動についての知識を身に付ける。また、開発援助の主要課題と問題解決手法について、そして JICA の事業実施におけるさまざまなパートナーとの連携についても理解を深める。この授業を履修することで、地球規模や開発途上国の諸問題に対する観察力と分析力を高めることを目指す。そして、日本の ODA と JICA 事業の在り方について考え、自分なりの意見を持ち、提示できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 授業の進め方：毎回異なる講師によるオムニバス形式の授業である。このため、講義ごとにテーマや説明内容が完結する。
2. 授業の方法：毎回の授業（100分）はゲスト・スピーカーによる講義（70分）と質疑応答（30分）で展開する。このため、質問・コメントしたい学生は、予め発言内容を準備しておくことが望ましい。
3. 授業計画：秋学期初回の授業において、「2019年度授業計画」（ゲスト・スピーカー講義日程表）を配布・説明するので、必ず出席すること。ちなみに、2018年度に開講した本講座内容は次のとおりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	序論1	開発援助政策論
第2回	JICA の業務内容	JICA 職員による講義と質疑応答
第3回	日本型援助とは何か、それはどこから来たのか、どこへ行くのか？	同上
第4回	人間の安全保障とラオス・カンボジアにおける開発協力	同上
第5回	インド援助の現状と課題	同上
第6回	サブサハラ・アフリカ援助の現状と課題	同上
第7回	有償資金協力における債務管理・国際契約管理	同上
第8回	日本の ODA 事業における企業との連携	同上
第9回	平和構築支援	同上
第10回	JICA のボランティア事業（含む青年海外協力隊）	同上
第11回	援助事業評価	同上
第12回	JICA が求める人材と仕事	同上
第13回	新興ドナーの台頭は既存援助秩序を塗り替えるか？	同上
第14回	総括	学生プレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布資料、参考文献、その他授業内で提示された内容にもとづく学習。
2. 各自研究テーマへのフィードバック。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。ただし、講義に先立ち、「JICA 年報」、「JICA 事後評価報告書」および「外務省 ODA・JICA ホームページ」をレビューしておくこと。

【参考書】

・黒崎卓、大塚啓次郎（編著）『これからの日本の国際協力：ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ』日本評論社、2015年
 ・勝間靖（編著）『テキスト 国際開発論、貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2012年

・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして』jfUNU レクチャー・シリーズ 10、国際書院、2018年
 ・後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』〈シリーズ国際開発：第4巻〉日本評論社、2005年
 ・佐藤寛（監修）、国際開発学会『国際協力用語集』〈第4版〉、国際開発ジャーナル社、2014年
 ・下村泰民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力—その新しい潮流』有斐閣、2009年
 ・西垣昭・下村泰民・辻一人『開発援助の経済学—共生の世界と日本の ODA』第四版：有斐閣、2009年
 ・OECD, Development Cooperation Report 2016 : The Sustainable Development Goals as Business Opportunities, OECD Publishing, 2016
 ・OECD, Development Cooperation Peer Reviews, Japan 2014, OECD, 2014
 ・OECD, Making Development Cooperation More Effective: Progress Report 2016, Global Partnership for Effective Development Cooperation, 2016
 ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発言、討論への参加・貢献度）（40%）、およびプレゼンテーションとレポート（A4サイズ、5枚）（60%）に基づいて評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

国際開発と平和構築、国際機構論

【Outline and objectives】

The aim of this course is to deepen understanding of the role and activities of Japan International Cooperation Agency (JICA), which undertakes Japan's ODA activities. The lectures will be delivered by various JICA staff on topics including: characteristics of Japan's ODA, JICA's role and main activities, human security, peace building, partnership with the private sector, volunteer activities including Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV), evaluation of development cooperation activities, role of emerging donors, and other areas.

POL600A4-2403

総合講座・外交総合講座

本多 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO からの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の授業に、政府の実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO から有識者を招いて講義していただき、質疑応答の場も持つことによって、政府間関係だけではなく広義の「外交」の最前線への理解を促す。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出をもらう。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは多少変更する可能性あり。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対米外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対欧外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	日本の対 UN 外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	メディアから見た日本の外交①	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	メディアから見た日本の外交②	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本の民間外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	核軍縮と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	移民と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	人権と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
13	開発と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	環境問題と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業後には支援システムを利用して課題の提出を必ず行うこと。詳しくは初回の授業で説明する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と課題の提出（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

課題提出の締め切りに時間の余裕を持たせる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

各回の授業で講義していただくゲストスピーカーには、外務省など省庁で外交を動かす立場にある実務家のほか、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった越境的な諸問題について国際機関で取り組む実務家、日本の外交を第三者的立場から分析するジャーナリスト、各分野の有識者などを含む。講義だけでなく、受講者と質疑応答の場を持つことによって、政府間関係だけではなく広義の「外交」の最前線への理解を促す。

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

アジア太平洋地域の安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、「Complex Emergencies and Humanitarian Response」(Union Press, 2018)、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（編著）（2012年、勁草書房）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（2013年、国際書院）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（2012年、勁草書房）（2012年、勁草書房）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『人間の安全保障』に向けた東南アジアの現在と課題』（2016年、明石書店）、「The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,」 East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (2010, Japan Association for United Nations Studies) などがある。

【Outline and objectives】

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

